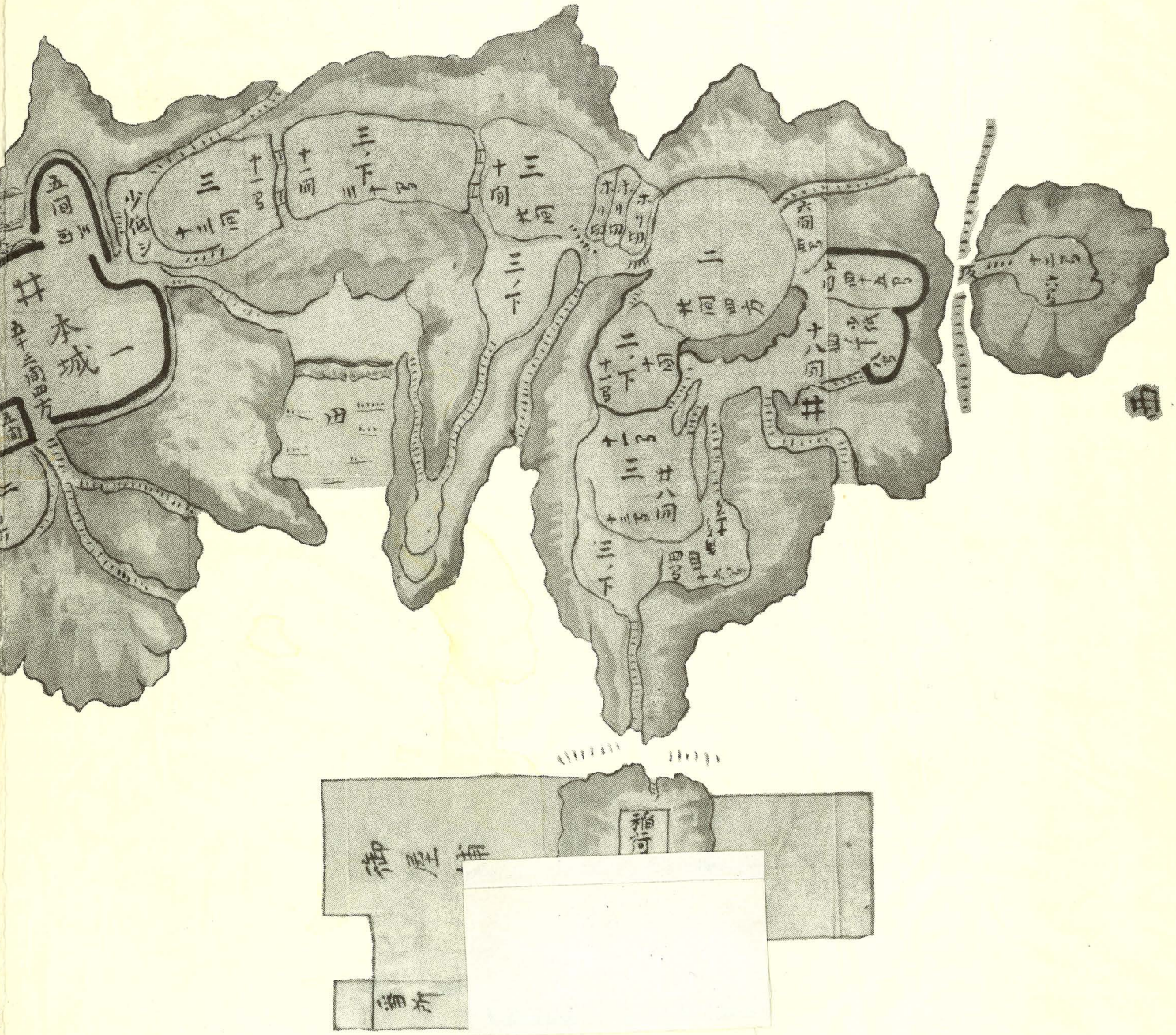
高知市文化財調査報告書第４集

高知市の城跡



昭和59年2月29日

高知市教育委員会

表紙　浦戸古城の図
（高知市民図書館蔵）

題字　岡崎六泉

はじめに

高知市域内には、約１００ヶ所の遺跡の所在が知られていますが、城跡としてのそれは１４ヶ所でありました。この数は古文献等にみられる城跡数をかなり下回っており、所在が確認できない為に一部欠落していたことがその原因でもあったのです。

今回の調査目的のひとつは、市全域の踏査によってこの欠落部分を補い、より完全な城跡分布状況を把握することにありました。ふたつめは、近年の開発によるものに限らず近世以降の開墾や植林によって既に破壊されてしまった城跡をも含めて、今日の姿を全て明らかにすることでありました。

調査の結果、消滅した城跡も多くあるものの、築城以来４００年以上を経た現在もなお原形をかなりの程度でとどめているものもあることが判明いたしました。また、多くの城跡から遺物を表面採取することができました。調査の概要をこの報告書でご紹介いたしますが、調査目的は十二分に達成されたものと思います。

なお、全国的にみましても、特定の城跡の測量や発掘調査あるいは遺構図作成を省略した分布調査は数多く実施されているものの、今回のこの種の全面的調査は殆んどないのが実状です。そういう意味でも大きな価値があるものと考えております。

この調査は、岡本健児、前田和男、宅間一之、大原純一の諸先生のご尽力により、はじめて可能となったものであり、厚くお礼を申し上げます。この調査結果を高知市の今後の文化財保護行政・史跡保護行政の基本資料として生かすとともに、歴史を研究されている方あるいは学校等におかれまして、基本資料あるいは教材として大いに活用されることを念じております。

昭和59年2月29日

高知市教育長　　山　本　準　一

例　　言

1. 本書は高知市教育委員会が昭和５７年度に実施した高知市に所在する中世城跡分布調査の報告書である。

2. 調査は下記の調査委員会が実施した。

委員長	岡本健児	（高知女子大教授 高知市文化財保護審議会会長 高知県文化財保護審議会委員　）
副委員長	前田和男	（高知県立高知追手前高等学校教諭 高知県文化財保護審議会委員　）
調査員	宅間一之	（高知県教育委員会文化振興課社会教育主事　）
調査員	大原純一	（高知県文化財保護指導員　）

3. 本書の執筆及び写真は調査委員全員が分担し、略測図の作成は 大原純一 が担当、編集は 宅間一之 と 江口　浩 があたった。

4. 地図上の番号は本文城跡の番号と一致する。

目　　次

はじめに
例　　言
序 …… 1
Ⅰ　城跡分布図 …… 2
1. 朝倉北部 …… 2
2. 初月、旭、鴨田、朝倉南部 …… 3
3. 秦、高知街、潮江、一宮西部 …… 4
4. 横浜・長浜 …… 5
5. 三里・浦戸 …… 6
6. 一宮東部、布師田、大津、介良 …… 7

Ⅱ　城跡の概要 …… 12
1. 行川城（大黒城） …… 12
2. 長畝城（城ヶ森・一宿城・一夜城） …… 18
3. 朝倉城（重松城） …… 21
4. 神森城 …… 28
5. 福井別城 …… 32
6. 杓田城 …… 34
7. 鵜来巣城 …… 37
8. 恵美城 …… 39
9. 鴨部城 …… 42
10. 万々城 …… 44
11. 嘉武保宇城（寒方城・寒防城） …… 48
12. 福井西城 …… 50
13. 福井中城 …… 51
14. 福井元尾城 …… 54
15. 井口城 …… 56
16. 神田旧城 …… 59
17. 石立城 …… 60
18. 神田南城（神田城） …… 62
19. 鷲尾城 …… 66
20. 横浜城（水口城） …… 68
21. 長浜城 …… 71
22. 種崎城 …… 74
23. 浦戸城 …… 75
24. 三谷城 …… 79
25. 秦泉寺別城 …… 81
26. 安楽寺山城（久万城） …… 84
27. 大高坂城 …… 88
28. 潮江城 …… 90
29. 秦泉寺城 …… 93
30. 前里城 …… 97
31. 国沢城 …… 99
32. 薊野城 …… 100
33. 一宮別城 …… 103
34. 一宮城 …… 104
35. 田部島城 …… 107
36. 鎌島城 …… 110
37. 花熊城（介良城・横山城） …… 111
38. 池城 …… 115
39. 布師田金山城 …… 118
40. 布師田八頭城 …… 122
41. 大津城（天竺城） …… 124
42. 久礼野城 …… 128
円行寺城 …… 132
尾立城 …… 133

序

高知市内の城跡、それも主として中世山城の分布調査を高知市教育委員会の昭和５７年度の事業として実施した。その結果、その所在を確認し、しかも城郭の遺構をも探知出来得たものは４２個所に及ぶ。筆者が調査前に推定していた山城数を遙かに越えるものである。

高知市は県内唯一の中心的大都市として発展しつつあるが、まだ中世山城はその大半が姿を消さず残存していたという事ができる。しかし、高知県における古城研究の名著『土佐国古城略史』に掲げる高知市の山城で、今回の調査によって、すでに明確に城郭の遺構の大半が亡失したとみられるものも確認する事ができた。一宮城・円行寺城・媛ケ峰城しかりである。

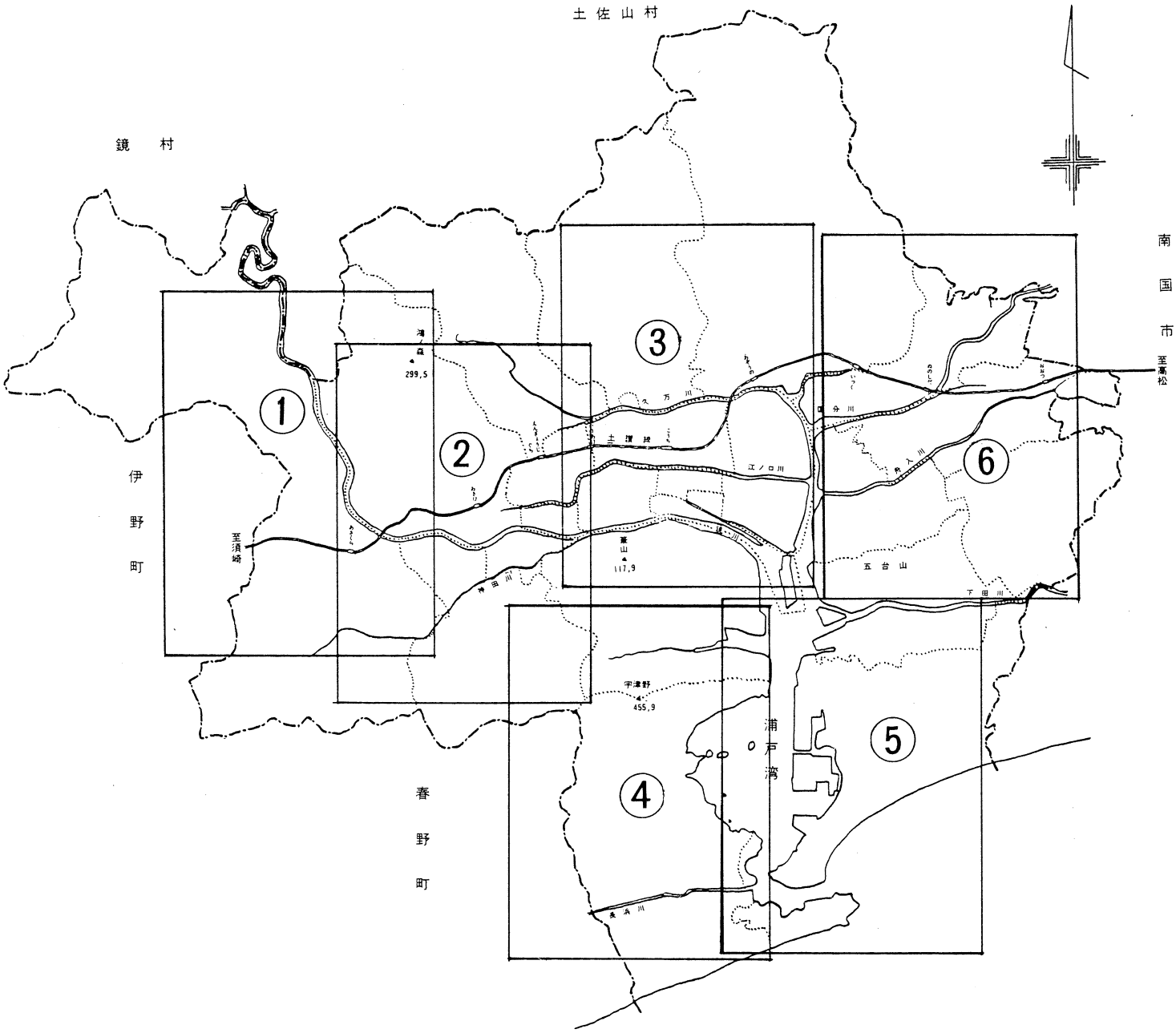
『古城略史』に勝る土佐の城郭研究書として『日本城郭大系１５』がある。これに記された以上の調査結果を残すには、新しい調査方法が要求される。今回の市教委の実施した調査の目玉たり得るものは、中世山城の所在確認、さらにその上に立って山城の測図の作製、そして山城の地表に散布する遺物の採集にある。特に今回の調査で調査委員会が自負し得るものは、測図を作製した事であろう。中世山城には詰ノ段があり、さらに二ノ段、そして時に三ノ段を持つものがある。それらに付随する土塁、さらにそれらを囲む堀切、竪堀等の配置もみられる。また特定の城郭には井戸も所在する。これら厳密な測図を作ったゆえに、県内10個所程度発掘した山城を併せ考える事によって、筆者等は発掘をせずに個々の中世山城の縄張や構築の在り方を類推する事ができるようになった。真に学問的に有難い事である。

この調査によって、高知市の中世山城は全て埋蔵文化財包蔵地の対象たり得る。また、この報告書を基礎として、土塁や詰ノ段、あるいは竪堀・堀切等の遺構の残存の良好なものは史跡としての保護も必要となろう。この方面での活用を切に願いたい。

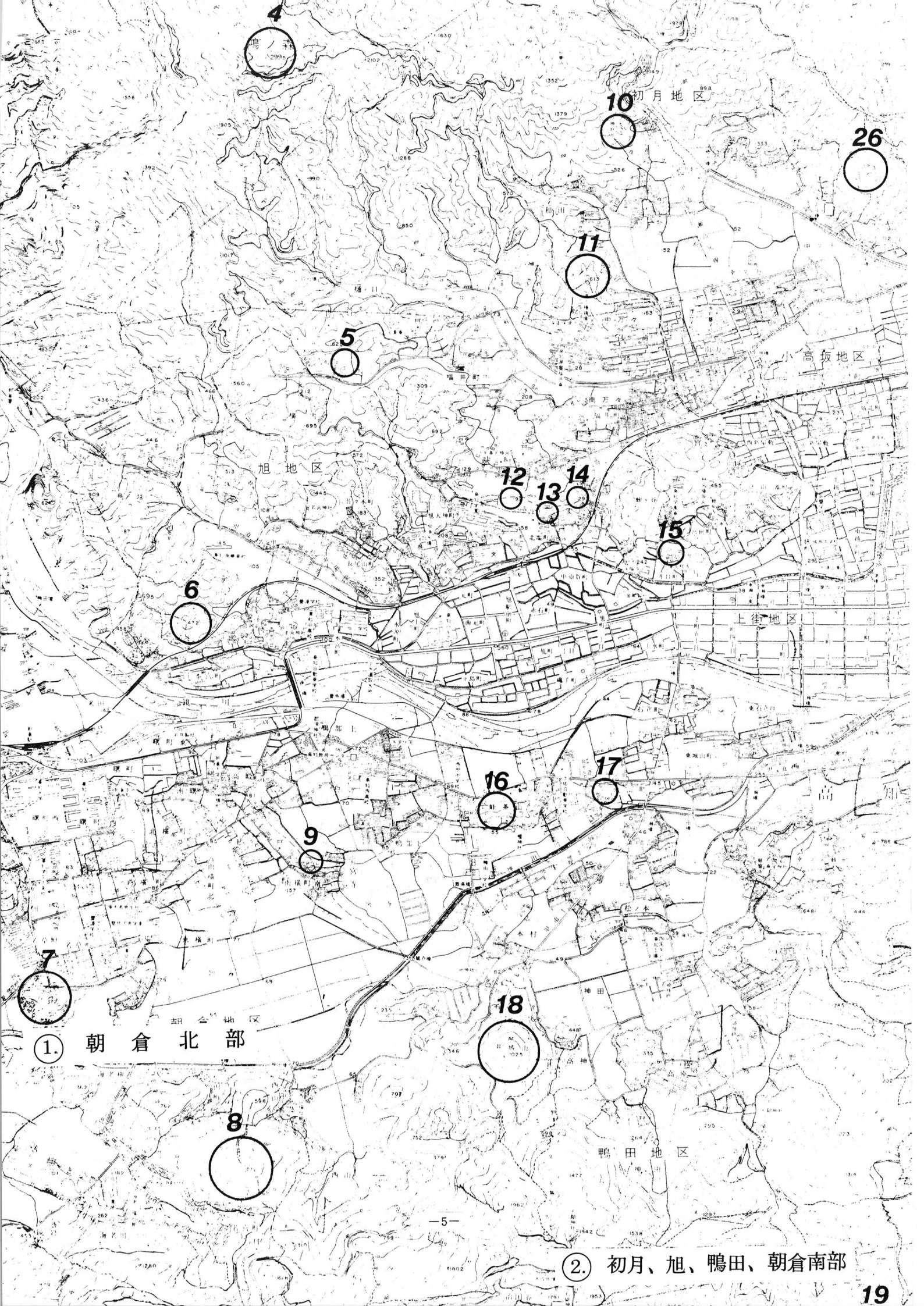
高知市文化財保護審議会

会　長　　岡　本　健　児

Ⅰ 城跡分布図

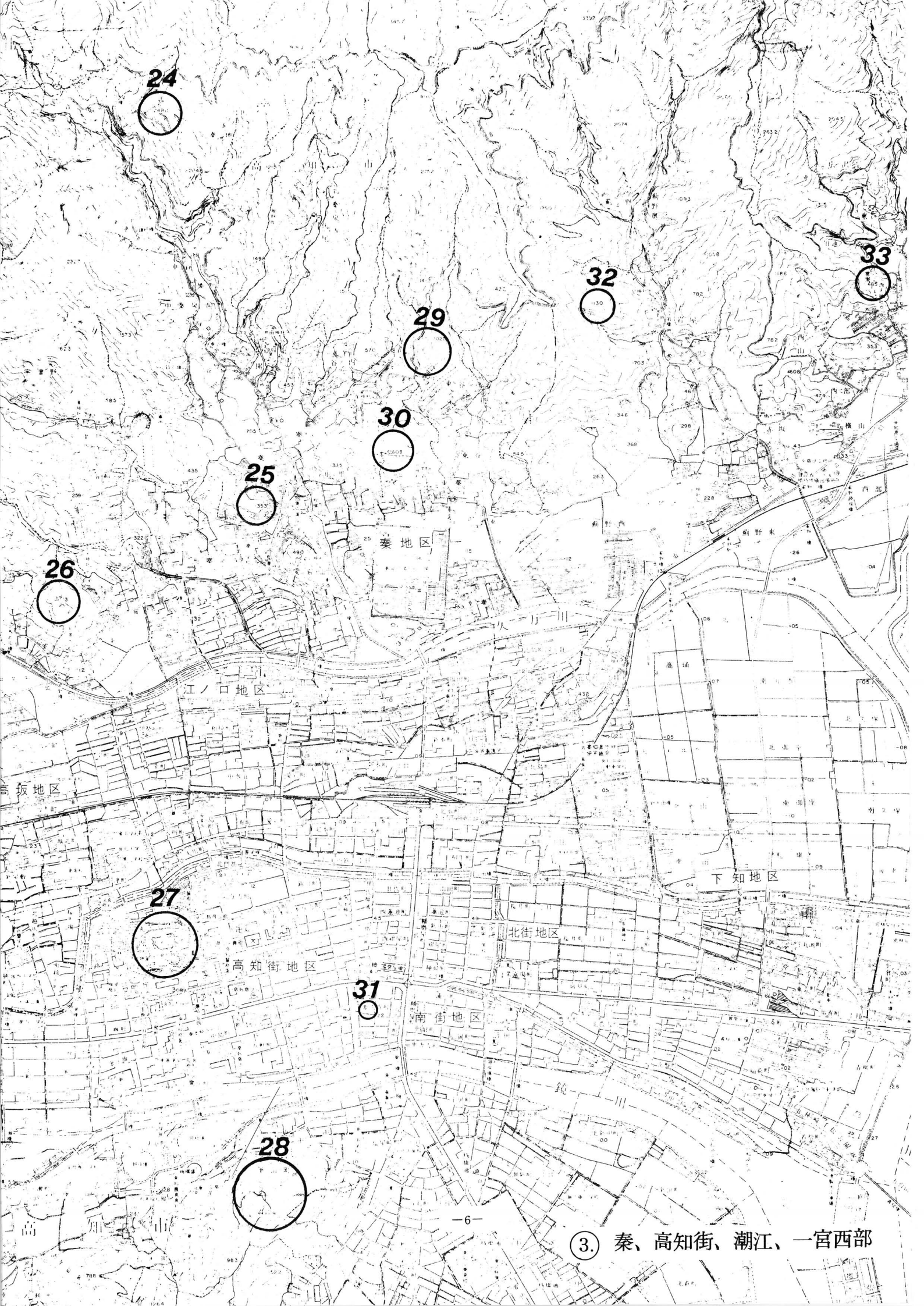


① 朝倉北部



① 朝倉北部

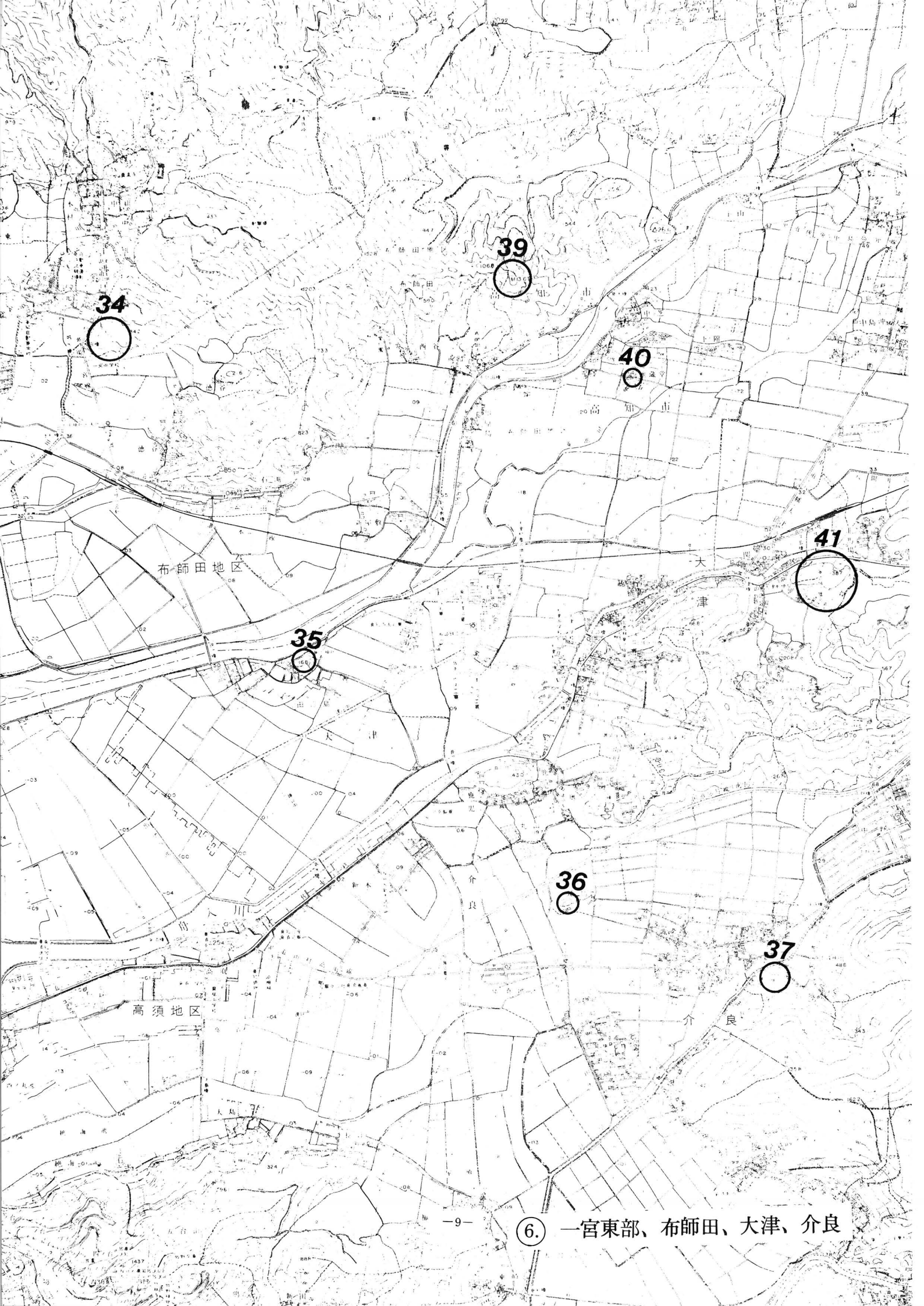
② 初月、旭、鴨田、朝倉南部



③. 秦、高知街、潮江、一宮西部

④. 横浜・長浜

⑤. 三里・浦戸

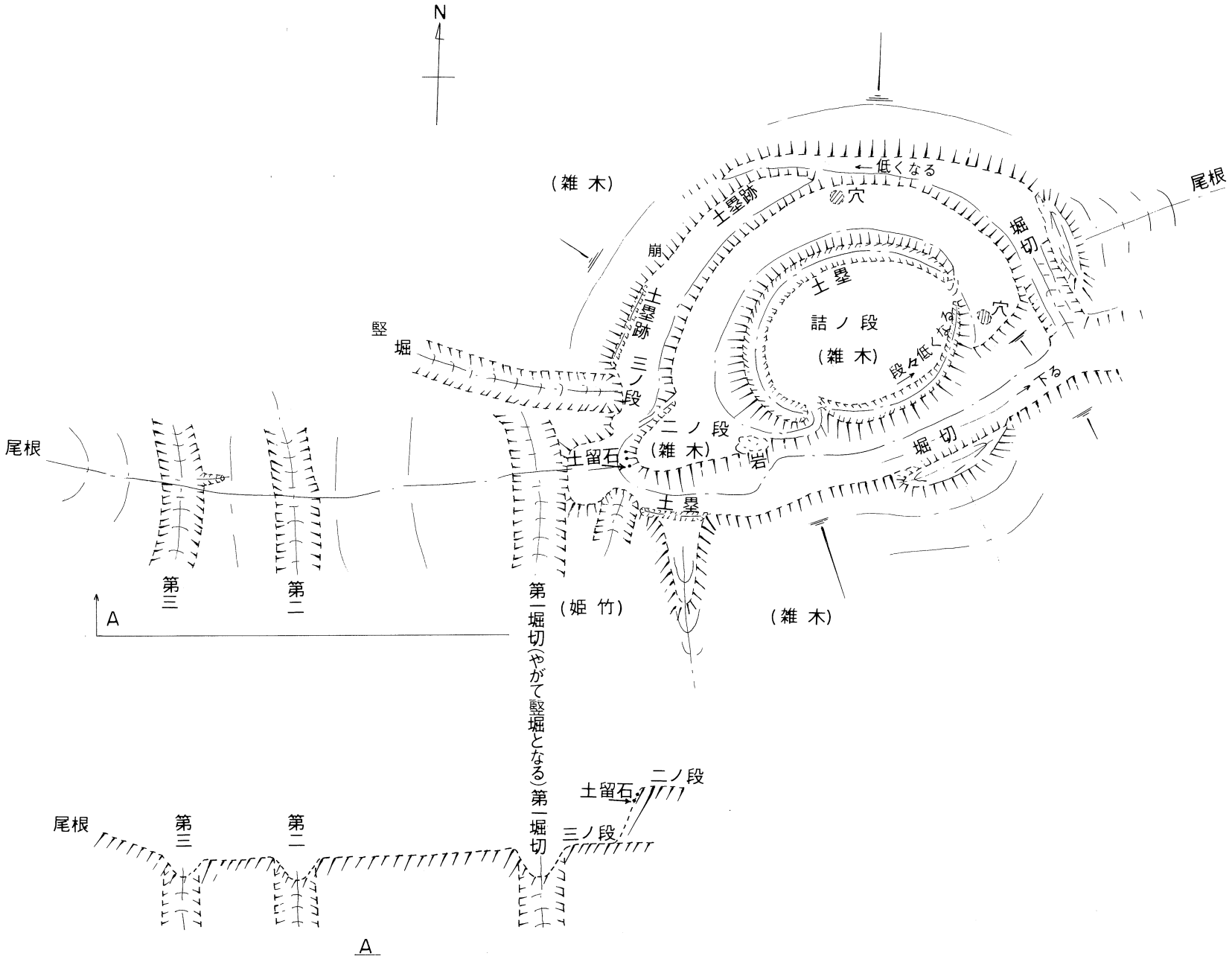


⑥. 一宮東部、布師田、大津、介良

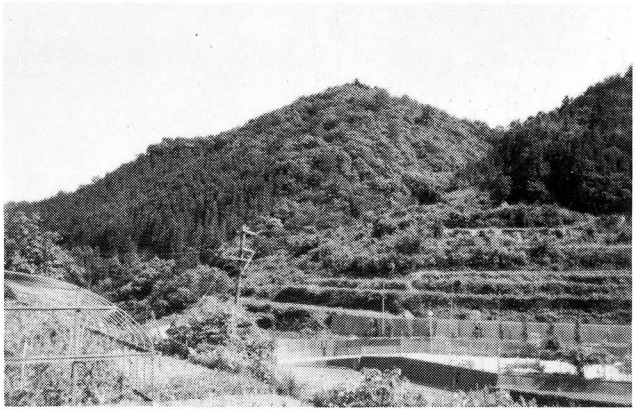
Ⅱ　城　跡　の　概　要

名　　称	1. 行　川　城　（大黒城）	
所　在　地	高知市行川城山	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林
	保　存　度	良
遺構の特色	詰ノ段は周囲を土塁がとり巻いており、南側と東側が切れて出入口となっている。二の段の西端には土留の石積が残り、三の段は尾根筋の東に一条西に三条の堀切を残し、北西下に一条の竪堀が長く谷までのびている。	
そ　の　他	南山腹下に本宮様という神社跡があって削平されている。学校の西方上に土居屋敷、又この東側に的場の小字が残っている。手箱山から高知城下迄氷を運んだという雪道と同じと思われる往還がすぐ近くを通っている。城の門柱石を行川の忠霊塔に持って来てあったというが現在は不明。この城跡南下の本宮様は周辺16部落の総氏神であったが、戦後行川氏神様に合祀した。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史	昔楓会（昭10）土佐史談会（昭51）
	橋詰延寿他　日本城郭全集 13	人物往来社　（昭42）
	山本　大他　日本城郭大系 15	新人物往来社　（昭54）
	高知県史上	高知県史編纂会　（昭26）
	土佐国古城記　（天保13）	高知県立図書館
	土佐遺語　巻 1	前田和男　（昭47）
	土佐州郡志　巻19	宅間一之　（昭40）
	南路志　闔国之部　巻 714	高知県文教協会　（昭34）
	染付（明代）・青磁・土師質土器・瀬戸焼・備前焼	

行川城跡


N
(雑木)
土塁跡
←低くなる
穴
尾根
堀切
崩
土塁跡
土塁
詰ノ段
(雑木)
段々低くなる
穴
堅
堀
三ノ段
二ノ段
(雑木)
土留石
岩
堀切
→下る
土塁
尾根
第三
第二
A
(姫竹)
(雑木)
第二堀切(やがて堅堀となる)第二堀切
二ノ段
土留石
三ノ段
尾根
第三
第二
A

長畝城跡より



土居屋敷跡より

左　土居屋敷跡、右　的場

詰ノ段追手（北より）

詰ノ段西土塁土留石

詰ノ段西土塁（南より）

詰ノ段南面堀切（西より）

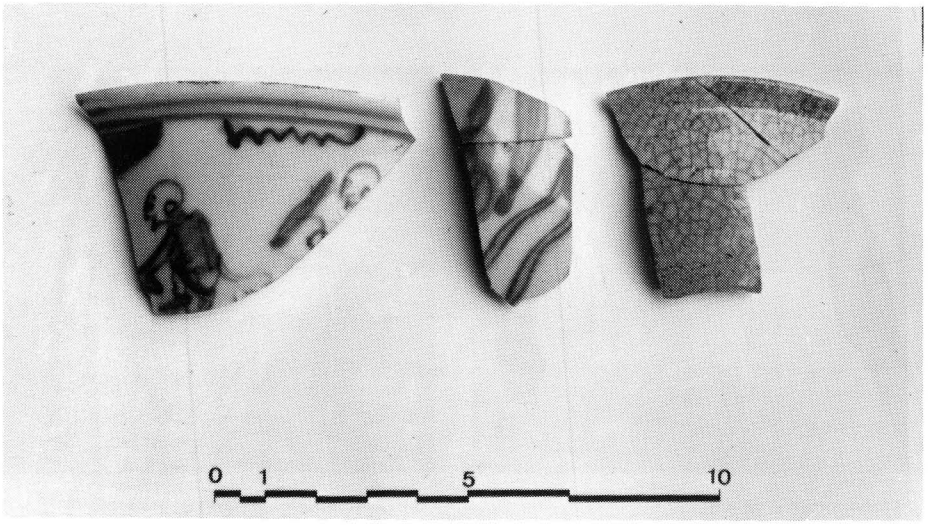
二ノ段東面堀切（下より）

西竪堀（上より）

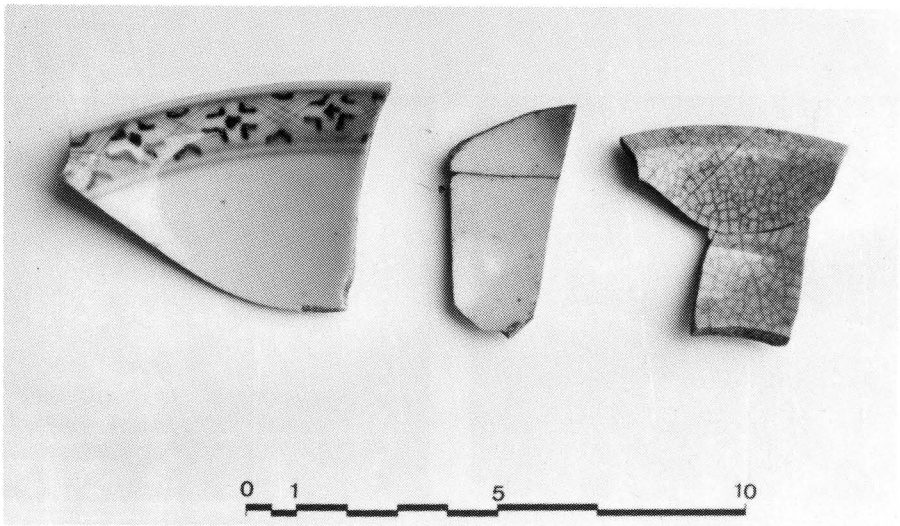
西竪堀（下より）

西尾根に残る第一堀切（北より）

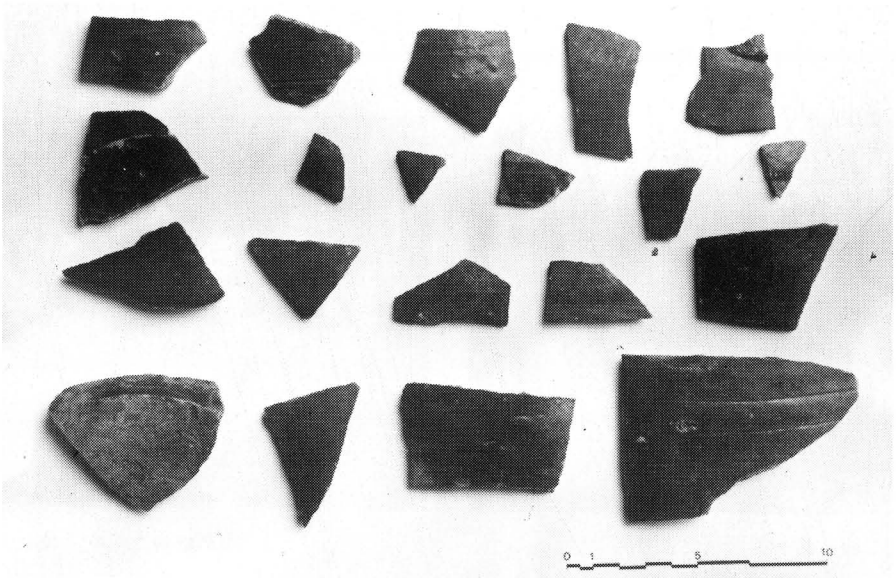
西尾根第二堀切（南より）



染付（外面）・青磁

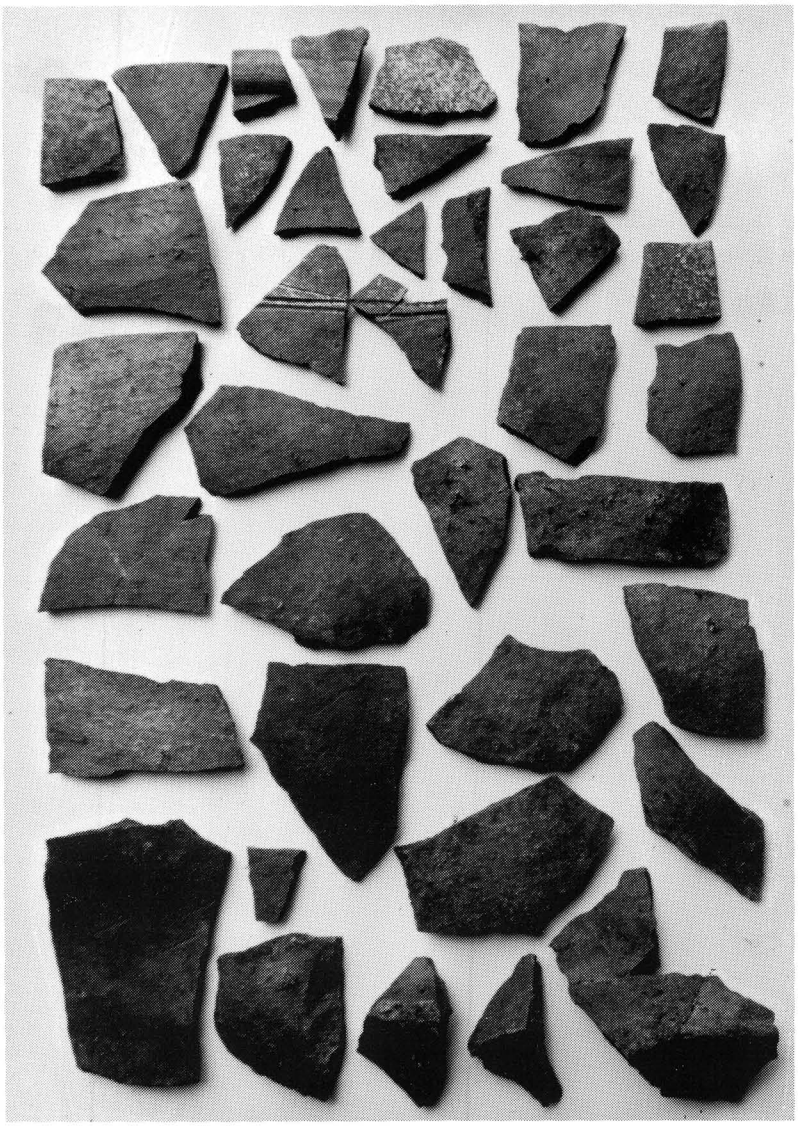


染付（内面）・青磁



瀬　戸　焼

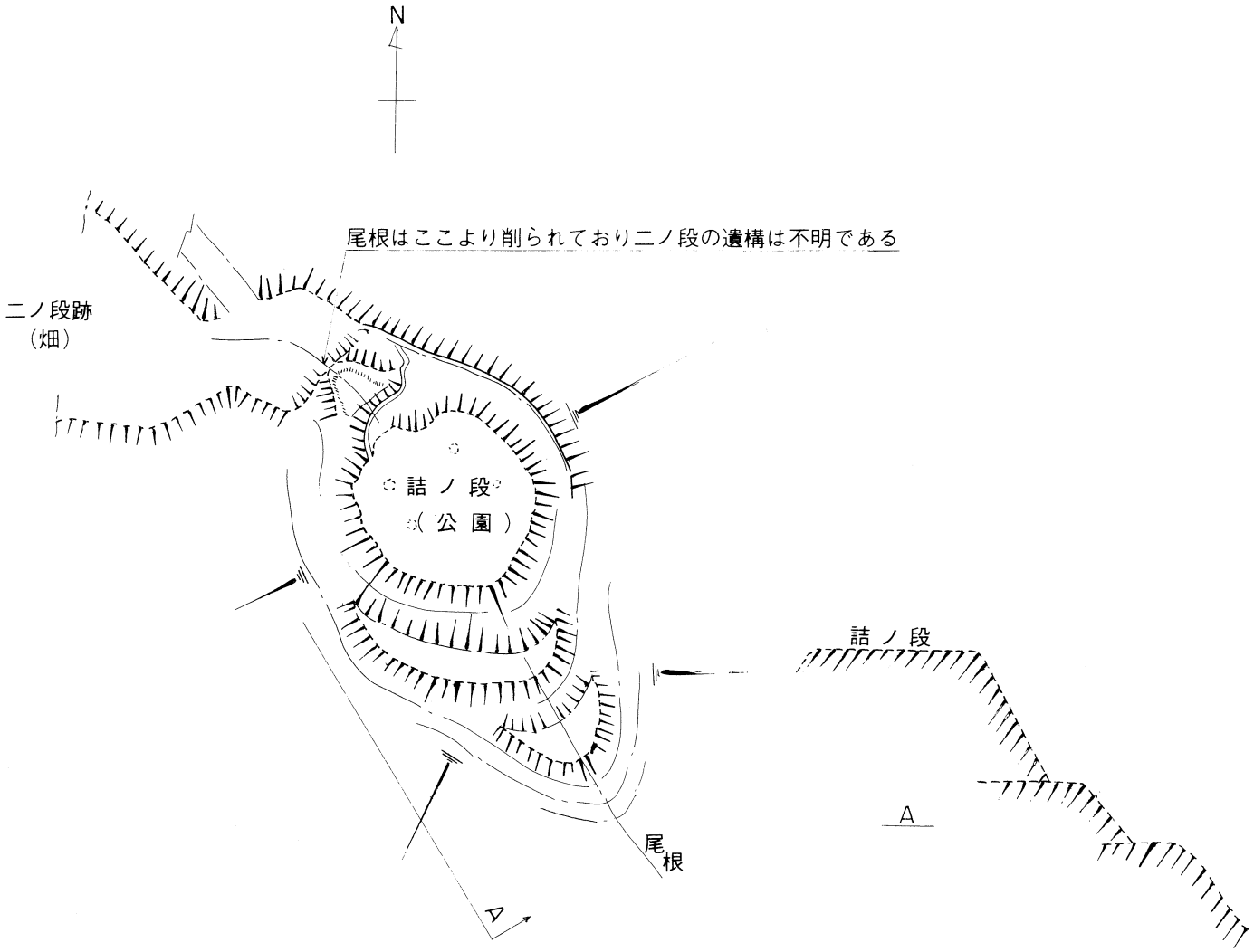
土師質土器

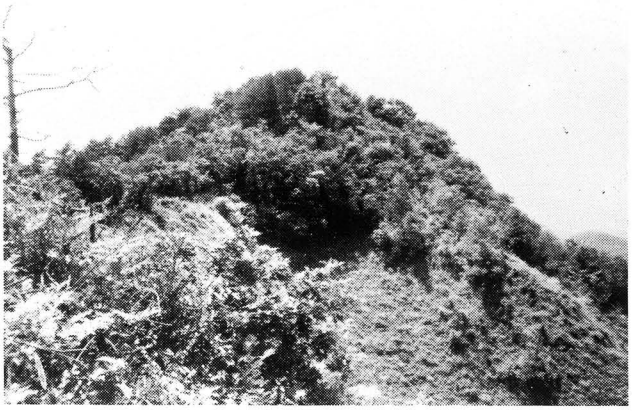


備　前　焼

名　　称	2. 長　　畝　　城（城ケ森・一宿城・一夜城）	
所 在 地	高知市行川	
遺構の状況	現　　状	山頂　公園　畑
	保 存 度	不　良
遺構の特色	詰ノ段に平坦地のみ残る。ほぼ円形に近い11m位の郭である。二の段は畑地に完全に削り取られている。地元では詰ノ段の方を大城、二の段を小城と呼ぶことがある。	
そ の 他	朝倉から本山へ退去の途中この城で一宿した話が残る。すぐ近くに手箱山から高知城下まで氷を運んだといわれる往還道がある。	
関連文献及び資料		

長 畝 城 跡 （城ケ森、一宿城）





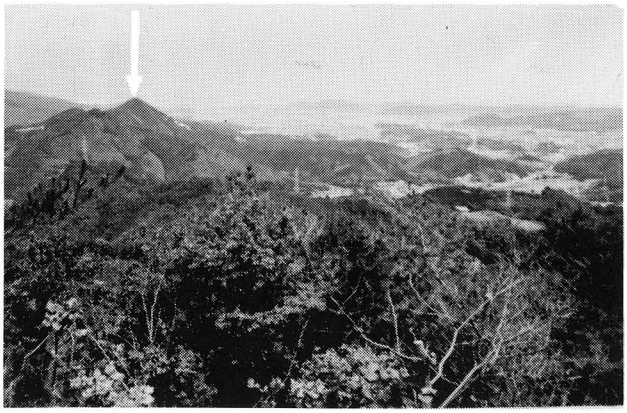
東尾根より

詰ノ段（二ノ段より）

詰ノ段（西より）

詰ノ段（南より）

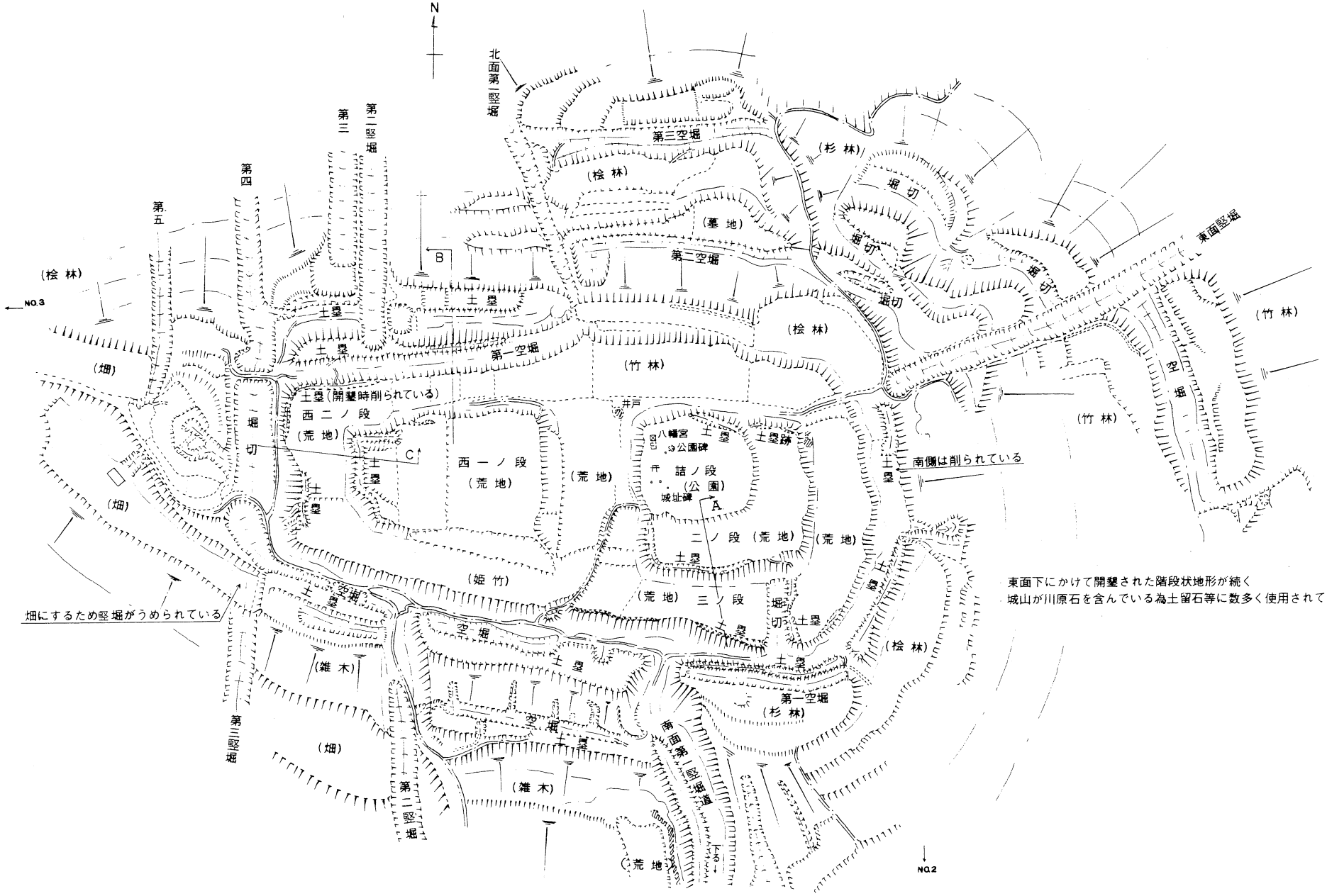
二ノ段（詰ノ段より）



神森（長畝城跡より）

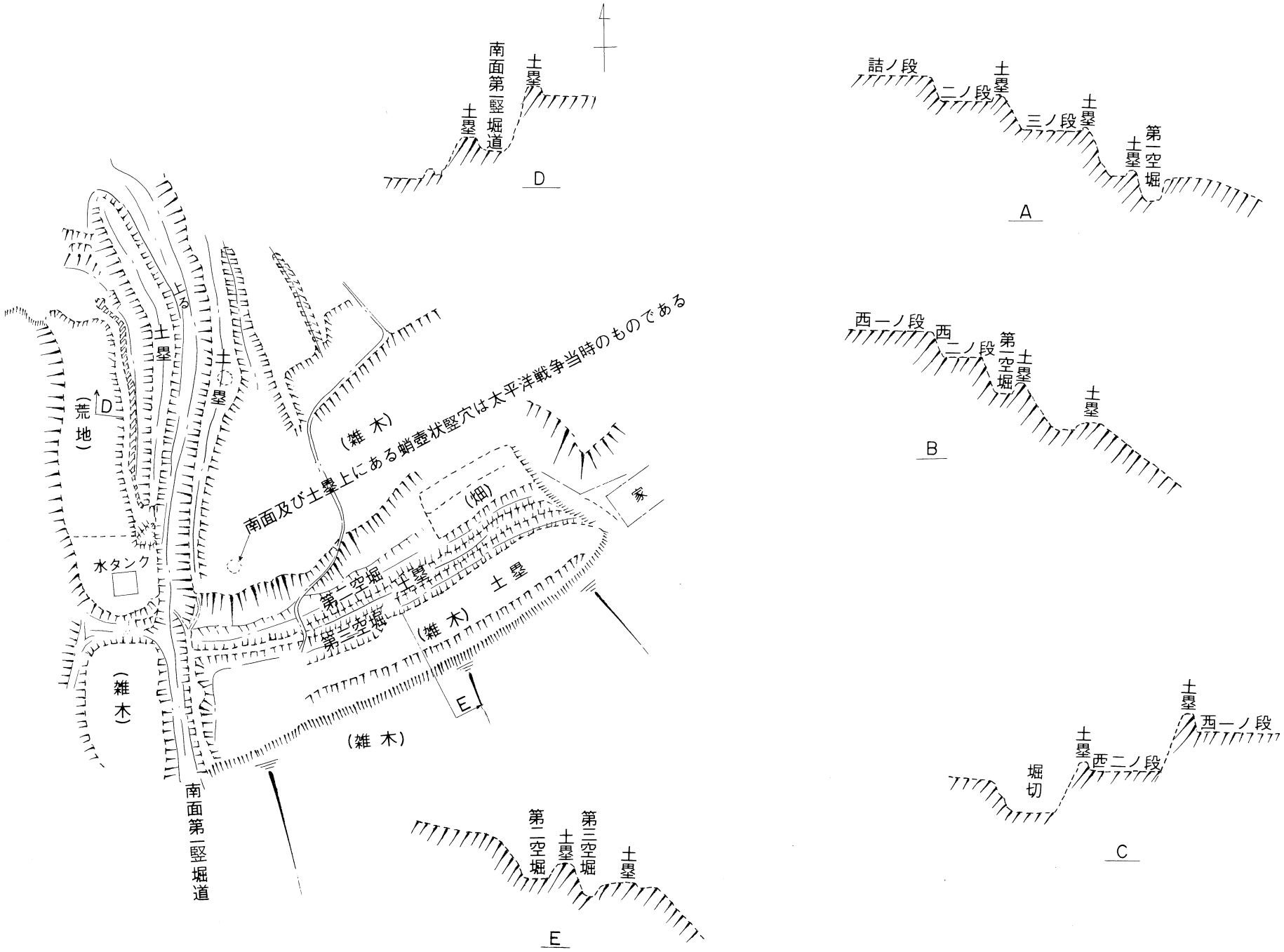
名　　称	3. 朝　倉　城（重松城）	
所 在 地	高知市朝倉城山	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・畑・公園
	保 存 度	やや不良　県指定　　畑地利用・宅地・墓地となり周辺部は道路に削りとられている。
遺構の特色	城詰北西隅に八幡宮が祭られ、その東方にわずかに土塁の一部を残す。おそらく土塁はとりまいていたであろう。詰・西郭を囲むように大きい空堀が二重三重にはしり、竪堀も深く残り大規模な城跡である。詰の北西下には井戸も残存する。 西の出丸の茶臼ヶ森もこの郭を囲むように浅い空堀が残り、北および南には竪堀がはしり、西尾根は堀切で仕切られている。なお西郭および二ノ段・三ノ段等にも土塁がわずかに残っている。	
そ の 他	神田南城と朝倉城の間には古戦場として伝承されるところも多く、現在も田や宅地内に五輪塔や小祠が多く残存する。 伊野町八代に本山海溪の墓と伝承されるものがある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 山本　淳　土佐美術史　高知教育会（昭２）歴史図書（昭55） 高知県史上　高知県史編纂会（昭26） 前田和男　高知県の史跡と文化財　前田和男　（昭45） 高知市の文化財と旧跡　高知市教育委員会（昭54） 高知市史上　高知市　（昭33） 本山町史上　本山町　（昭54） 高知県史古代地編　高知県　（昭46） 西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46） 安岡源一　朝倉城塞と朝倉合戦　「土佐史談」53号 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 土佐古城記　（天保13）　県立図書館 土佐古城伝承記　皆山集２　（昭50） 土佐遺語　巻１・２　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻７、４　高知県文教協会　（昭34） 土佐物語　巻２、４　国史研究会　（大３） 土佐軍記（四国軍記）　巻２　国史研究会（大３）歴史図書（昭51） 元親記上 長元記乾 土佐国編年紀事略　巻５ 朝倉古城跡図　（故吉松清氏蔵） 土佐郡朝倉庄地検帳　天正16年 備前焼	

朝倉城跡 NO.1



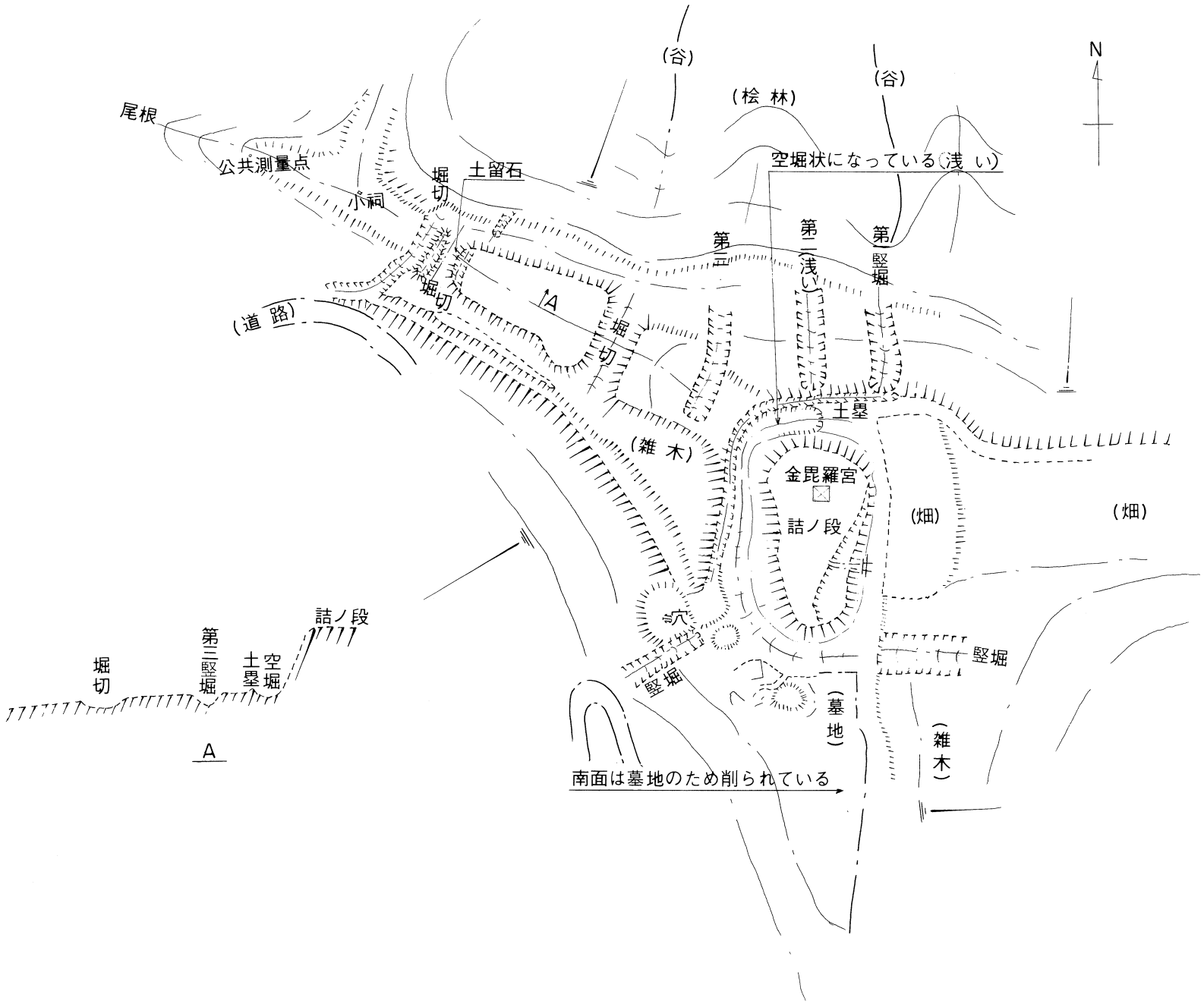
東面下にかけて開墾された階段状地形が続く
城山が川原石を含んでいる為土留石等に数多く使用されている

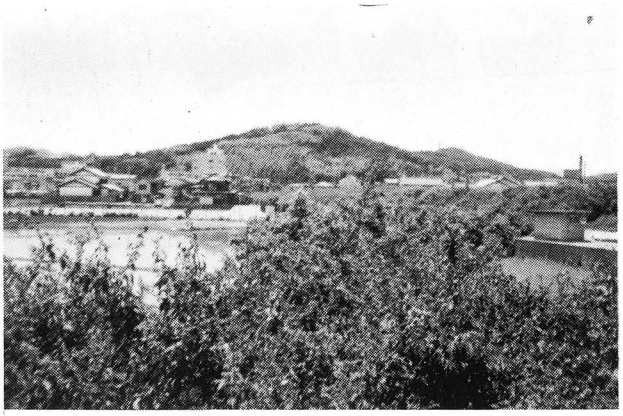
朝倉城跡NO.2



南面第一竪堀道
土塁
土塁
D
詰ノ段
二ノ段
土塁
三ノ段
土塁
土塁
第一空堀
A
西一ノ段
西二ノ段
第一空堀
土塁
土塁
B
土塁
西一ノ段
土塁
西二ノ段
堀切
C
上る
土塁
土塁
(荒地)
D
(雑木)
南面及び土塁上にある蛸壺状竪穴は太平洋戦争当時のものである
(畑)
家
水タンク
第一空堀
土塁
土塁
第二空堀
(雑木)
(雑木)
(雑木)
E
南面第一竪堀道
第二空堀
土塁
第三空堀
土塁
E

朝倉城跡NO.3（西茶臼ケ森）





北　よ　り

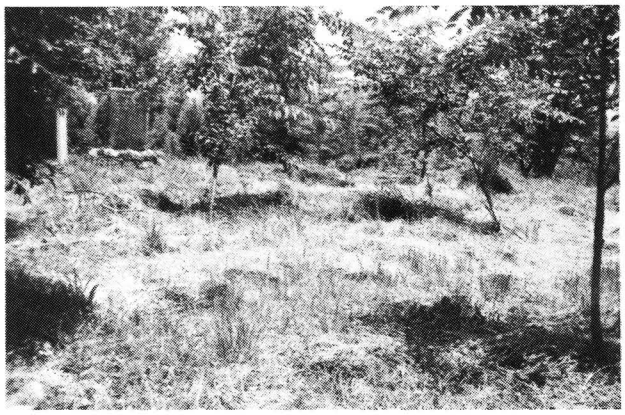
東郭（南より）

南面竪堀道（上より）

南面竪堀道（下より）

東郭南面第１空堀（西より）

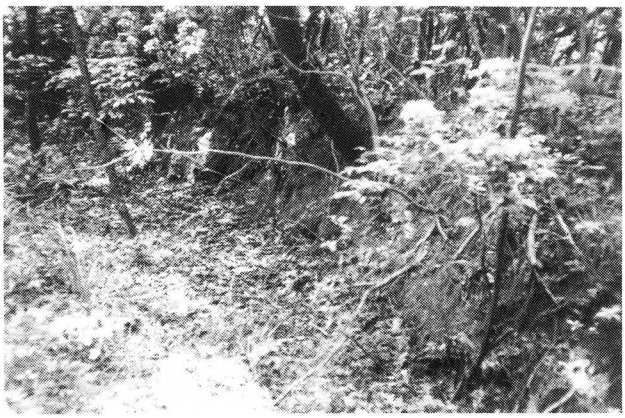
詰ノ段　八幡宮



詰ノ段（南より）

詰、北にわずかに残る土塁

詰北西下の井戸



西郭二ノ段北の土塁

西郭北面第２空堀（西より）

西郭南面竪堀道（上より）

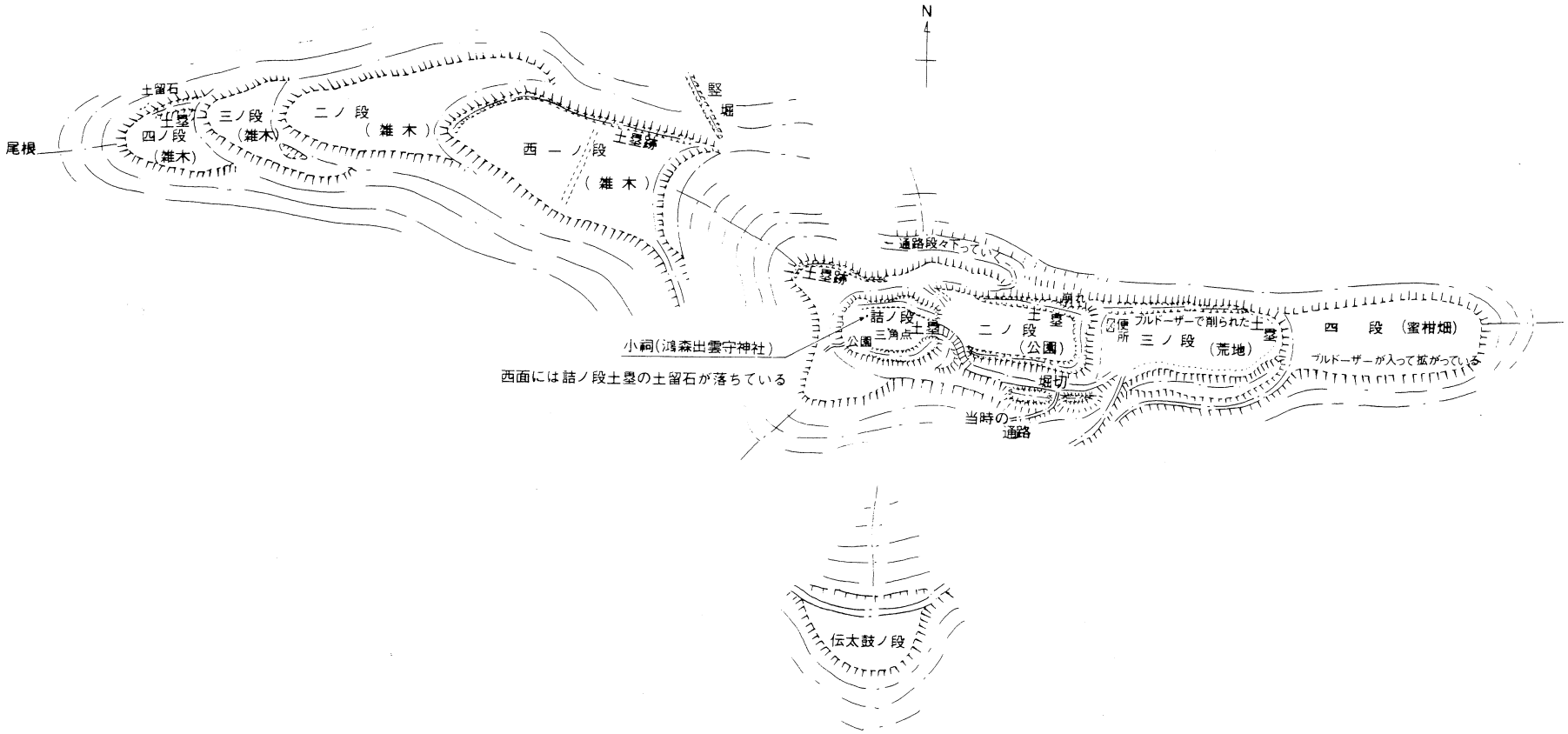
東郭（茶臼ケ森より）

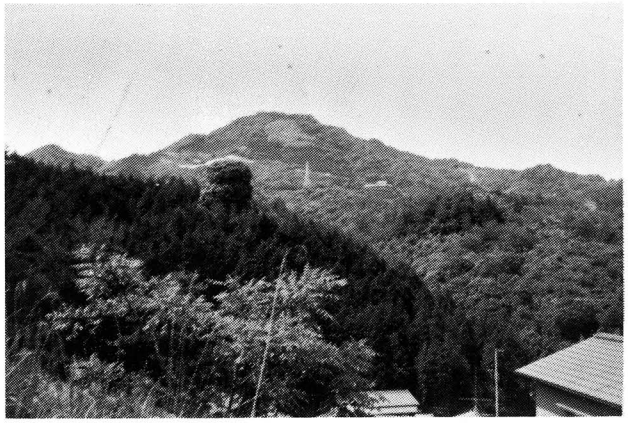
伝・本山梅渓墓全景

備　前　焼

名　　称	4. 神　森　城	
所 在 地	高知市福井	
遺構の状況	現　　状	山頂・公園
	保 存 度	やや不良　詰ノ段は公園となった為か周囲にかすかに土塁跡らしき盛土が残る。そして南斜面はミカン園により大巾に手が加えられている。
遺構の特色	詰ノ段は周囲にかすかに土塁跡らしき盛土が残る。二ノ段には土塁が残る。三の段の北側にも土塁のくずされた残りがある。四ノ段は削平されてミカン畑になっている。詰ノ段の北及び西を囲むように郭がある。西の尾根に出丸の平坦地が4ヶ所程残っている。西ノ段北斜面に一条の竪堀が残っている。	
そ の 他	南山麓に大屋敷の小字があり、そこには出雲守の妻を祀るという落神様の小祠がある。白米城伝説がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 前田和男　神森城と陣ヶ森城　「土佐史談」154号 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐古城伝承記　皆山集 2　（昭50） 土佐遺語　巻1、3　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻7、1　高知県文教協会（昭34） 土佐物語　巻4　国史研究会　（大13） 土佐国編年紀事略　巻5	

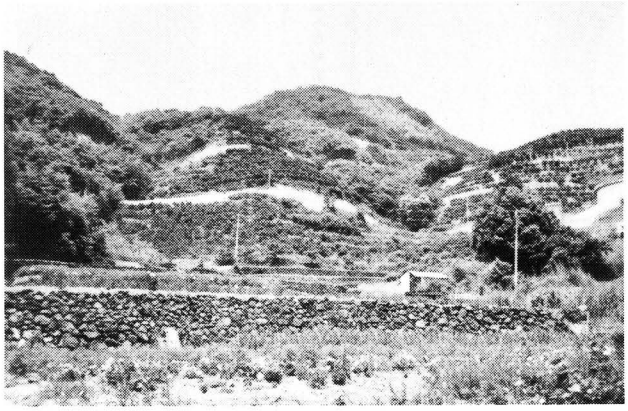
神森城跡


N
土留石
土塁
四ノ段
(雑木)
尾根
三ノ段
(雑木)
二ノ段
(雑木)
西一ノ段
(雑木)
土塁跡
竪堀
二通路段々下っている
土塁跡
詰ノ段
三角点土壇
公園
小祠(鴻森出雲守神社)
西面には詰ノ段土塁の土留石が落ちている
崩れ
土塁
二ノ段
(公園)
便所
ブルドーザーで削られた土塁
三ノ段
(荒地)
堀切
当時の通路
四段
(蜜柑畑)
ブルドーザーが入って拡がっている
伝太鼓ノ段



福井より

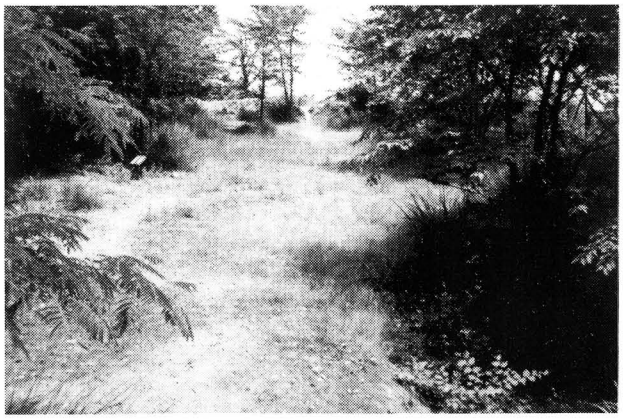
北　　面



大屋敷より

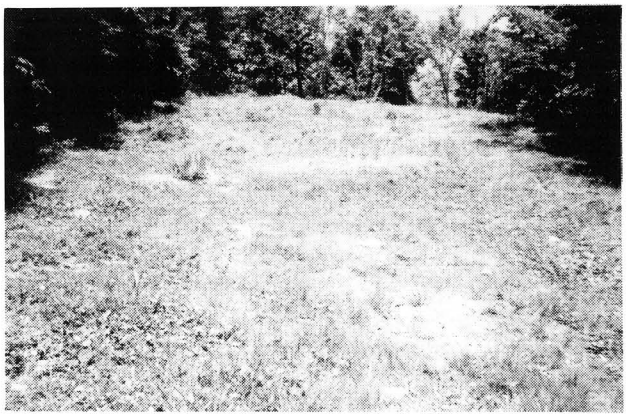
詰ノ段北（東より）

詰ノ段（西より）



二ノ段（西より）

二ノ段土塁（西より）



三ノ段（西より）

西郭二ノ段（東より）

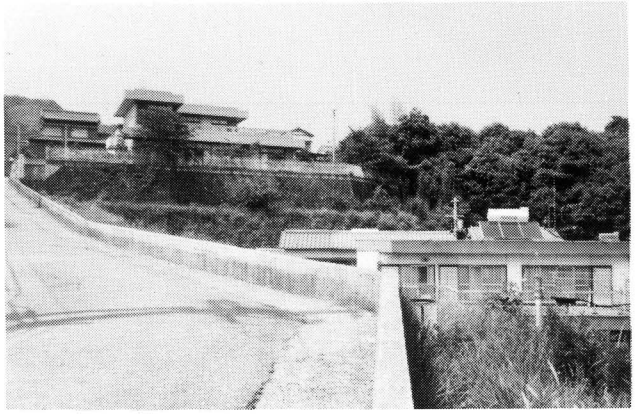
西郭三ノ段北土塁（西より）

西郭三ノ段（南より）

西郭二ノ段（東より）

名　　称	5. 福　井　別　城	
所　在　地	高知市福井町	
遺構の状況	現　　状	山腹　宅地（旭ヶ丘団地）
	保　存　度	消　滅
遺構の特色		
そ　の　他	宅地造成以前には小丘があり、北には空堀（堀切と思われる）が残存していたらしい。また、城の南、三段の城の地名もあったようだ。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40）	

福井別城



現状（南より）

城跡の上附近（東より）

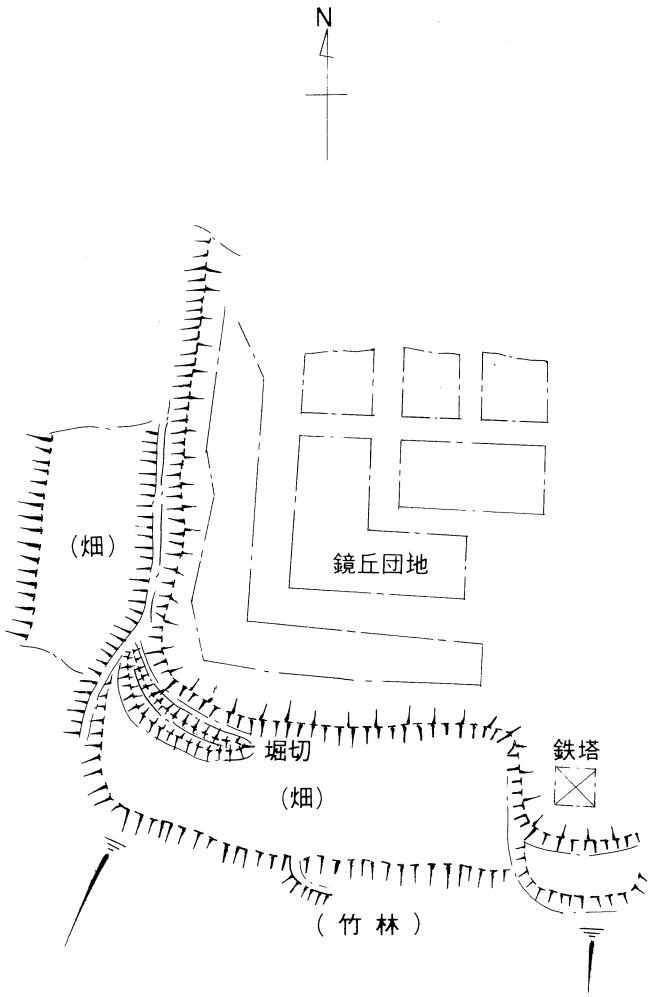
福井西城

城跡の現状

城跡出土の石臼

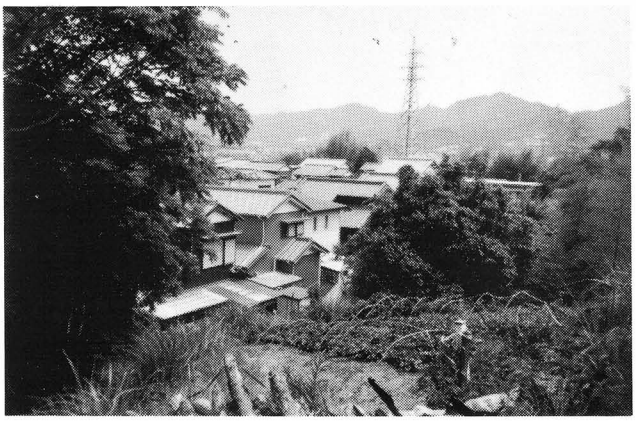
名　　称	6. 杓　田　城	
所 在 地	高知市本宮町	
遺構の状況	現　　状	山腹・宅地　（鏡丘団地）
	保 存 度	消　滅
遺構の特色	宅地造成前にはこの城跡に大黒様という小社があり、本丸跡に土塁や郭が残っていたという。現在は城跡南部にわずかの堀切を残すのみである。	
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会（昭26） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐遺語　巻 1　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻 20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻 7 、3　高知県文教協会（昭34）	

杓田城跡



南　よ　り

西　よ　り



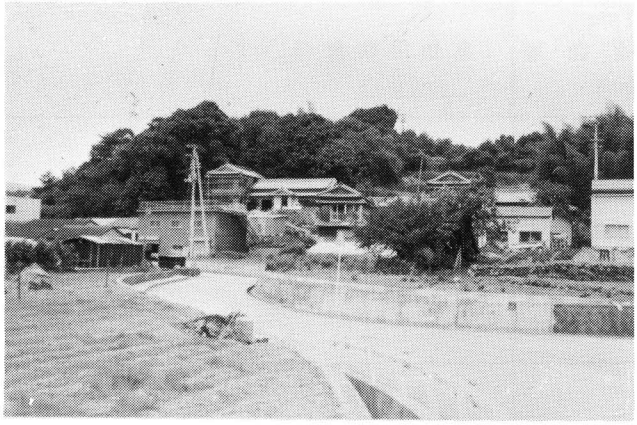
北　よ　り

杓田城跡南面堀切（西より）

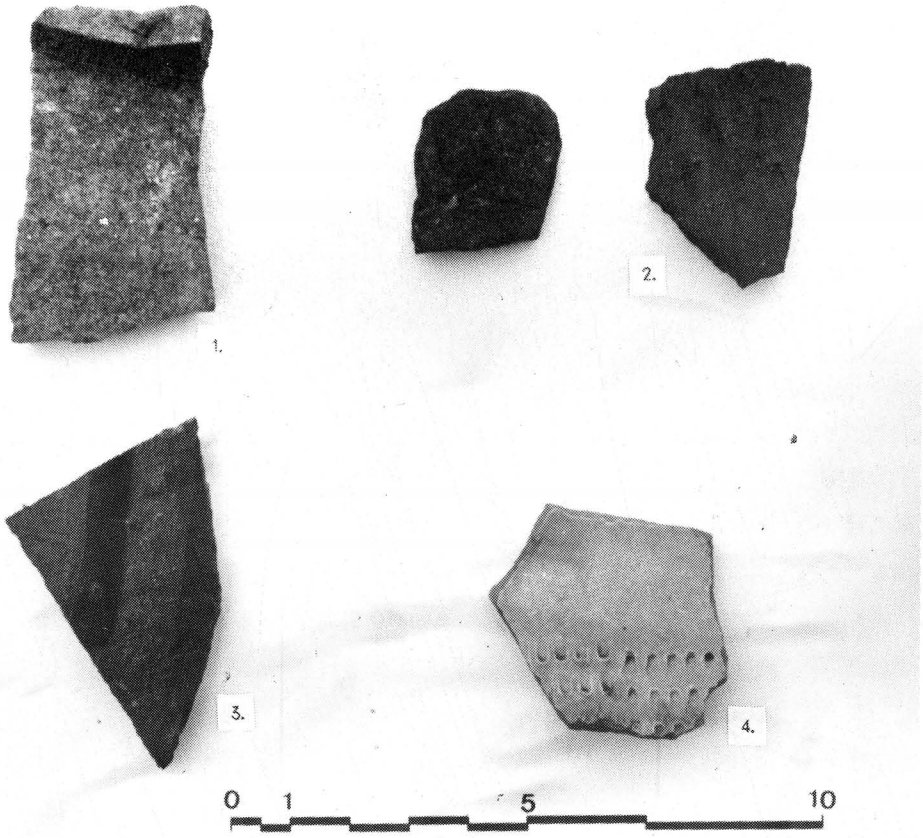
南面堀切（東より）

名　　称	7. 鵜 来 巣 城	
所 在 地	高知市朝倉	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・公園
	保 存 度	消　滅
遺構の特色		
そ の 他	北側が高い山で大木が繁り盤瀬山と称し、斉明天皇の廟所不入山であったと伝えられる。現在公園となり遺構は見当らない。	
関連文献及び資料	宮地森城　日本国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻７、４　高知県文教協会　（昭34） 土佐郡朝倉庄地検帳　天正16年	

南　よ　り



東　よ　り



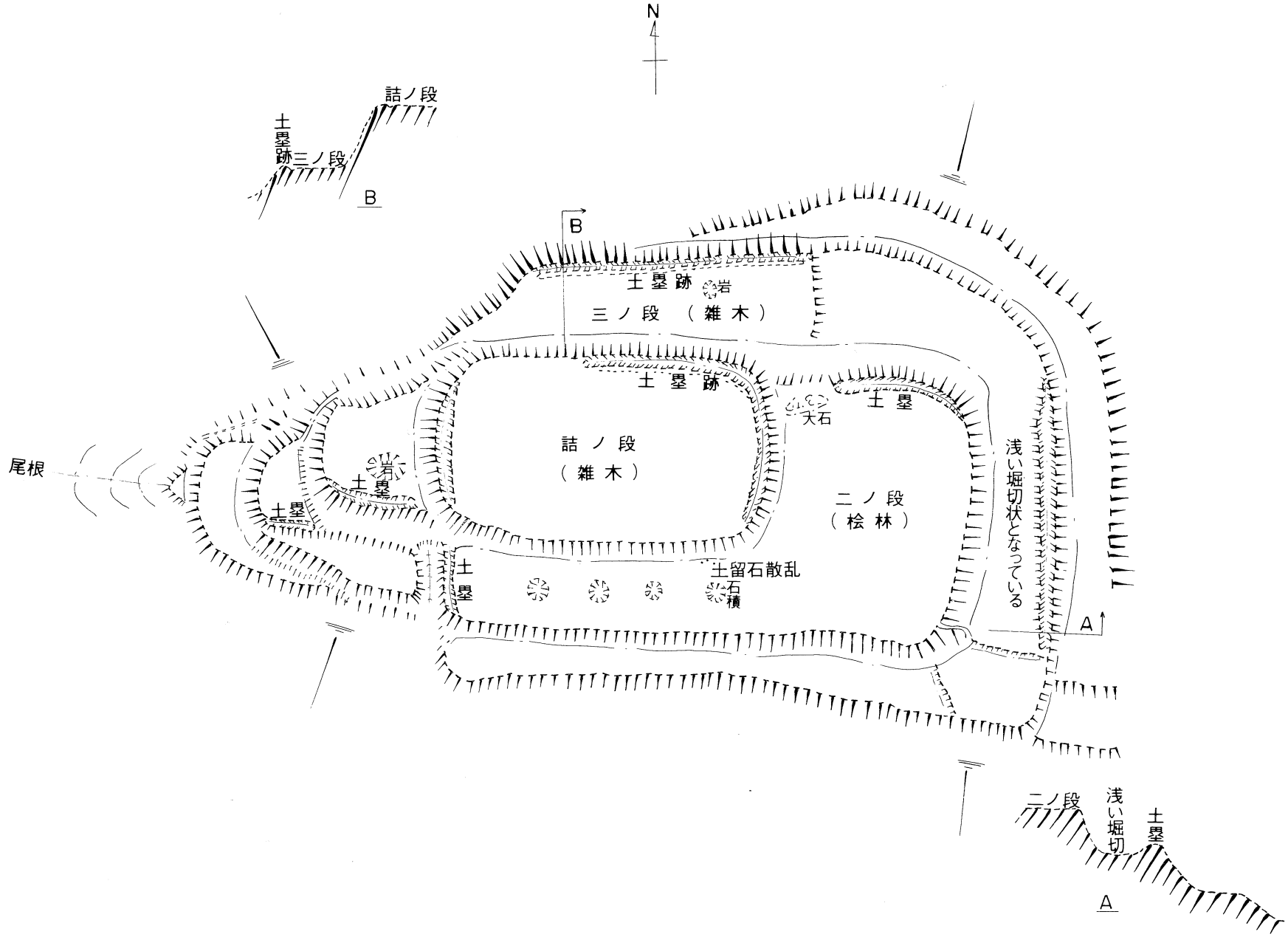
1.　杓 田 城（備前）　　2.　神ノ森城（備前）

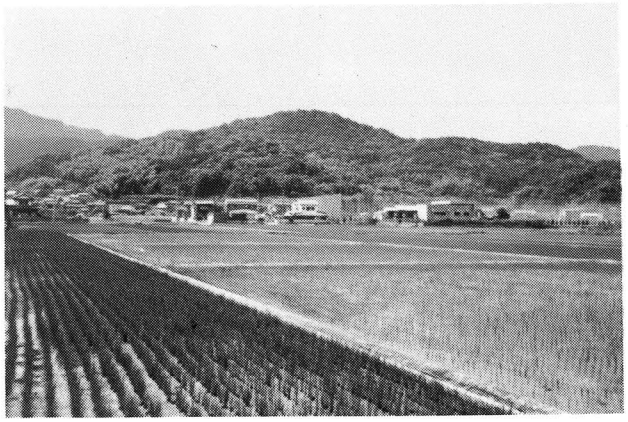
3.　神田南城（備前）　　4.　田部島城（おろし皿）

名　　称	8. 恵　美　城	
所 在 地	高知市朝倉	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林
	保 存 度	不良
遺構の特色	詰ノ段には平坦地が残り、北東に盛土が見られるが土塁跡かも知れない。現在は雑木林である。二の段は詰ノ段を囲むように郭が残り北側にはかすかに土塁跡が残る。	
そ の 他	地元では東の城、中の城、西の城という伝承があり、東の城が本城台と思われる。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	

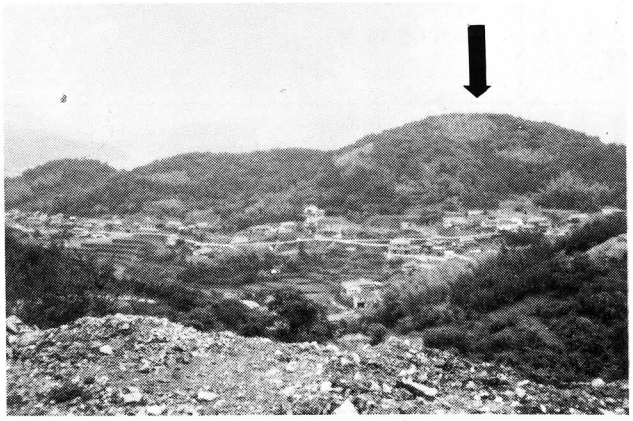
恵美城跡

最近まで畑として使用していた為遺構は原状をとどめず





北 よ り



南 よ り

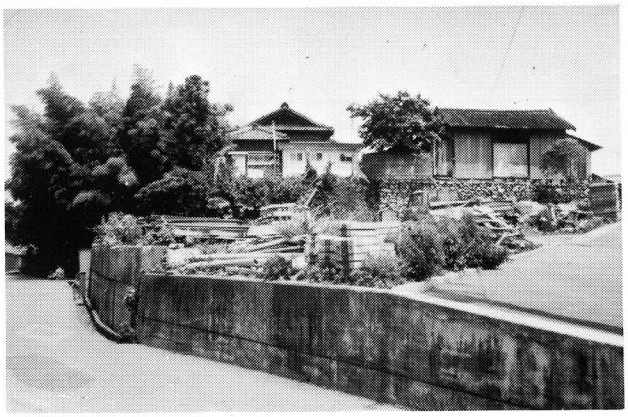
詰ノ段北土塁跡と土留石

二ノ段北（西より）

二ノ段北（東より）

浅い東堀切（北より）

名　　称	9. 鴨　部　城	
所 在 地	高知市鴨部	
遺構の状況	現　　状	山頂　畑　宅地
	保 存 度	消滅
遺構の特色		
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54）	
	土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40）	
	南路志　闔国之部　巻７、３　高知県文教協会　（昭34）	
	尾戸焼	



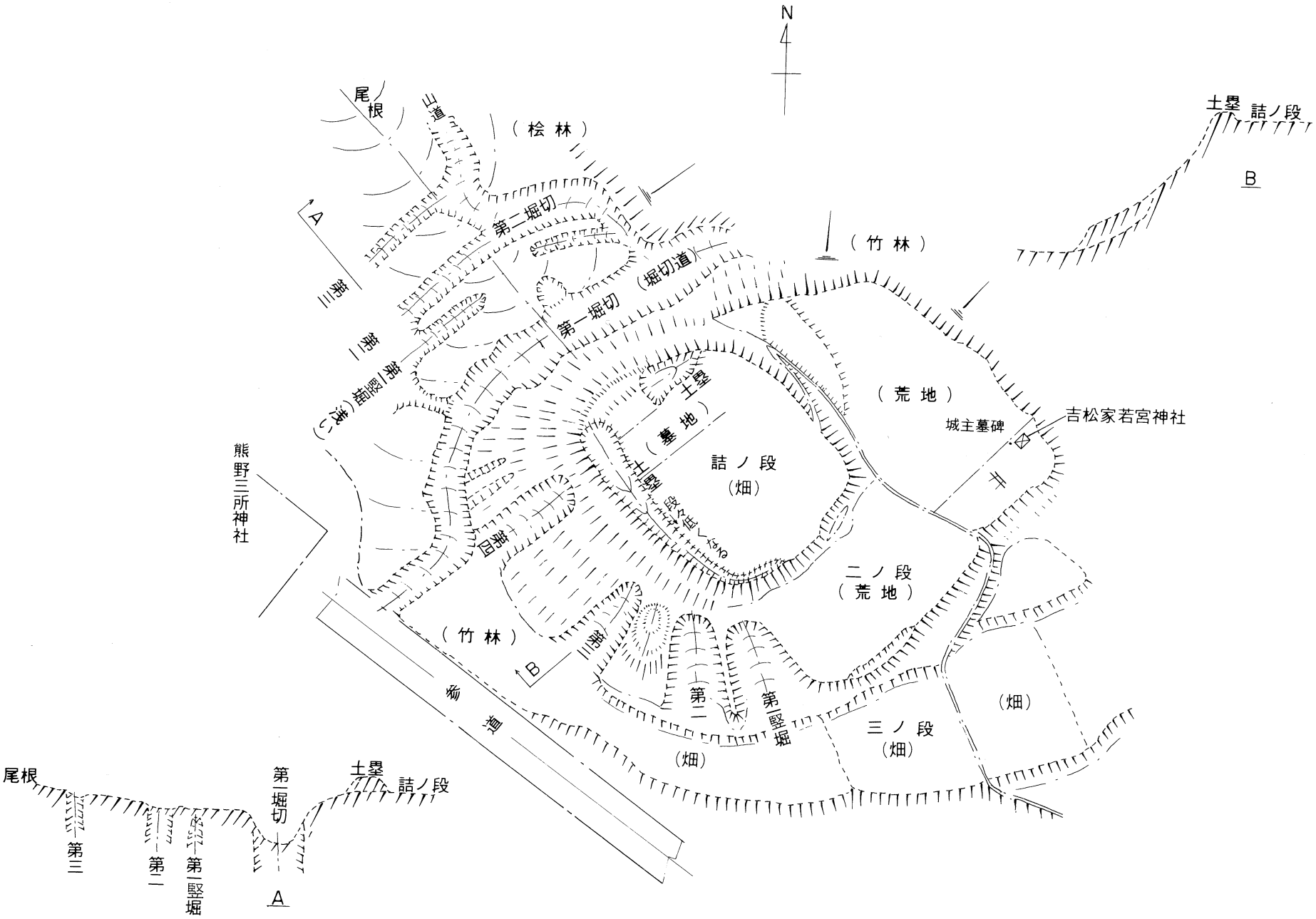
西　よ　り

詰の現状（東より）

尾　戸　焼

名　　称	10. 万　々　城	
所 在 地	高知市万々	
遺構の状況	現　　状	台地　畑・墓地
	保 存 度	やや不良
遺構の特色	詰ノ段の西北に土塁が残り、北及び西下に堀切がある。詰ノ段北側は土塁から5m位切れている。二の段に若宮神社があり城主の墓碑がある。	
そ の 他	墓碑に「万々村中尾城主　吉松十右衛門尉光久墓所」とある。城跡南の小字は奥屋敷。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐遺語　巻1　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻7、1　高知県文教協会　（昭34） 土師質土器・備前焼　他	

万々城跡


N
尾根
山道
（桧林）
第二堀切
第一堀切
（堀切道）
第三
第一
第一竪堀（浅い）
A
熊野三所神社
土塁
（墓地）
土塁
段々低くなる
詰ノ段
（畑）
第四
（竹林）
B
参道
第二
第一竪堀
（畑）
（竹林）
（荒地）
城主墓碑
吉松家若宮神社
二ノ段
（荒地）
三ノ段
（畑）
（畑）
土塁
詰ノ段
B
尾根
第三
第一
第一竪堀
第一堀切
A
土塁
詰ノ段

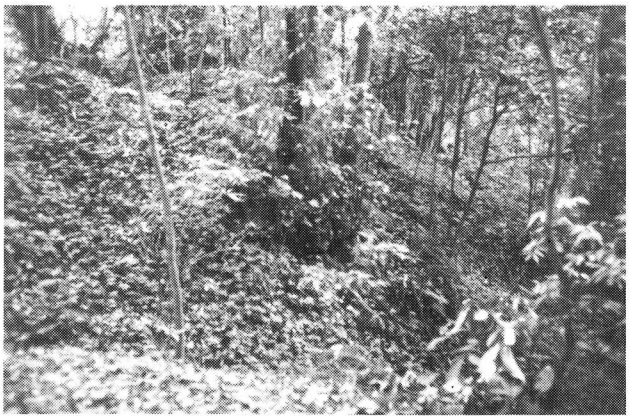
南　よ　り

二ノ段東（西より）

詰ノ段（南東より）

詰ノ段北（西より）

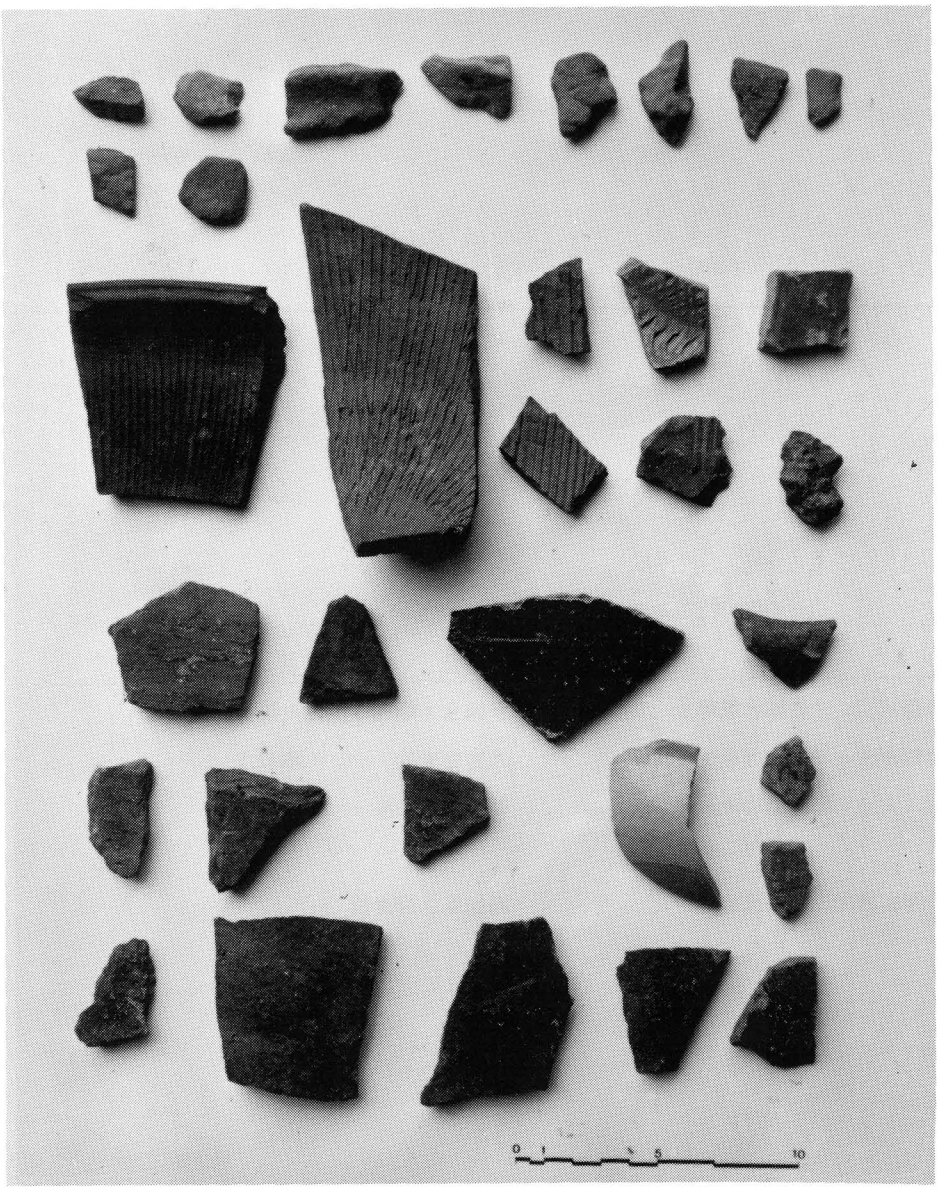
詰の北西下に残る深い堀切（北東より）



尾根より詰方向に見る　右斜面に竪堀が残る

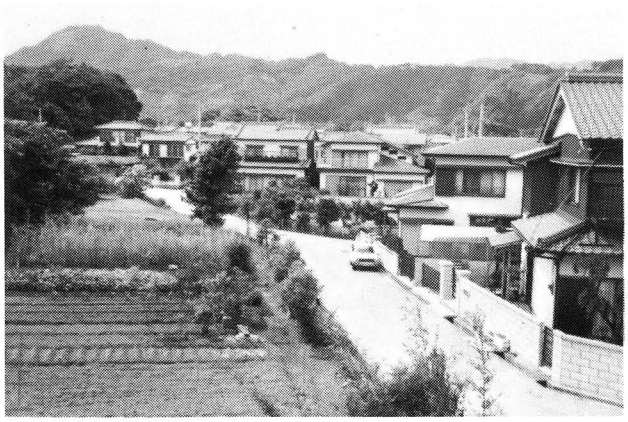
詰北西下（堀切を南より）

詰西面に残る第４竪堀（下より）



土師質土器・備前焼　他

名　　称	11. 嘉武保宇城 （寒方城・寒防城）	
所　在　地	高知市中万々	
遺構の状況	現　　状	山頂　宅地・墓地
	保　存　度	消滅　宅地造成（つつじヶ丘団地）
遺構の特色		
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	



南 よ り

東 よ り

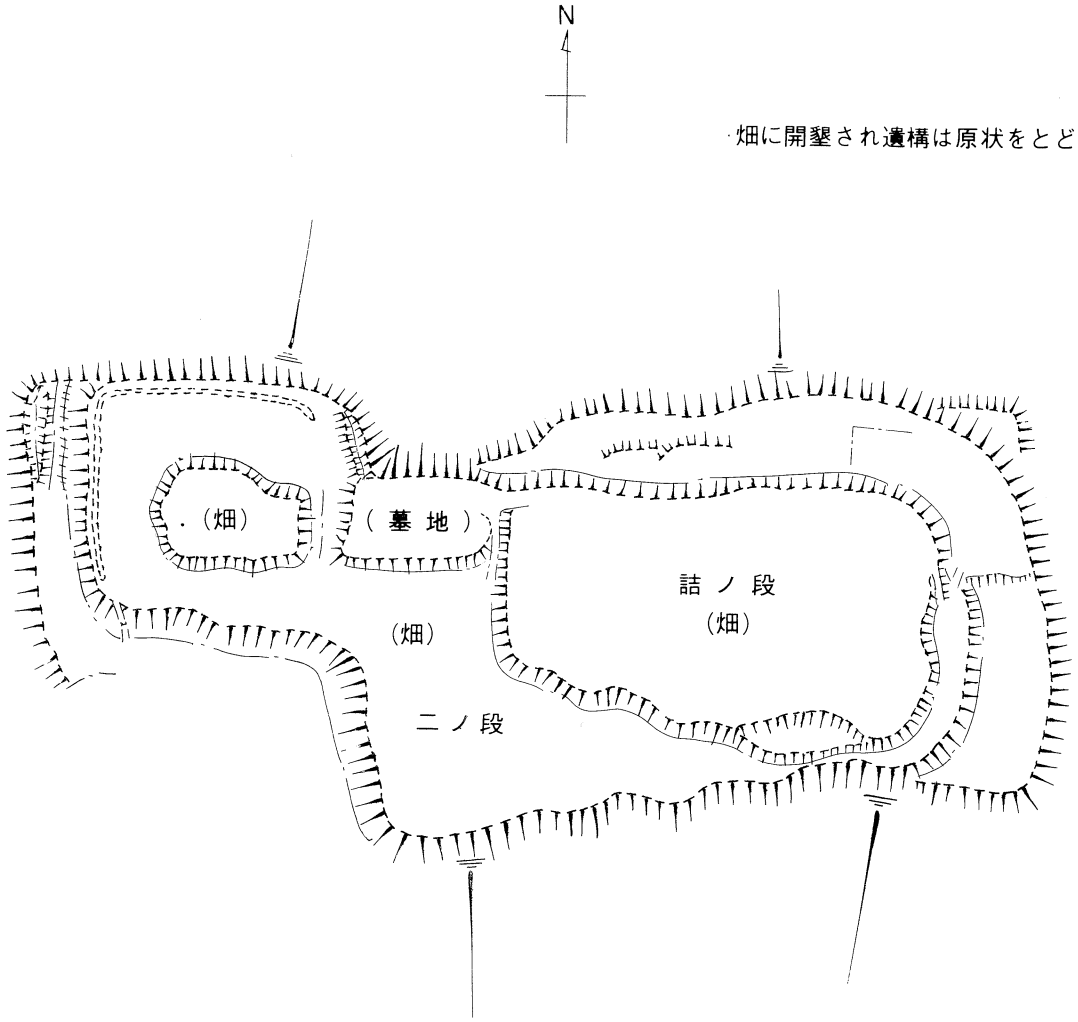
福井中城出土遺物

鉄片・青磁・土師質土器・備前焼 他

名　　称	12. 福 井 西 城	
所 在 地	高知市福井町	
遺構の状況	現　　状	平地　グランド（高知学園）
	保 存 度	消滅
遺構の特色		
そ の 他	造成前の城山は西の城といって最頂部に約一反位の平坦地が残り、北、西、南はきりたっていて東側のみゆるやかな山であったらしい。神社があって丸い石を御神体として祀っていたという。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 大高坂之郷地検帳　天正15年	

名　　称	13. 福　井　中　城	
所　在　地	高知市北端町	
遺構の状況	現　　状	山頂　畑
	保　存　度	不　良
遺構の特色	詰ノ段に平坦地が残る。二ノ段にも平坦地が残るが、かなり削り取られ遺構は残存せず。	
そ　の　他	二の段の北隅に小祠があり武者を祀るという。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 大高坂郷地検帳　天正15年 鉄片・青磁・土師質土器・備前焼他　（写真49頁）	

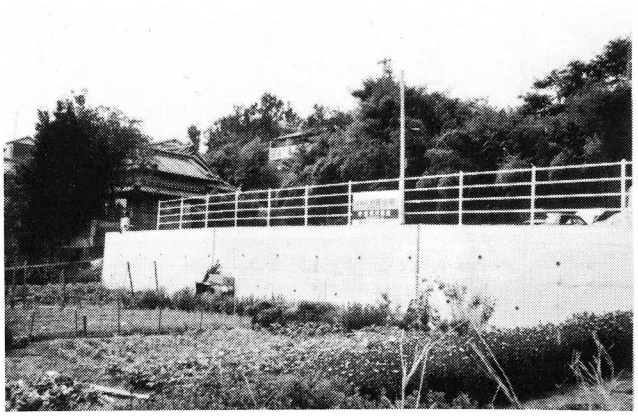
福井中城々跡



西　よ　り

詰ノ段（西より）

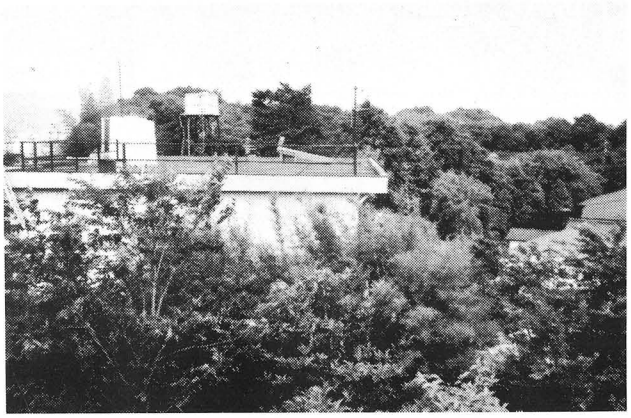
詰ノ段（東より）



南東部より

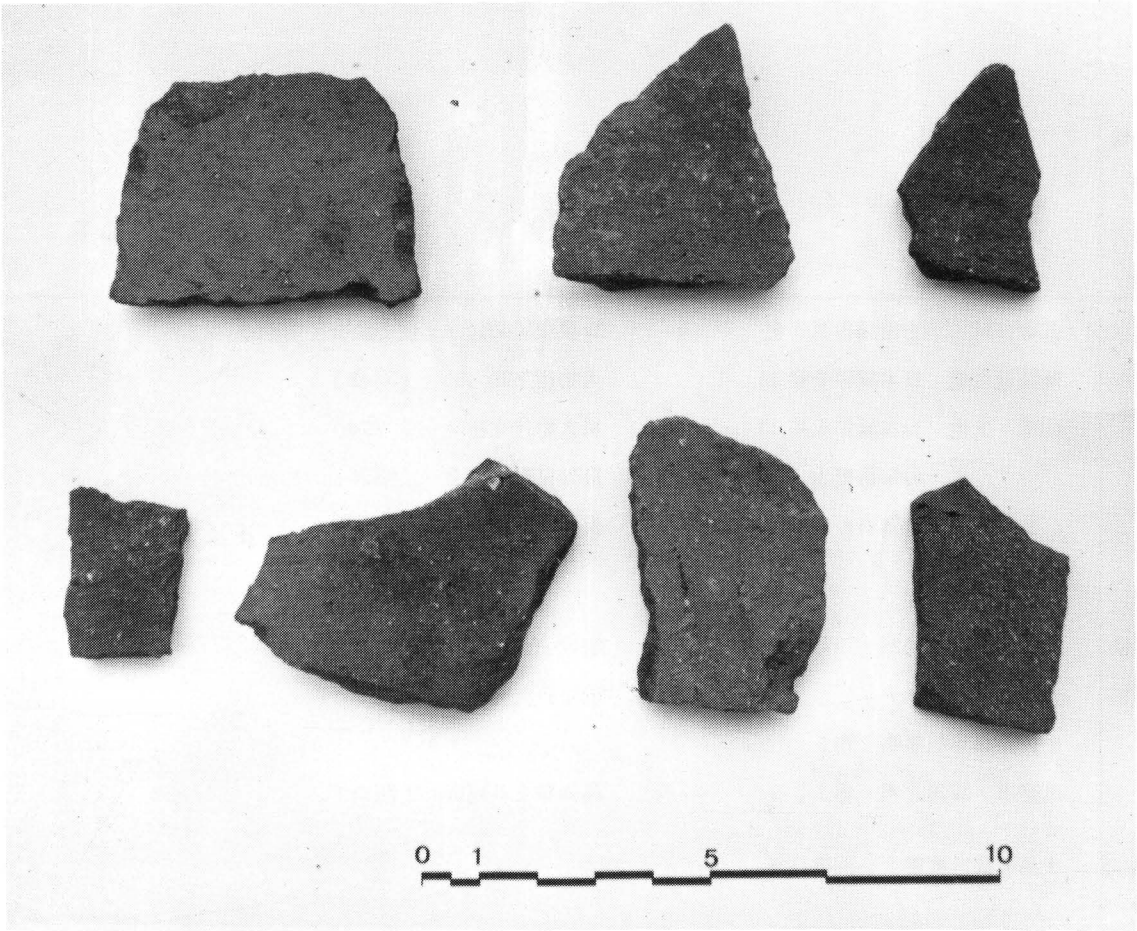
詰西下にある小祠

名　　称	14. 福井元尾城	
所 在 地	高知市福井町	
遺構の状況	現　　状	山頂　宅地　墓地
	保 存 度	消滅
遺構の特色		
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史	青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）
	橋詰延寿他　日本城郭全集	人物往来社（昭42）
	山本　大他　日本城郭大系15	新人物往来社（昭54）
	土佐州郡志　巻20	宅間一之（昭40）
	南路志　闔国之部　711	高知県文教協会（昭34）
	備前焼	



城跡（西より）

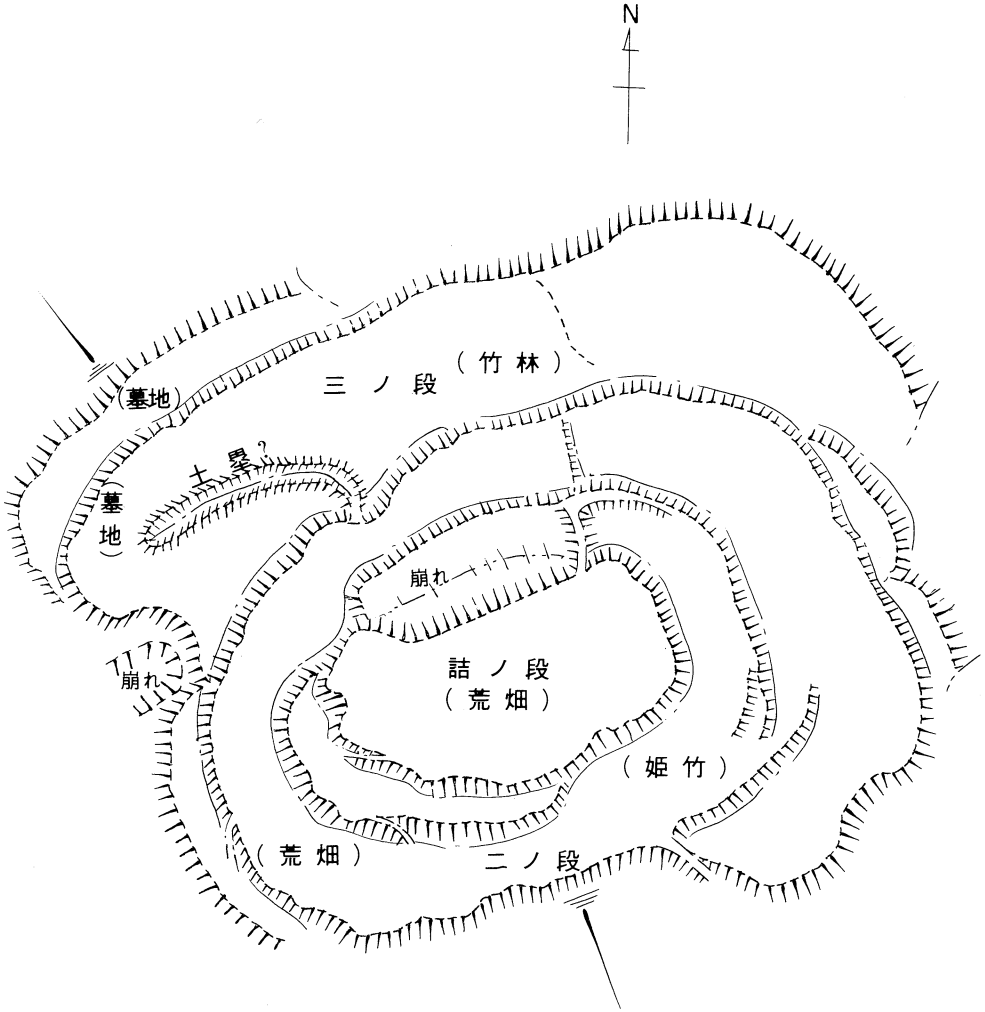
西隅に残る盛土



備　前　焼

名　　称	15. 井　　口　　城	
所 在 地	高知市井口町	
遺構の状況	現　　状	山頂　荒畑　墓地
	保 存 度	不良
遺構の特色	永福寺山にあるといわれるが寺のすぐ後の山は墓地となっており、遺構は確認できない。道を隔てた東側の小山が東の城といわれる井口城跡である。詰ノ段は平坦地が荒畑となっており、北側がくずれている。詰ノ段を囲む様に二の段の郭が残る。二の段北下に三の段があるが北の一部を残して周囲が削られており、平坦地と土塁状遺構が残存する。	
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	高知市の文化財と旧跡　高知市教育委員会（昭54）	
	土佐古城伝承記　皆山集 2　（昭50）	
	土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40）	
	土佐物語　巻 4　国史研究会　（大 3 ）	
	土佐国編年紀事略　巻 5	
	南路志　闔国之部　巻 7 、2　高知県文教協会　（昭34）	
	大高坂郷地検帳　天正15年	

井口城跡



北　よ　り

東　よ　り

詰ノ段（東より）

三ノ段西土塁状遺構（東より）

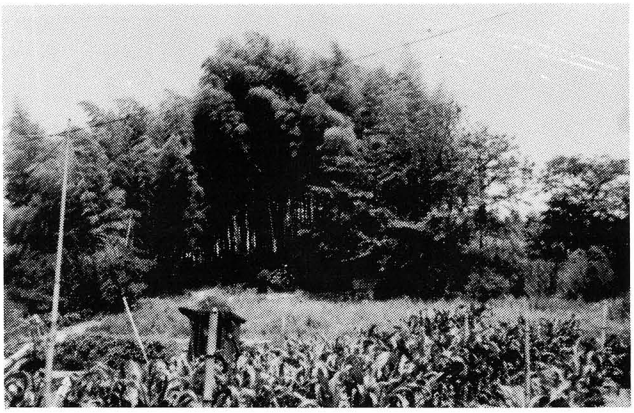
三ノ段西土塁状遺構（西より）

三ノ段北（西より）

名　　称	16. 神　田　旧　城	
所　在　地	高知市鴨部（能茶山）	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・畑・宅地・墓地
	保　存　度	消滅
遺構の特色		
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐古城伝承記　皆山集2　（昭50） 土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40） 土佐物語　巻4　国史研究会　（昭3） 土佐国編年紀事略　巻5	

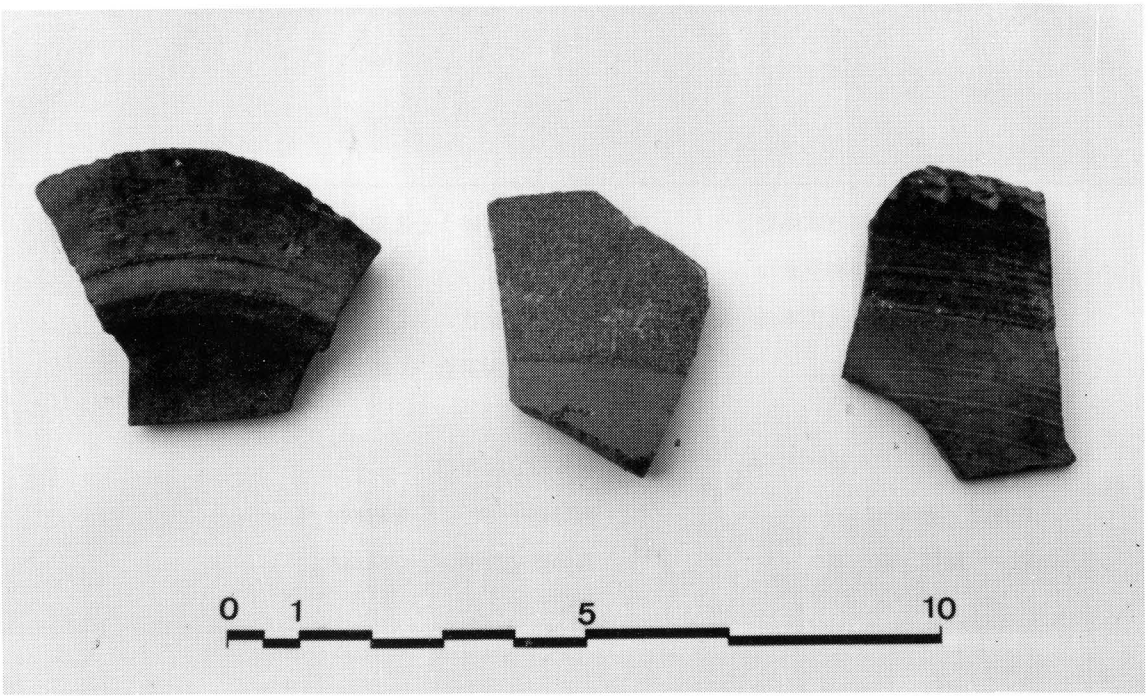
名　称	17. 石　立　城	
所 在 地	高知市城山町	
遺構の状況	現　状	台地　畑・墓地・宅地
	保 存 度	消滅
遺構の特色		
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐古城伝承記　皆山集 2　（昭50） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻 7 ・ 2　高知県文教協会　（昭34） 土佐物語　巻 4　国史研究会　（昭 3 ） 土佐国編年紀事略　巻 5 土佐郡井口村石立村地検帳　天正15年 尾戸焼	

東　よ　り



西　よ　り

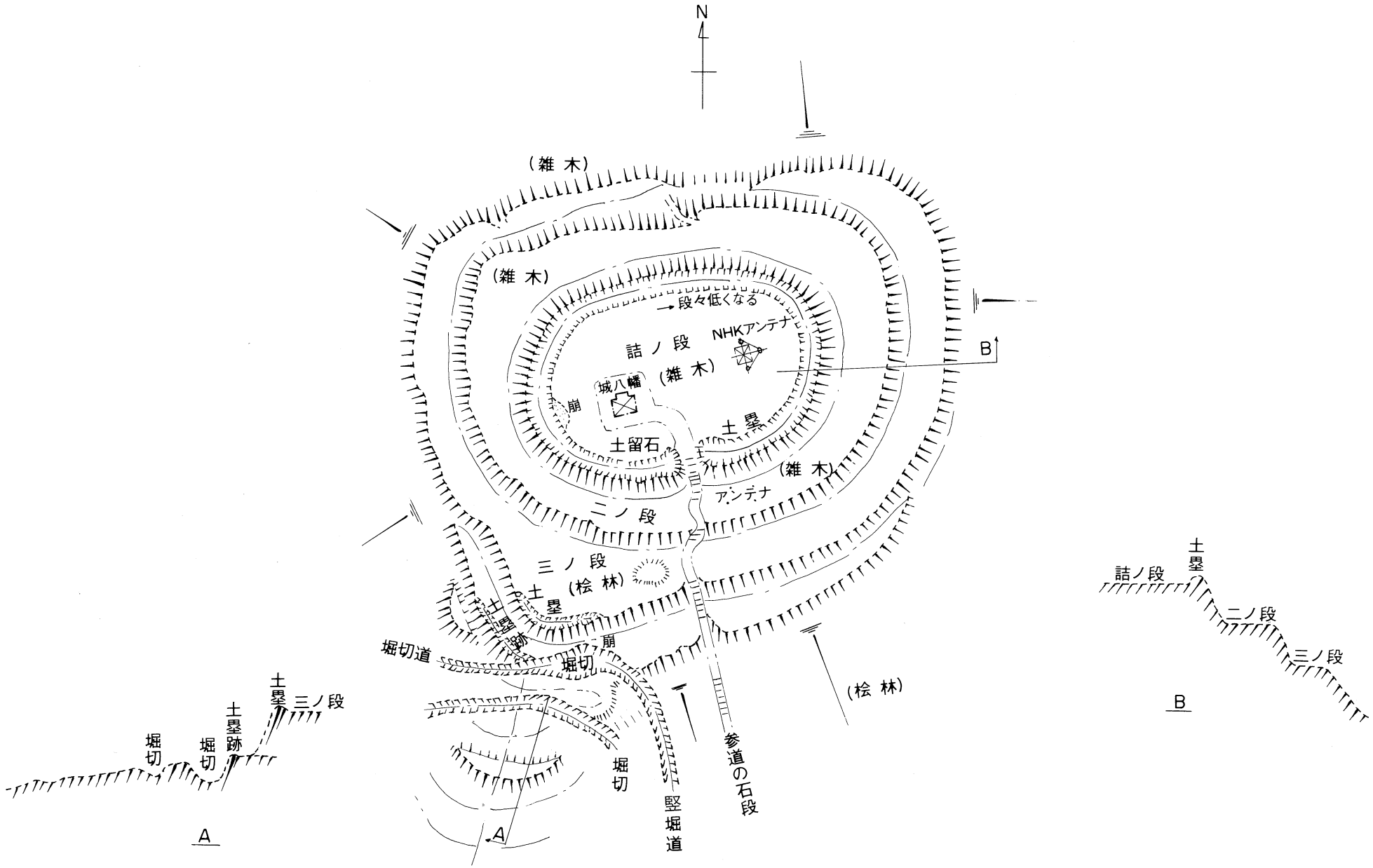
西　よ　り

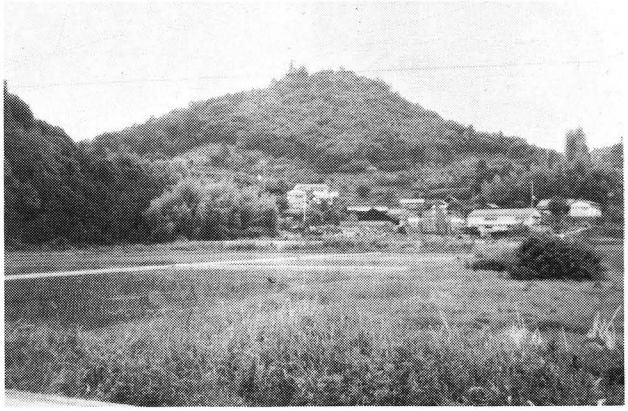


尾　戸　焼

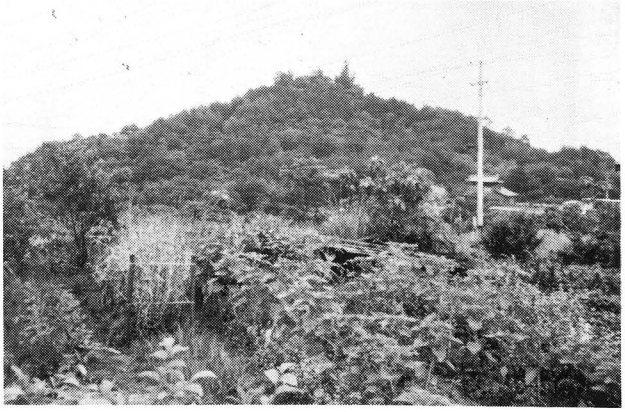
名　　称	18. 神　田　南　城　（神田城）	
所　在　地	高知市神田城山	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・神社境内・アンテナ
	保　存　度	やや良、最頂部にはアンテナ八幡宮がある。城跡周辺は県道が走り又宅地化の波が押し寄せている。又植林によって郭の隅がくずれているところがある。
遺構の特色	詰ノ段の周辺を土塁が取り巻いている。ここには八幡様を祀り、城八幡である。土塁は南側が良く残り土留の石積がある。詰ノ段を囲むように二ノ段の郭が残り、二ノ段を囲んで三ノ段がある。三ノ段の南下には堀切が二条残り一条は竪堀となり南斜面を下に走る。	
そ　の　他	鍋島修理が屯営したという修理の壇が南面山麓の山道の下に残る。現在は竹林となり、西隅には窪地があるが当時の池跡であろうか。広さは長さ25m位、巾は10m位である。修理の墓は鍋島神社として３～４坪の広さがあり小祠を祀っていた。そこには古い松があり、「鍋島の松の緑は変らねど思いははるる永祿の役」の歌が残っていたそうだが、現在は鴨田団地となっており、宅地の庭先の畑の隅にかろうじて小祠が残る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐遺語　巻1　前田和男　（昭47） 南路志　闔国之部　巻7・3　高知県文教協会　（昭34）	

神田南城跡（神田城）


N
（雑木）
（雑木）
→段々低くなる
詰ノ段
NHKアンテナ
（雑木）
城八幡
崩
土留石
土墨
（雑木）
アンテナ
二ノ段
三ノ段
（桧林）
土墨
土墨跡
崩
堀切道
堀切
（桧林）
参道の石段
堀切
竪堀道
B
A
A
土墨
三ノ段
土墨跡
堀切
堀切
詰ノ段
土墨
二ノ段
三ノ段
B



東　よ　り



西　よ　り

詰ノ段南土塁の土留石

詰ノ段西土塁（南より）

詰ノ段西土塁上より南

三ノ段（西より）

三ノ段南（南西より）

南堀切道（東より）

南面竪堀道（上より）

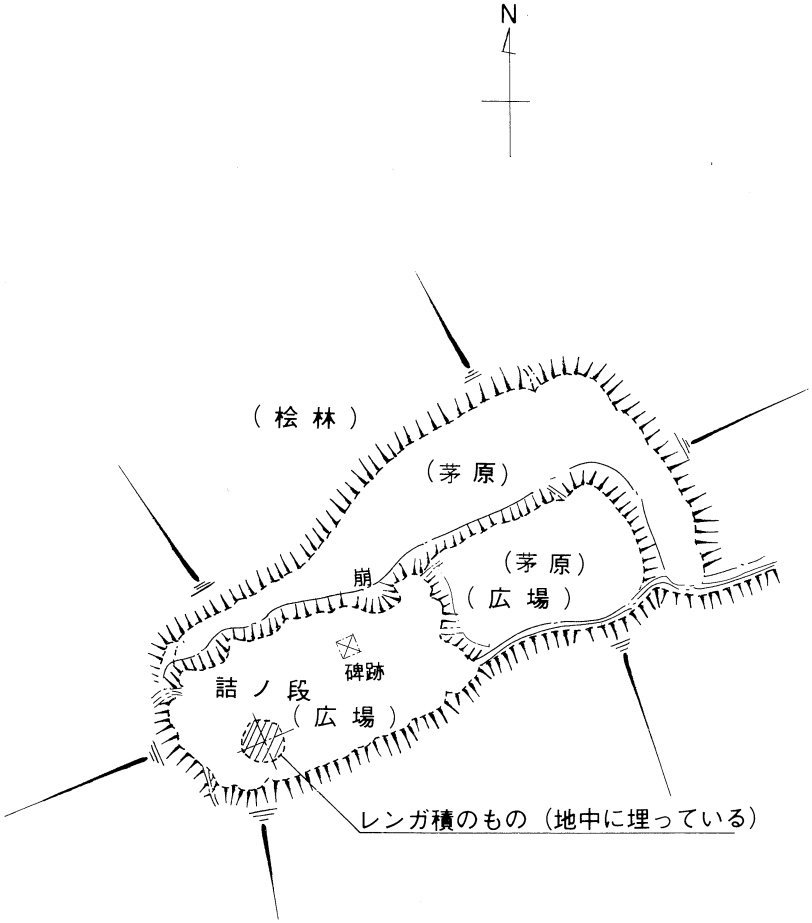
南面第２堀切（東上より）

三ノ段　南土塁

南面下にある伝修理の壇（東より）

名　　称	19　鷲　尾　城	
所 在 地	高知市鷲尾山	
遺構の状況	現　　状	山頂、広場、芳原
	保 存 度	不良、太平洋戦争中に防空監視所が設置されていた。
遺構の特色	詰ノ段跡には削平地のみ残存する。東及び北下にも郭が残る防空監視所が置かれる前には詰ノ段には土塁が残存していたという。	
そ の 他		
関連文献及び資料		

鷲尾城跡

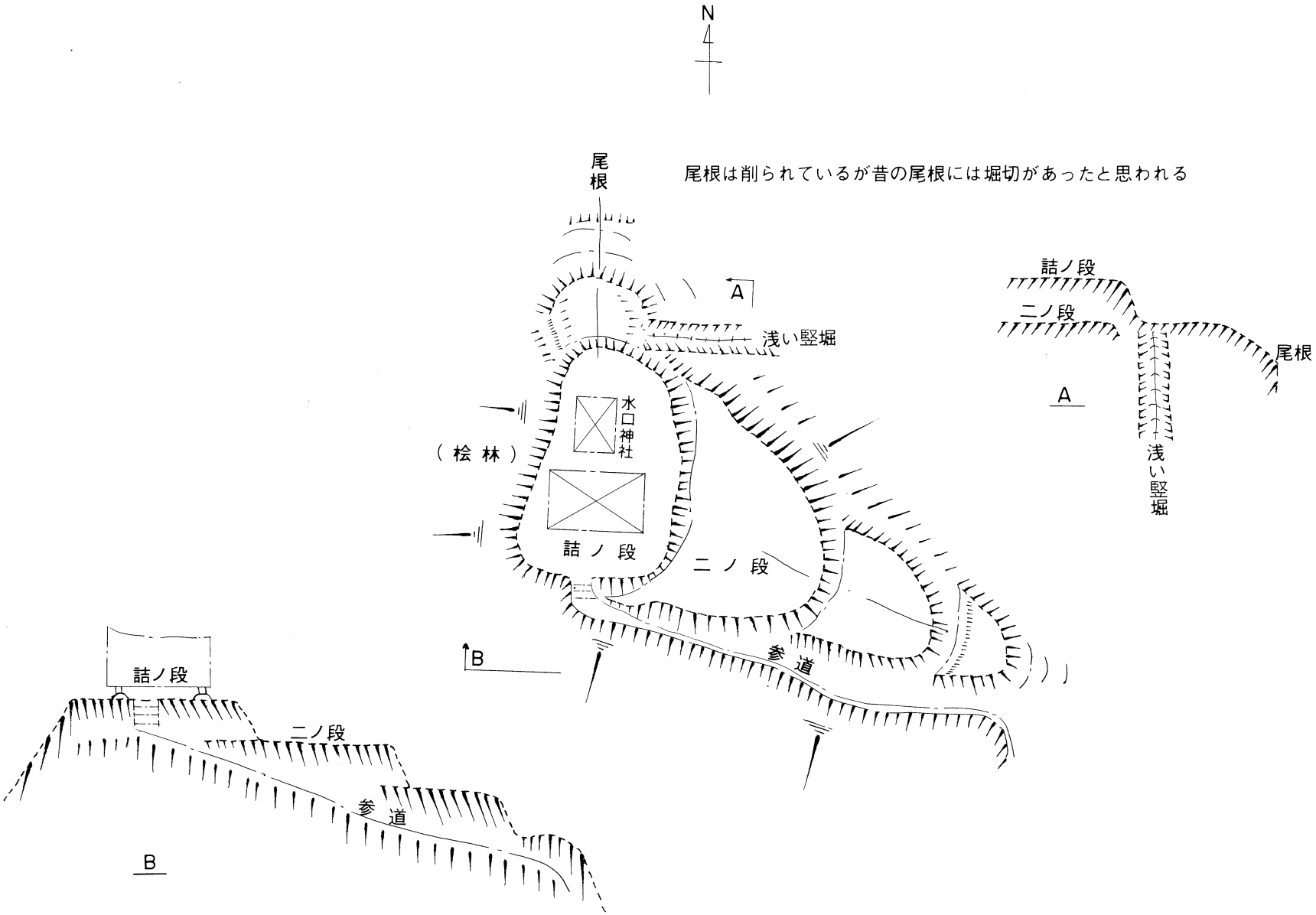


城の推移

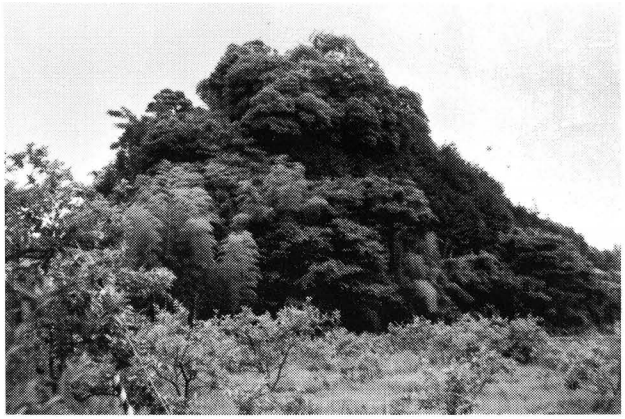
- 本山氏の物見烽火台
- 元親が斥候を置く
- 太平洋戦争中防空監視所

名　　称	20. 横　浜　城（水口城）	
所 在 地	高知市横浜水口山	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・神社境内
	保 存 度	不　良
遺構の特色	詰ノ段は平坦地が残り水口神社を祀る。その下に二の段の平坦地が残る。二の段北側より東下斜面に竪堀跡が一条残る。	
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 土佐州郡志　巻27　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻8・1　高知県文教協会　（昭34）	

横浜城跡（水口城）


N
尾根
尾根は削られているが昔の尾根には堀切があったと思われる
A
浅い竪堀
水口神社
（桧林）
詰ノ段
二ノ段
B
参道
詰ノ段
二ノ段
尾根
A
浅い竪堀
詰ノ段
二ノ段
参道
B

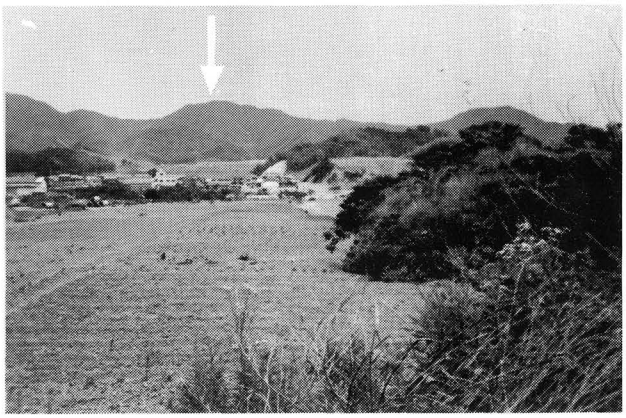
横浜城跡



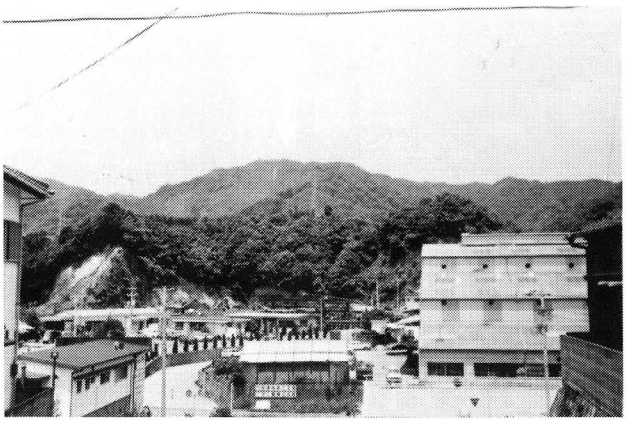
横浜城跡（西より）

二ノ段（北より）右上が詰ノ段

鷲尾城跡



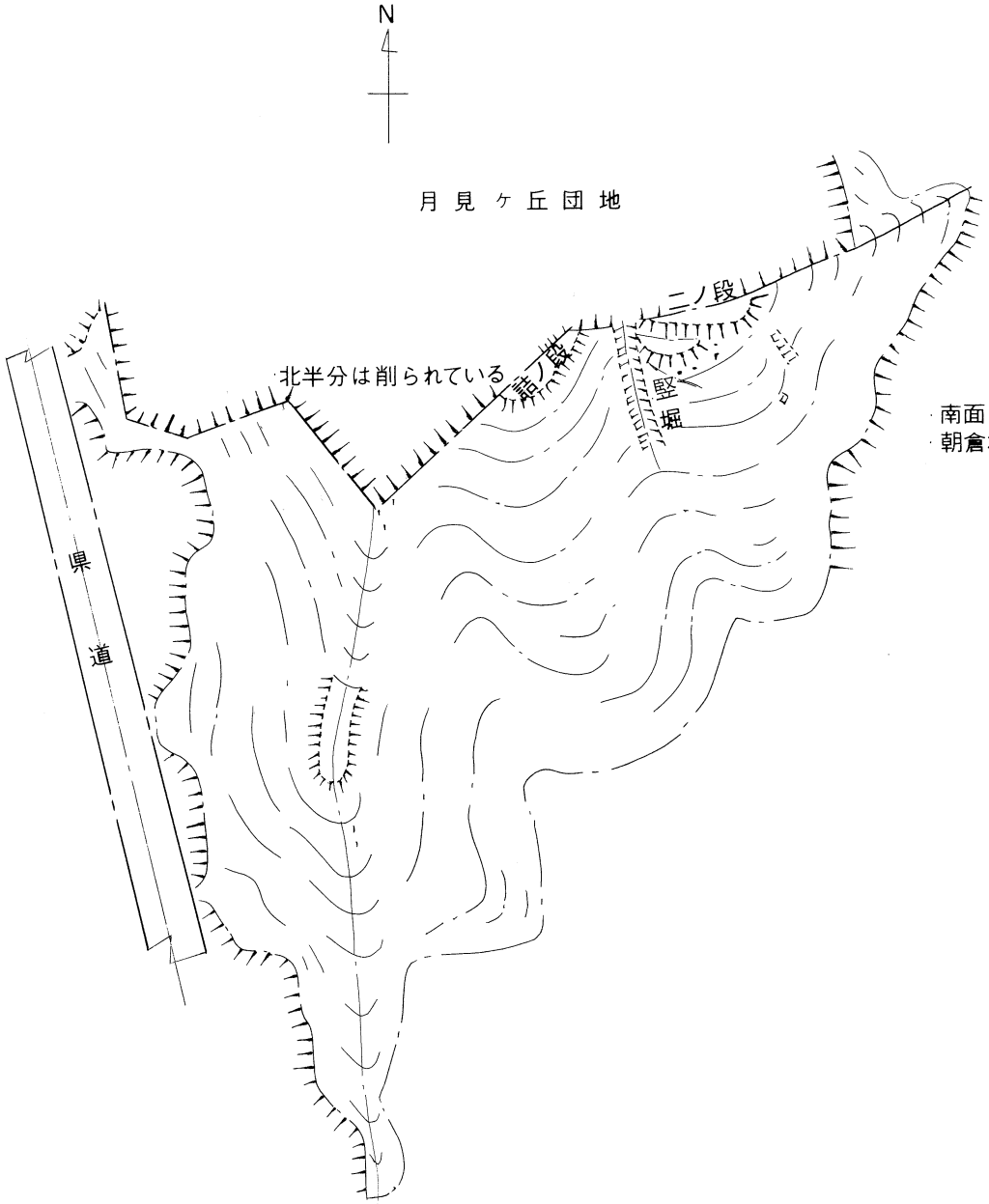
南より



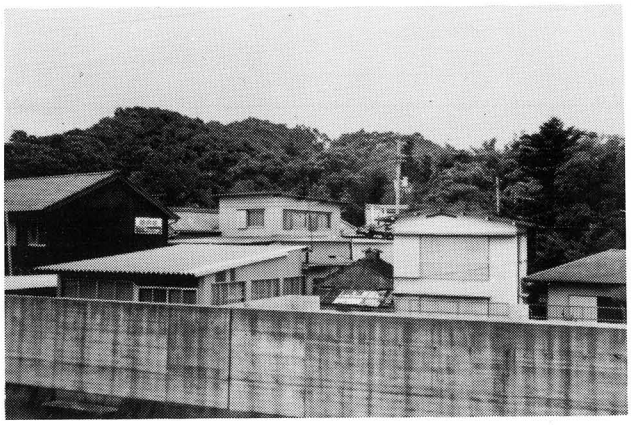
南より

名　　称	21. 長　浜　城	
所 在 地	高知市長浜	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・宅地　　北半分は宅地化（月見丘団地）
	保 存 度	不良
遺構の特色	かつては東西に郭があり、その間の尾根は堀切で仕切られ、東を小台、西を大台といった。確かに西が高く詰ノ段と思われる。東側二の段も南側のみ削平地が残る。中央の堀切は一条で、やがて竪堀となって南斜面を下る。	
そ の 他	近くに戸の本の古戦場がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史該会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知市史上　高知市　（昭33） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46） 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 土佐古城伝承記　皆山集２　（昭50） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐遺語　巻１、２　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻27　宅間一之　（昭40） 土佐物語　巻４　国史研究会　（大３） 南路志　闔国之部　巻８、１　高知県文教協会　（昭34） 土佐軍記（四国軍記）　巻２　国史研究会（大３）歴史図書（昭51） 元親記上 長元記　乾 土佐国編年紀事略　巻５	

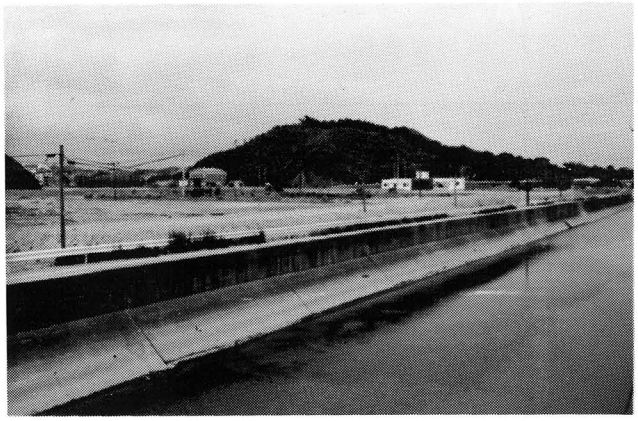
長浜城跡



・南面に数多くの蛸壺状竪穴が残る
・朝倉城跡と同じく太平洋戦争当時のものと思われる



南　よ　り



西　よ　り

南面（竪堀上より）

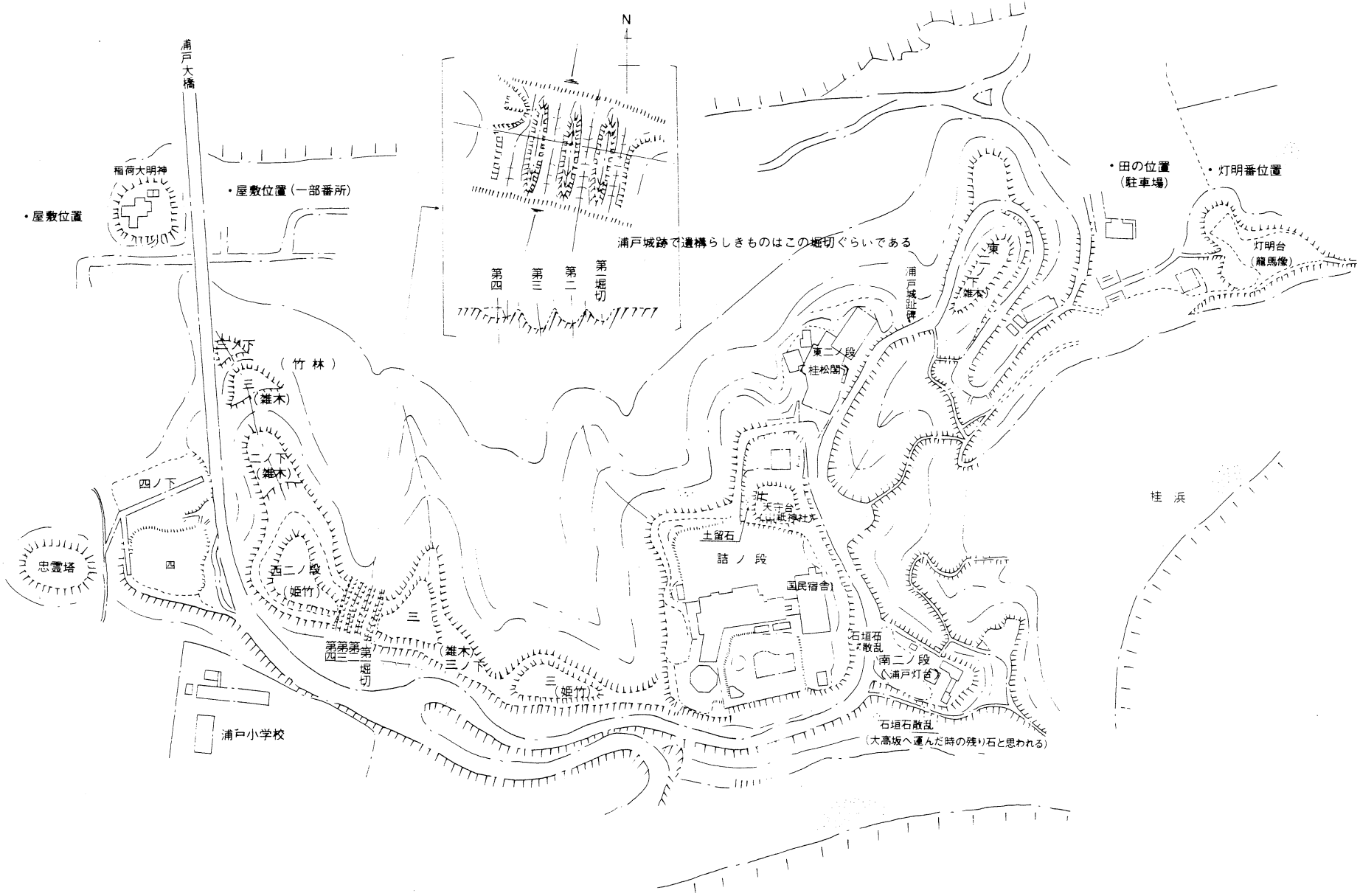
戸ノ本の戦碑

種　崎　城　跡

名　　称	22　種　　崎　　城	
所　在　地	高知市種崎	
遺構の状況	現　　状	砂浜・松林
	保　存　度	消滅
遺構の特色		
そ　の　他	長宗我部元親が、本山氏の浦戸城・長浜城に対して応急的に砂浜に構えた砦と伝えられている。	
関連文献及び資料		

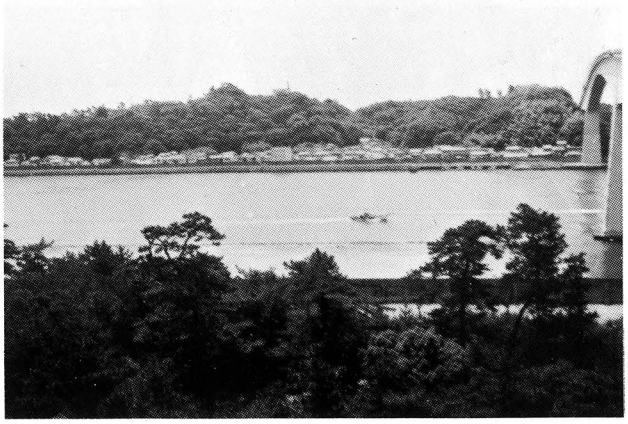
名　　称	23. 浦　　戸　　城	
所　在　地	高知市浦戸城山	
遺構の状況	現　　状	山林・国民宿舎・灯台・桂松閣
	保　存　度	不良
遺構の特色	最頂部の山祗神社に詰跡の一部が残存、南の本城台跡は完全に堀削され国民宿舎等が建ち、ここより東の各郭についての遺構は残存しない。ただ本城台跡と西二ノ段との尾根に堀切が四条ある。	
そ　の　他	浦戸・南浦及び海を隔てて種崎の集落が存在する。特に種崎については、地区民の生活源である町井戸を八ヶ所掘らせたと伝えられ、そのひとつが福重氏宅に現存する。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 山本　淳　土佐美術史　高知県教育会（昭２）歴史図書（昭55） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 前田和男　高知県の史跡と文化財　前田和男　（昭45） 高知市の文化財と旧跡　高知市教育委員会（昭54） 高知市史上　高知市　（昭33） 高知県史古代中世編　高知県　（昭46） 西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46） 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 佐伯文書　建武３、１、８　高知県史古代中世史料編（昭52） 土佐国蠹簡集　755、764　高知県史古代中世史料編（昭52） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐古城伝承記　皆山集２　（昭50） 土佐州郡志　巻27　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻８、１　高知県文教協会　（昭34） 土佐物語　巻４　国史研究会　（大３） 土佐国編年紀事略　巻３、５ 浦戸城城古図　高知県立図書館 浦戸古城之図　高知市民図書館	

浦戸城跡

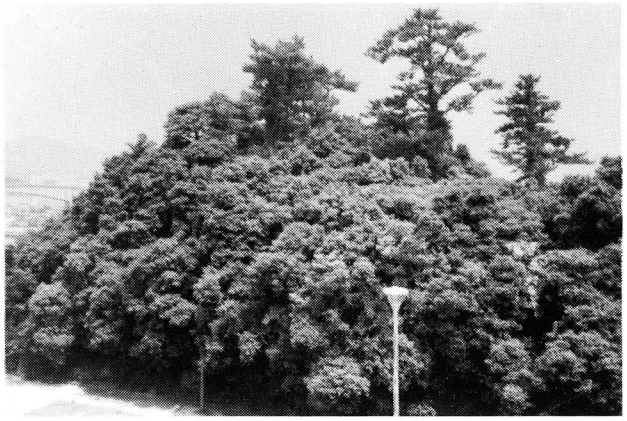


N
浦戸大橋
稲荷大明神
・屋敷位置
・屋敷位置（一部番所）
浦戸城跡で遺構らしきものはこの堀切ぐらいである
第四
第三
第二
第一堀切
・田の位置
（駐車場）
・灯明番位置
灯明台
（龍馬像）
東二ノ下
（雑木）
浦戸城趾碑
東二ノ段
（桂松閣）
（竹林）
三ノ下
（雑木）
二ノ下
（雑木）
四ノ下
四
忠霊塔
西二ノ段
（姫竹）
三
第四
第三
第二
第一堀切
（雑木）
三ノ下
三
（姫竹）
浦戸小学校
天守台
（紙神社）
土留石
詰ノ段
国民宿舎
石垣石
散乱
南二ノ段
（浦戸灯台）
石垣石散乱
（大高坂へ運んだ時の残り石と思われる）
桂浜

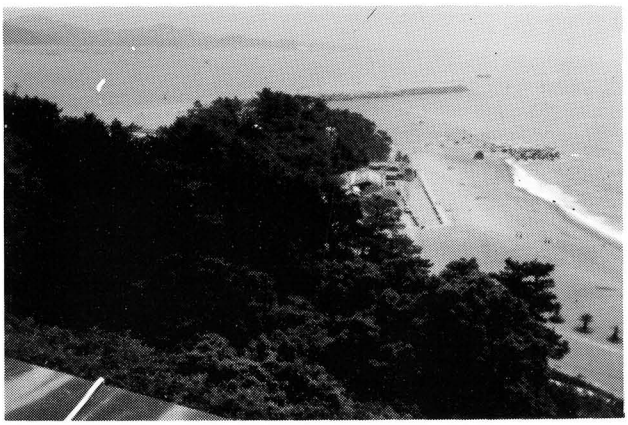
種崎の浜より



浦戸大橋の左手が西二ノ段



天守台跡



東　　郭

詰と西郭の間の尾根に残る堀切（第4）

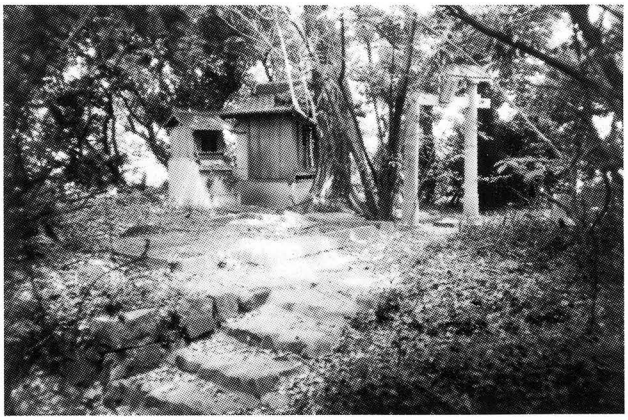
1の堀切（第2の堀切より）

第１堀切（北より）

西郭（詰跡より）

長宗我部元親墓（長浜天甫寺山）

砲台場弾薬庫跡（灯明台北）



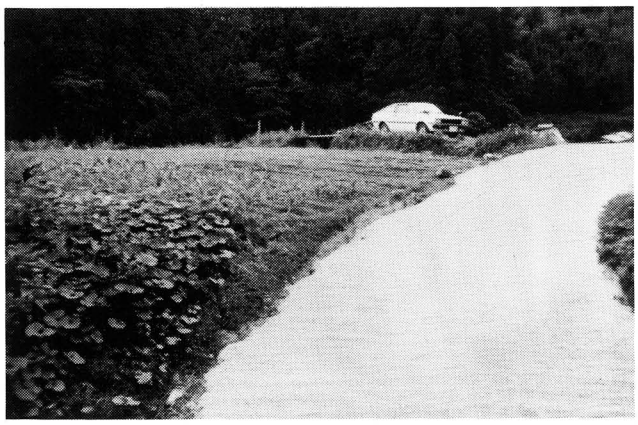
山祇神社を祀る（天守台跡）

天守台跡斜面に残る土留石

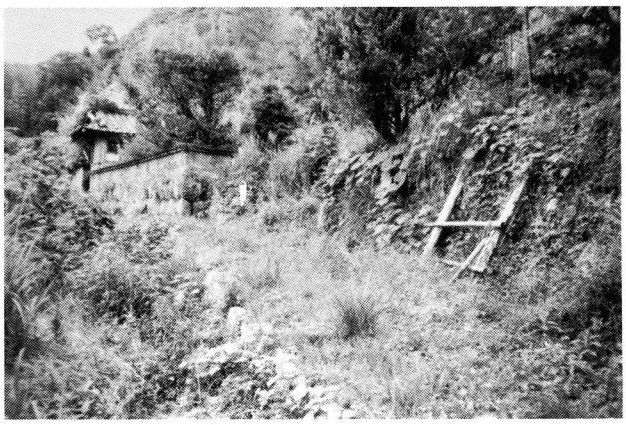
名　　称	24. 三　谷　城	
所 在 地	高知市三谷	
遺構の状況	現　　状	尾根先端　鉄塔
	保 存 度	消滅　鉄塔がたち、公園となっている。
遺構の特色		
そ の 他	かつては詰ノ段に平坦地があり、北の尾根には堀切が残っていたが、現在この堀切も道路となっている。三谷部落の西には土居屋敷と弓場の小字名が残る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐州郡志　巻22　宅間一之　（昭40）	

西　よ　り

西　よ　り



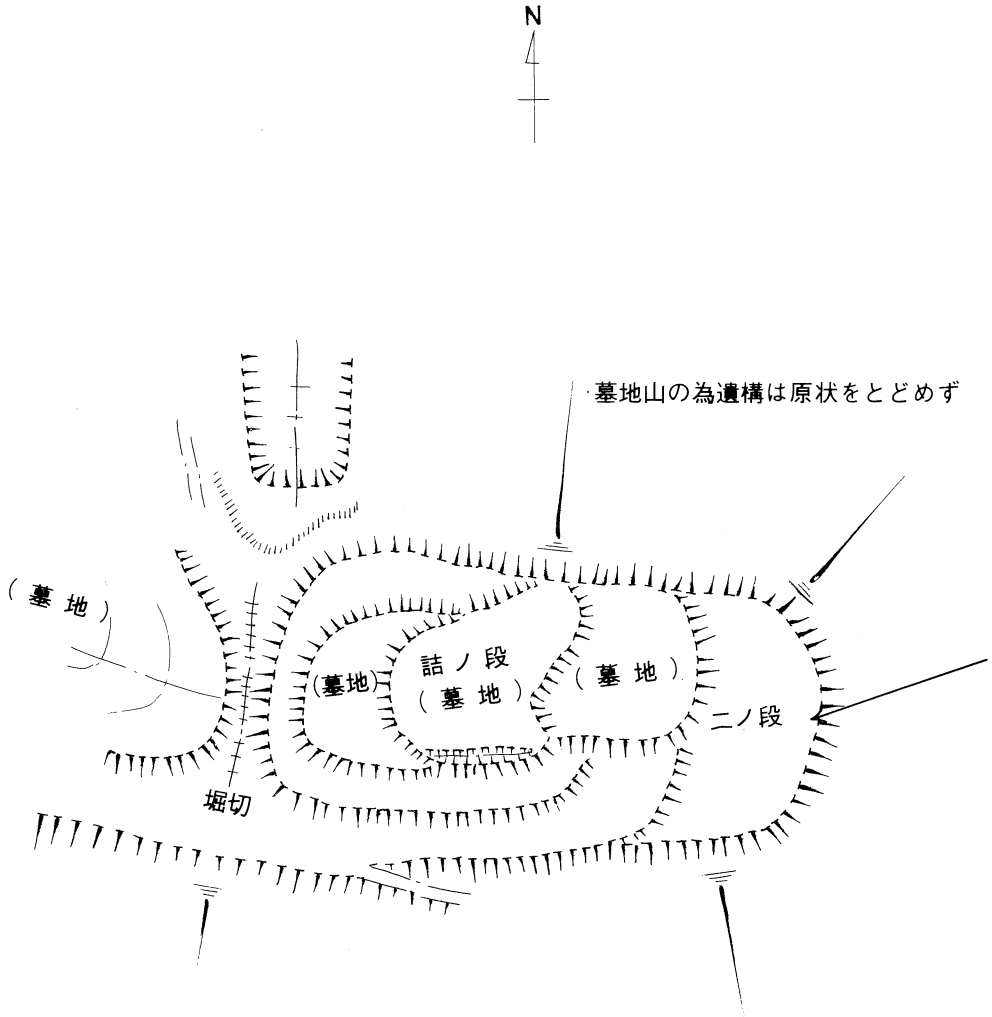
弓　場　附　近



土居屋敷跡

名　　称	25. 秦泉寺別城	
所在地	高知市秦泉寺秦山	
遺構の状況	現　　状	山頂　墓地
	保存度	不良　墓地山。
遺構の特色	墓地山で遺構は殆ど見当らない。詰ノ段と思われる西に1ヶ所堀切が残る。東に二の段らしい削平地がある。	
その他	西南に秦泉寺の泉がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻7・1　高知県文教協会　（昭34）	

秦泉寺別城々跡



東　よ　り

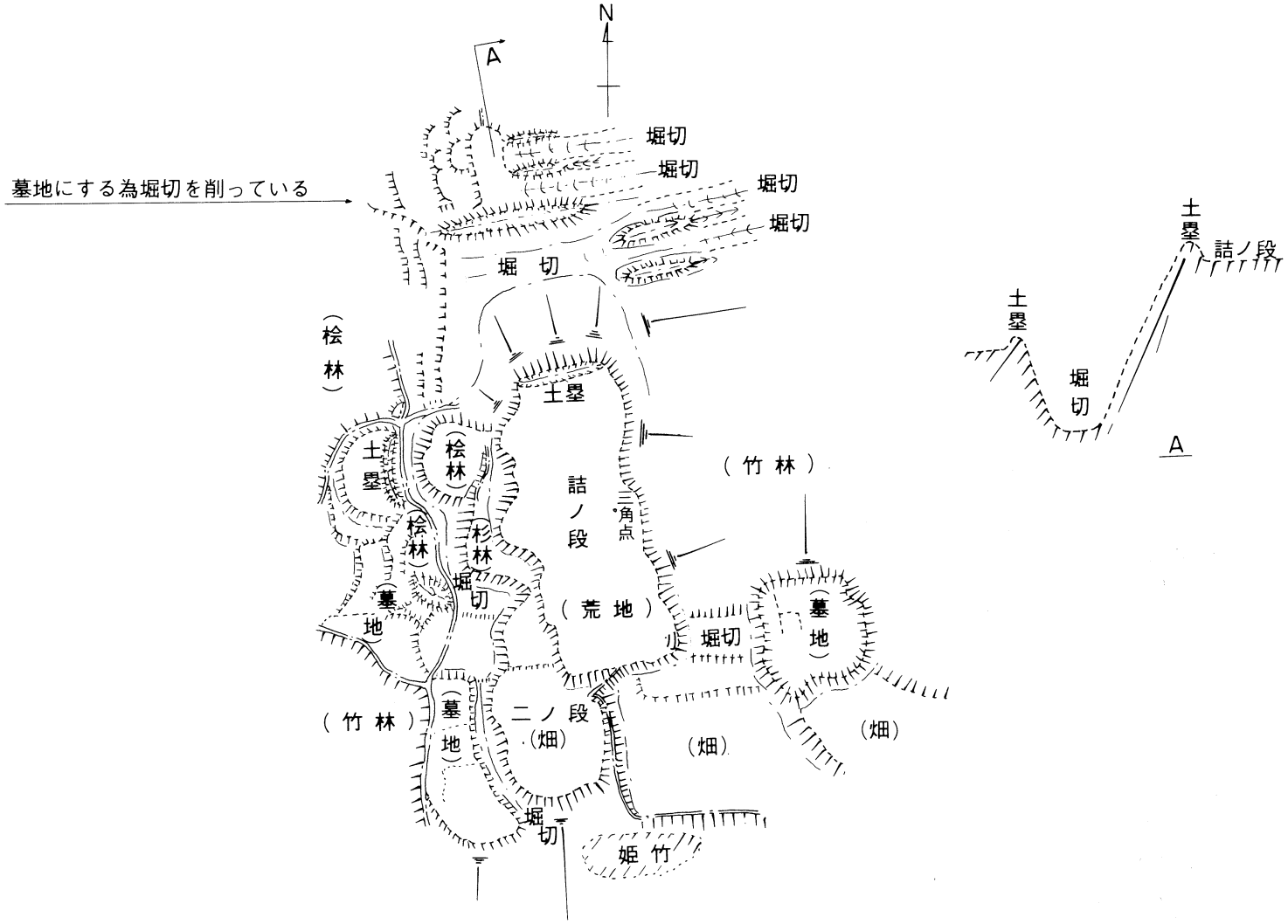
西堀切（南より）

西堀切（北より）

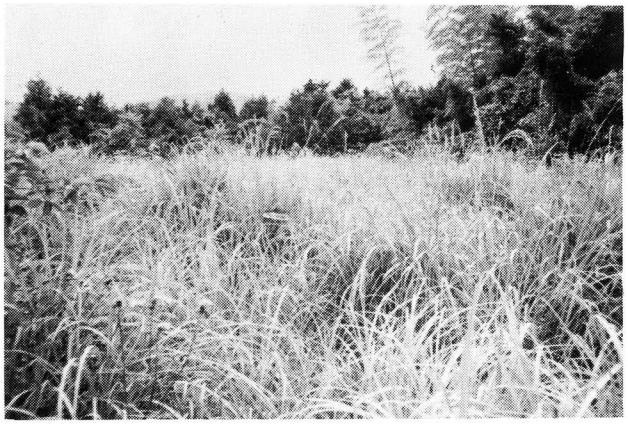
詰ノ段の現状（西より）

名　　称	26. 安楽寺山城（久万城）	
所 在 地	高知市久万城山	
遺構の状況	現　　状	山頂　畑　墓地
	保 存 度	不良
遺構の特色	詰ノ段畑地で荒れて、他の郭も畑及び墓地。北側に堀切が四条残る。そして北隅には土塁がわずかに残り、西下の郭にもわずかに土塁が残る。東側下にも堀切が残り二の段西下にも堀切が残るが、南部分は墓地で堀切が浅い。北堀切は墓地で崩され東半分のみ残存する。	
そ の 他	伝久万豊後の墓が城山南東山腹にある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 高知市史上　高知市　（昭33） 山本　淳　土佐美術史　高知県教育会（昭２）歴史図書（昭55） 西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46） 安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」（昭34） 佐伯文書　建武３、７、13　高知県史古代中世史料編（昭52） 〃　３、６、29　〃 〃　３、８、11　〃 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐古城伝承記　皆山集２　（昭50） 土佐遺語　巻１　前田和男　（昭47） 土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40） 南路史　闔国之部　巻７・１　高知県文教協会　（昭34） 土佐国編年紀事略　巻３、巻５ 土佐郡久万村地検帳　天正16年 土師質土器、備前焼	

安楽寺山城跡（久万城）


N
A
堀切
堀切
堀切
堀切
墓地にする為堀切を削っている
堀切
土塁
詰ノ段
土塁
堀切
A
（桧林）
土塁
（桧林）
土塁
詰ノ段
三角点
（竹林）
（桧林）
（杉林）
堀切
（墓地）
（荒地）
堀切
（墓地）
（竹林）
（墓地）
二ノ段
（畑）
（畑）
（畑）
堀切
姫竹

西　よ　り



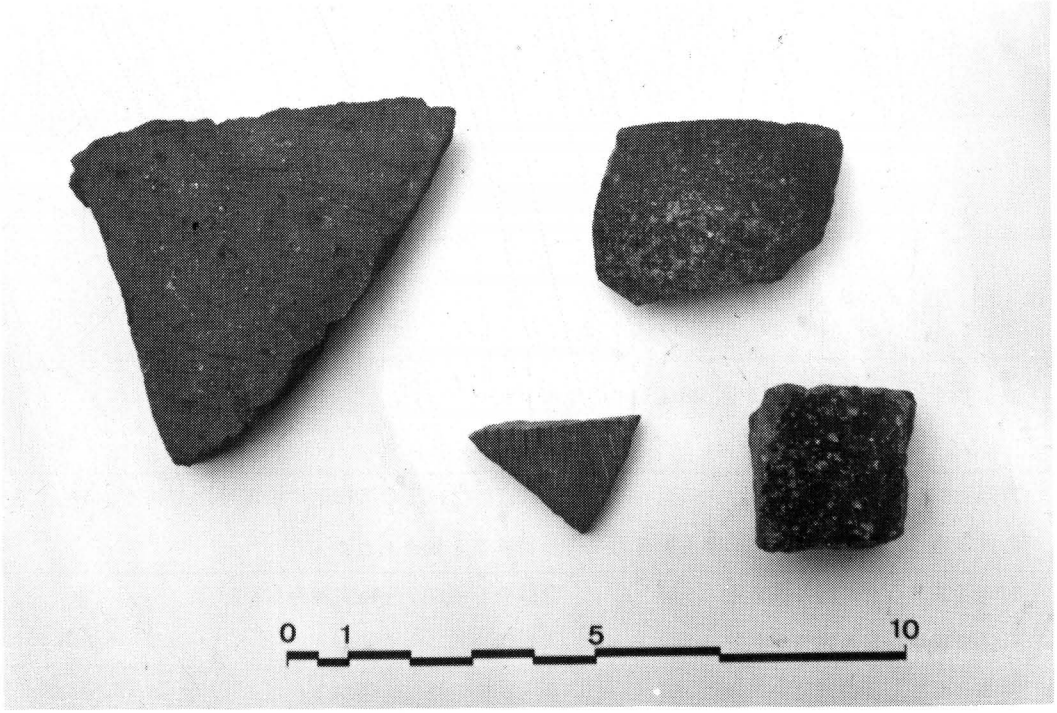
詰ノ段（南より）

詰北隅土塁（西より）詰ノ段

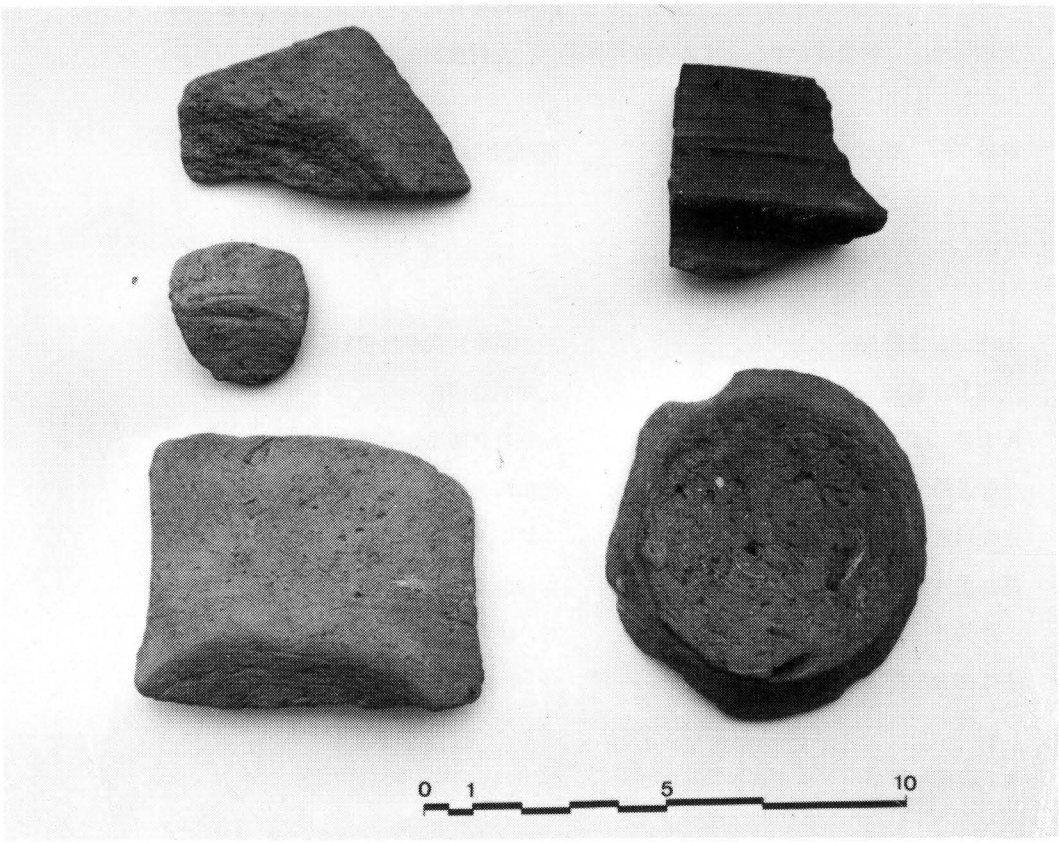
北堀切（西より）

詰西下郭に残る土塁（北から）

南堀切（南から）



備　前　焼



土師質土器

名　　称	27　大　高　坂　城	
所　在　地	高知市丸の内	
遺構の状況	現　　状	山頂　公園　県庁他　国指定史跡
	保　存　度	消滅
遺構の特色	高知城築城により、南北朝期、戦国期の遺構は判別できない。	
そ　の　他	興国元年（1340）正月落城、大高坂松王丸（三代）の墓は三の瀬橋南の松尾神社にあり、六代の松久万丸（大高坂与助）の墓は中久万の松熊（松久万）神社にあると伝えられる。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史	青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）
	橋詰延寿他　日本城郭全集13	人物往来社　（昭42）
	山本　大他　日本城郭大系15	新人物往来社　（昭54）
	高知県史上	高知県史編集会（昭26）
	高知市史上	高知市　（昭33）
	高知県史　古代中世編	高知県　（昭46）
	山本　淳　土佐美術史	高知県教育会（昭２）　歴史図書（昭55）
	安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭	「岡豊村史」（昭34）
	佐伯文書　建武3.　2.　22	高知県史古代中世史料編（昭52）
	〃　〃 3.　3.　22	〃
	〃　〃 3.　6.　29	〃
	〃　〃 3.　7.　13	〃
	土佐国古文叢 606	高知県史古代中世史料編（昭52）
	土佐国古城記　（天保13）	高知県立図館
	皆山集　3	高知県立図書館（昭51）
	土佐遺語　巻1	前田和男　（昭47）
	土佐州郡志　巻22	宅間一之　（昭40）
	南路志　闔国之部	高知県文教協会（昭34）
	土佐物語　巻4	国史研究会　（大3）
	土佐国編年紀事略　巻3	
	大高坂郷地検帳　天正16年	
	備前焼	

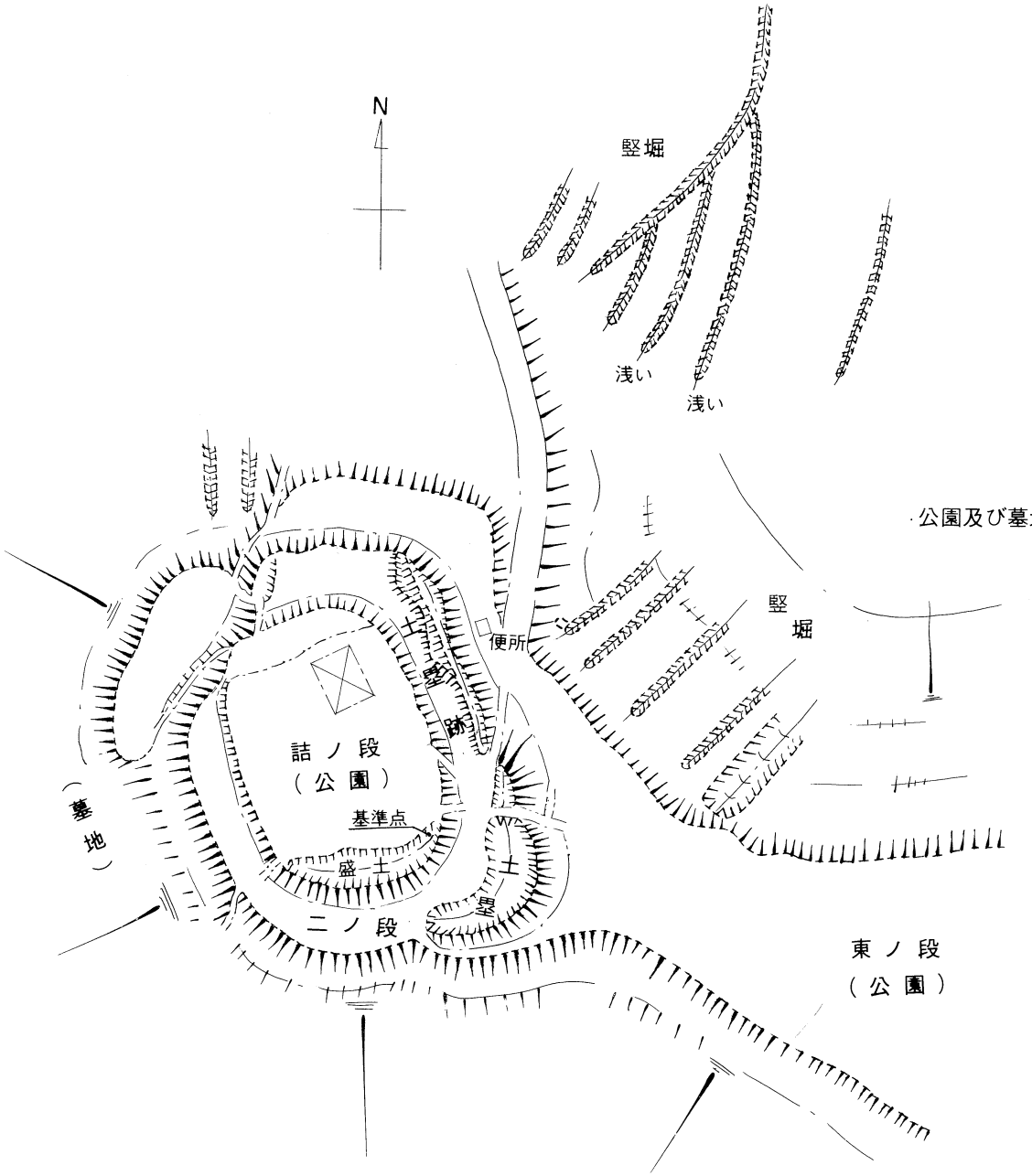
大高坂城跡（現高知城）

大高坂松王丸の碑

備　前　焼

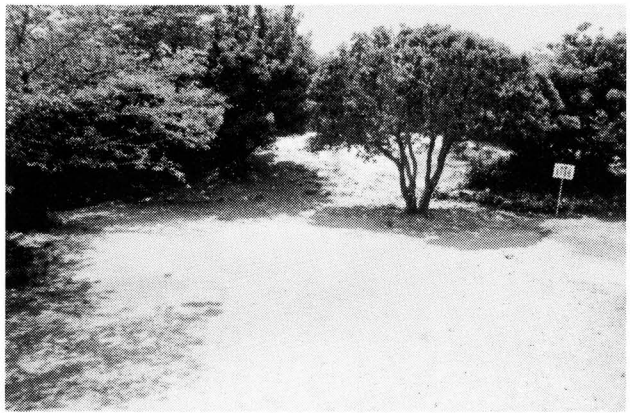
名　　称	28　潮　江　城	
所　在　地	高知市筆山町	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林　公園　墓地
	保　存　度	不良　周辺部は墓地、山頂付近は公園となる。
遺構の特色	詰ノ段を囲むように二の段の郭があり、東に土塁の盛土と土留石がある。二の段の西及び北下にも、平坦地がある。東の段に広い平坦地が残り、北斜面に浅い竪堀が残る。	
そ　の　他	城主であった森近江守の土居は現在の土居町よりも西で天神町の土手沿いだとも伝えられる。永禄3年（1560）初陣の元親が宇津野山からこの潮江城を遠望して、人は居ないと判断して容易に城を攻略した話がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）　土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県市編纂会　（昭26） 佐伯文書　暦応3.　1.　25　高知県史古代中世史料編（昭52） 土佐州郡志　巻21　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻7ノ2　高知県文教協会　（昭34） 土佐古城伝承記　皆山集2　（昭50） 長元記　乾 土佐物語　巻4　国史研究会　（大3） 土佐国編年紀事略　巻5	

潮江城跡



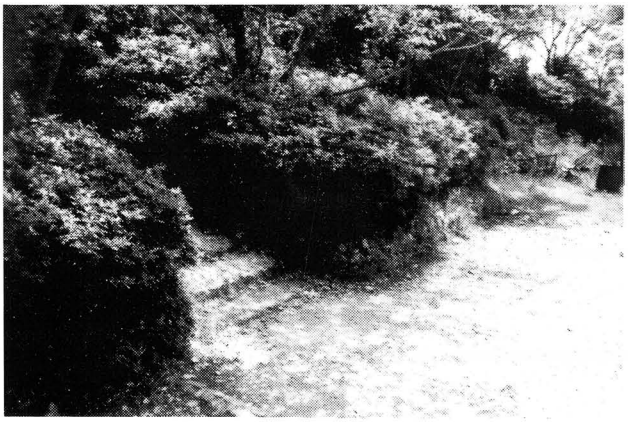
・公園及び墓地の為大巾に削られており遺構は原状をとどめず

南　よ　り



詰ノ段（北より）

二ノ段（北を西より）



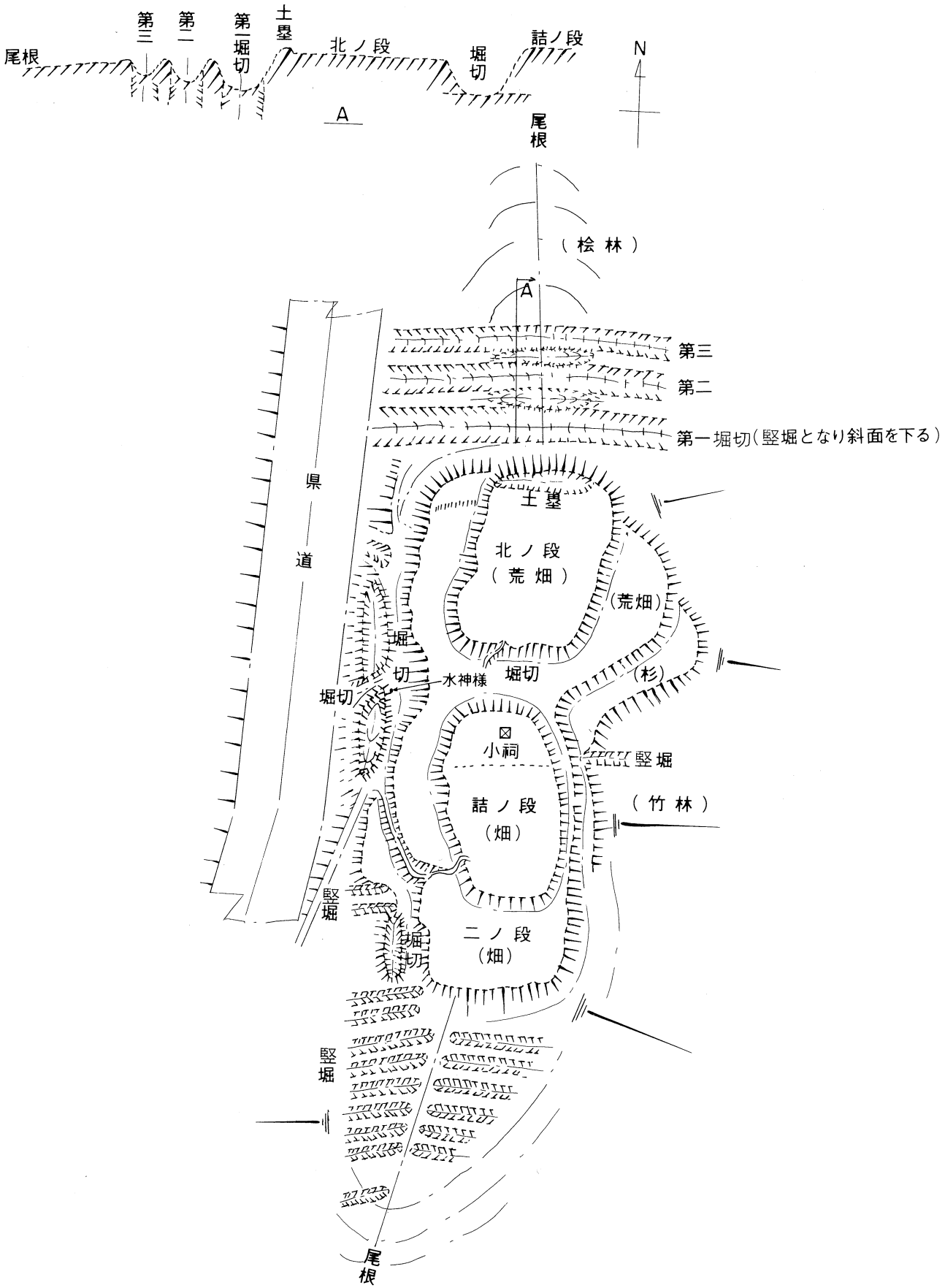
二ノ段東（土塁を北より）

東郭（西より）

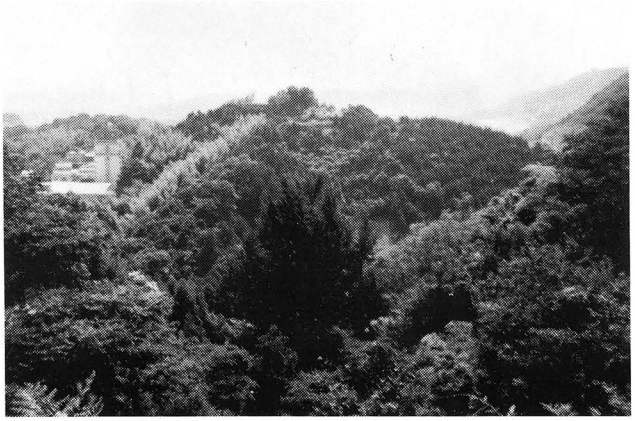
東郭に残る山内家の石杭

名　　称	29　秦　泉　寺　城	
所　在　地	高知市秦泉寺	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林　畑
	保　存　度	やゝ不良　城跡は畑地、宅地、県道となる。
遺構の特色	詰ノ段は南側と思われる、北隅には小祠がある。北側にも郭があり中央を堀切で仕切る。北の段より北の尾根筋に三条の堀切が残り、この南北郭を取り囲むよう二ノ段郭が残る。中央堀切下に水神様があり、ここが井戸跡かも知れない。二の段南下より尾根にかけて八条の堀切が、二の段西下にも堀切道があり、県道下にも竪堀が残る。南尾根の堀切は、中央を尾根道としているため完全に堀り切らずに竪堀となっている。久武内蔵助が土居を構えたという屋敷・土居の小字が山麓に残る。	
そ　の　他	淋谷に秦泉寺掃部の墓がある。	
関連文献及び資料	宮地森成　土佐国古城略史　青楓会（昭10）　土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46）	
	安岡源一　岡豊城を中心とする土佐の城郭　「岡豊村史」　（昭34）	
	土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	
	土佐古城伝承記　皆山集２　（昭50）	
	土佐遺語　巻１　前田和男　（昭47）	
	土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40）	
	南路志　闔国之部　巻７ノ１　高知県文教協会　（昭34）	
	土佐軍記（四国軍記）　巻２	
	土佐物語　巻４、５　国史研究会　（大３）	
	土佐国編年紀事略　巻５	
	土佐郡秦泉寺郷地検帳　天正16年	
	備前焼	

秦泉寺城跡

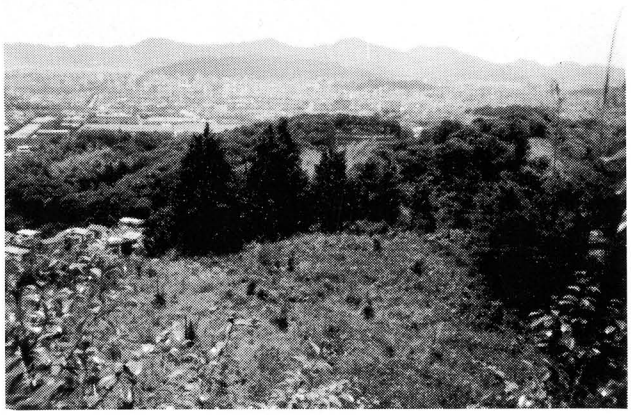

尾根
第三
第一
第二堀切
土塁
北ノ段
堀切
詰ノ段
N
A
尾根
（桧林）
A
第三
第二
第一堀切（竪堀となり斜面を下る）
県道
土塁
北ノ段
（荒畑）
（荒畑）
堀切
堀切
水神様
堀切
（杉）
小祠
竪堀
詰ノ段
（畑）
（竹林）
竪堀
二ノ段
（畑）
堀切
竪堀
尾根

北　よ　り



北 東 よ り

二ノ段北（西より）



南二ノ段（詰より）

南二ノ段（南より）

南詰ノ段石垣

北ノ段（北郭土塁上より）

南尾根に残る竪堀（東上から）

備　前　焼

名　　称	30　前　　里　　城	
所　在　地	高知市前里	
遺構の状況	現　　状	山頂　墓地
	保　存　度	消滅　墓地のため遺構は見当らない。
遺構の特色		
そ　の　他	古城略史に「秦泉寺村の北山上に在り」とある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 土佐州郡志　巻20　宅間一之 南路志　闔国之部　巻 7, 1　高知県文教協会	

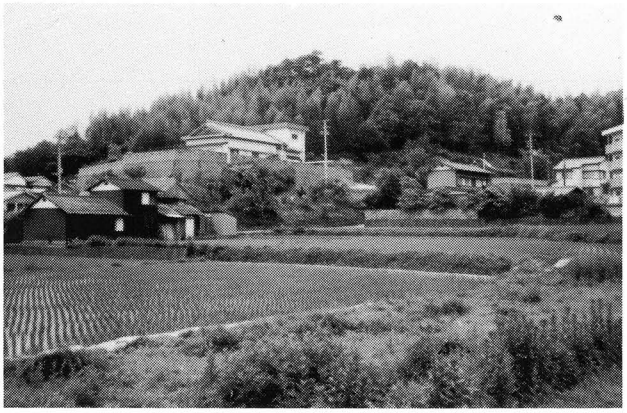
前　里　城

南　よ　り

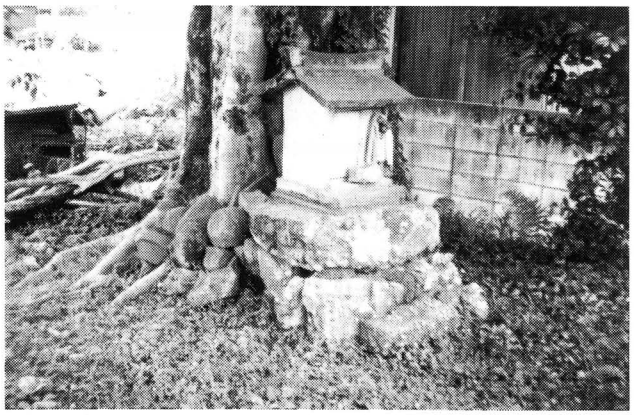
国　沢　城

西　よ　り

一 宮 別 城



南　よ　り

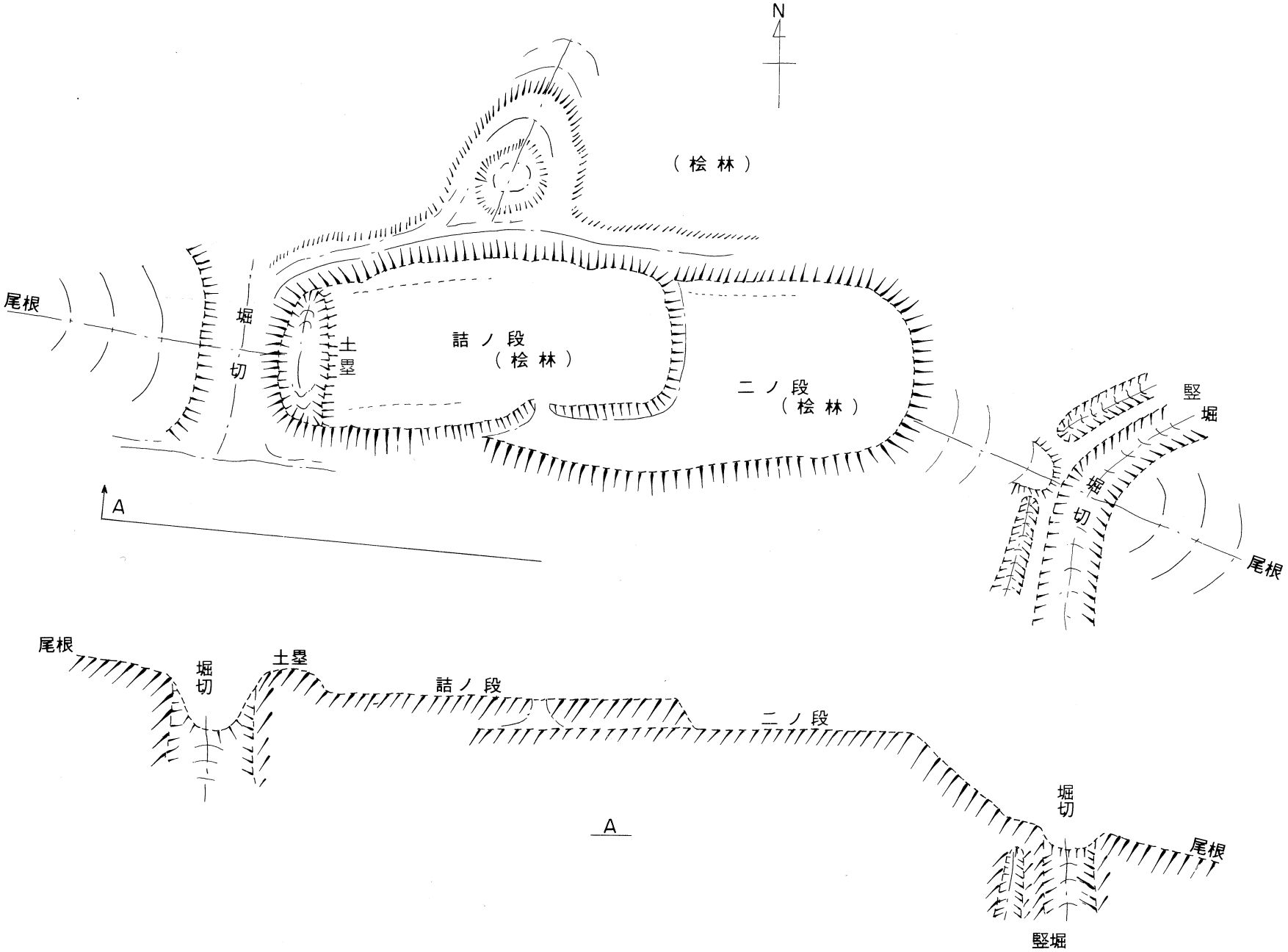


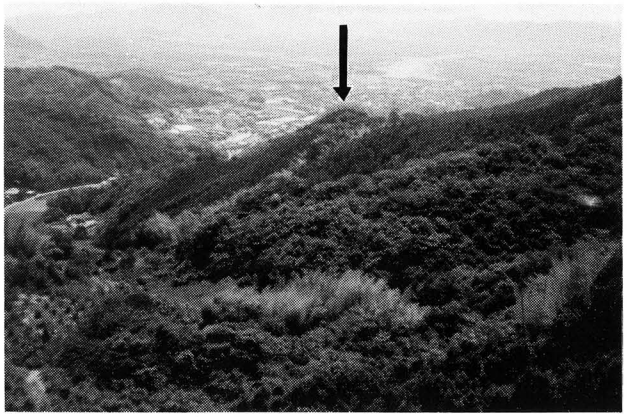
松源様を祀る小祠

名　　称	31　国　沢　城	
所　在　地	高知市堺町	
遺構の状況	現　　状	平地　市街地
	保　存　度	消滅
遺構の特色		
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐国古城記　（天保 13 ）　高知県立図書館 土佐遺語　前田和男　（昭47） 大高坂之郷地検帳　天正15年	

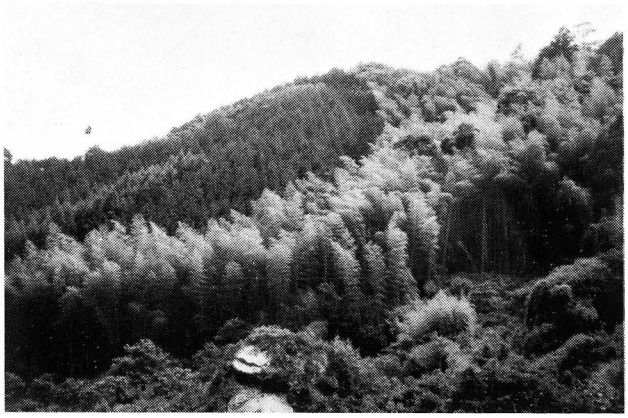
名　　称	32　薊　　野　　城	
所　在　地	高知市薊野	
遺構の状況	現　　状	山腹　山林
	保　存　度	やや良
遺構の特色	詰ノ段西に土塁跡らしいかすかな盛土が見られる。二の段は平坦地のみ残る。西と東尾根に各々一条堀切が残る。 東の堀切は竪堀となっている。	
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 土佐州郡志　巻 20　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻 7, 1　高知県文教協会　（昭34）	

薊野城跡





中央の小高い森の所



北　よ　り

南　よ　り

詰ノ段（東より）

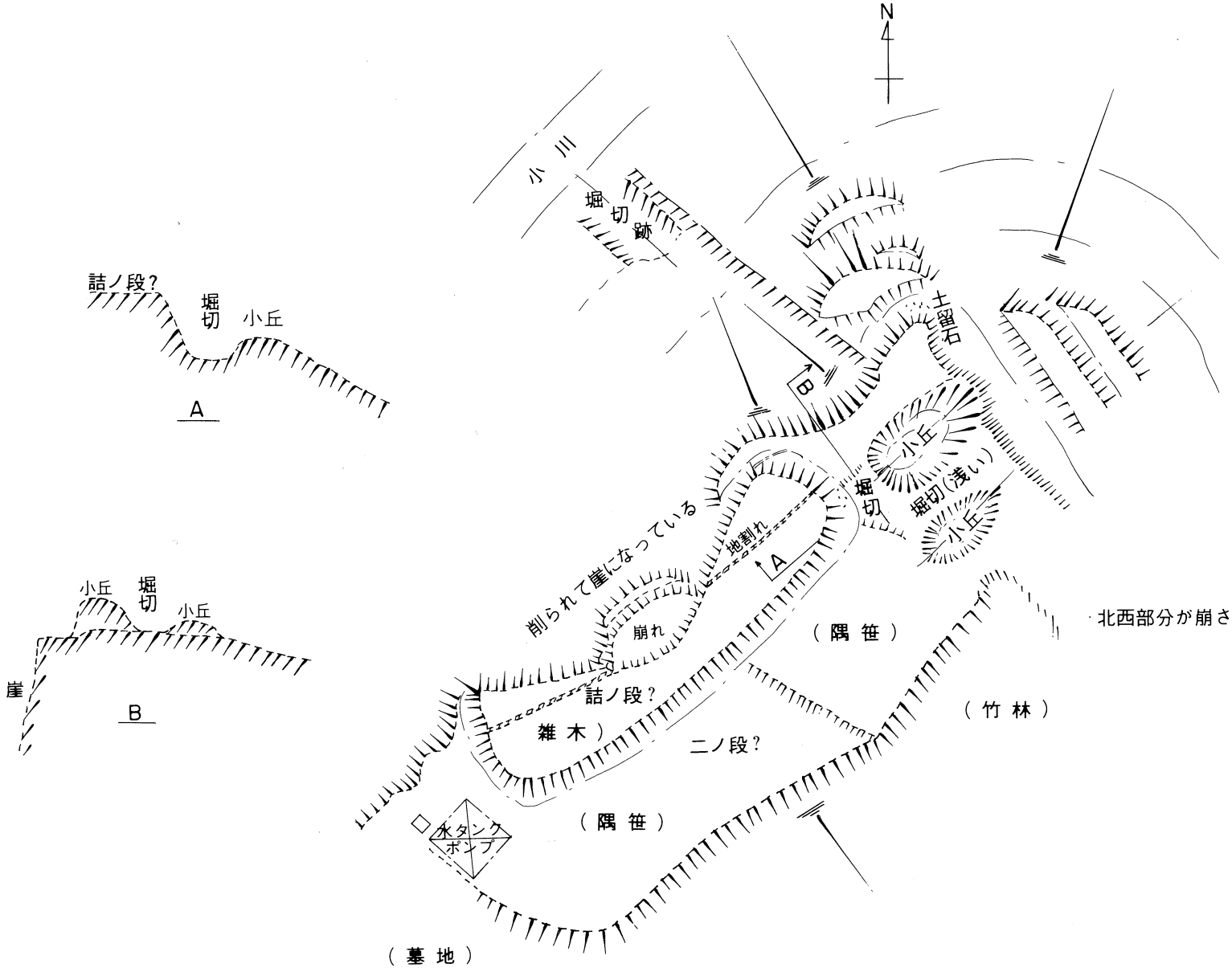
薊野城西尾根に残る堀切（北より）

東南尾根北面竪堀（上より）

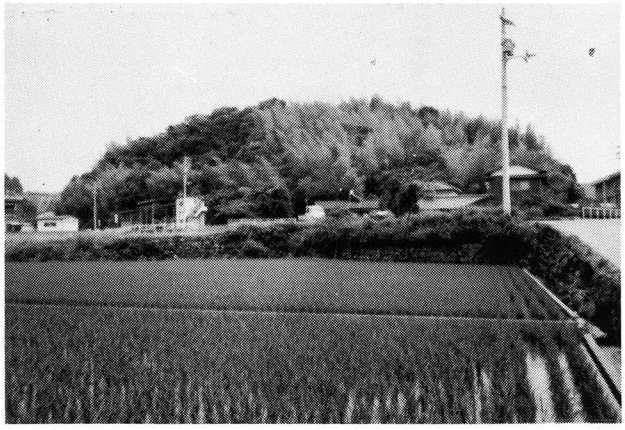
名　　称	33. 一　宮　別　城	
所　在　地	高知市一宮	
遺構の状況	現　　状	霊　園
	保　存　度	消　　滅
遺構の特色		
そ　の　他	久武将監の居城と伝えられる。	
関連文献及び資料		

名　　称	34　一　宮　城	
所　在　地	高知市一宮	
遺構の状況	現　　状	山腹　山林
	保　存　度	消滅
遺構の特色	城跡の一部と思われるところの東側に一ケ所堀切が残っているが、北西側が完全に削られており不明である。堀切の西に削平地が残るがその他の遺構は見当らない。	
そ　の　他	この山の谷がしんどう谷といい、しんどうの城があったとの伝承がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集 13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系 15　新人物往来社　（昭54） 佐伯文書　建武 3, 3, 22　高知県史古代中世史料編（昭52） 土佐州郡志　巻 22　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻 7, 1　高知県文教協会 土佐郡一宮庄地検帳　天正16年	

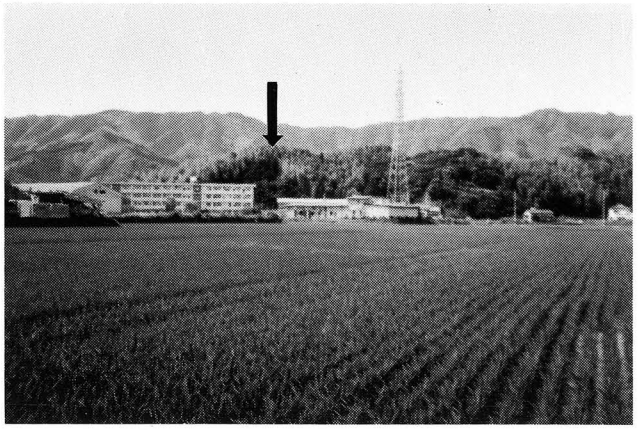
一宮城跡



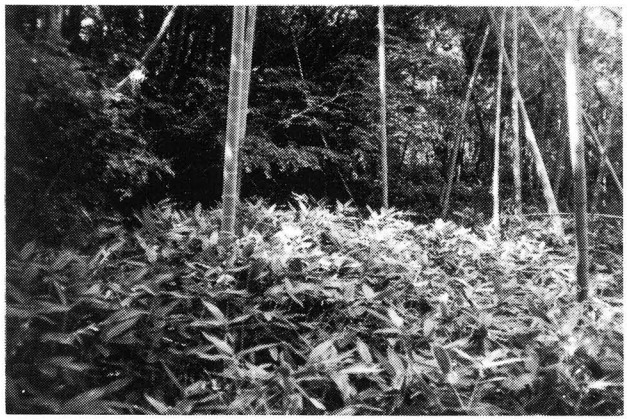
北西部分が崩されており遺構は原状をとどめず



西　よ　り



南　よ　り



二ノ段か（南より）

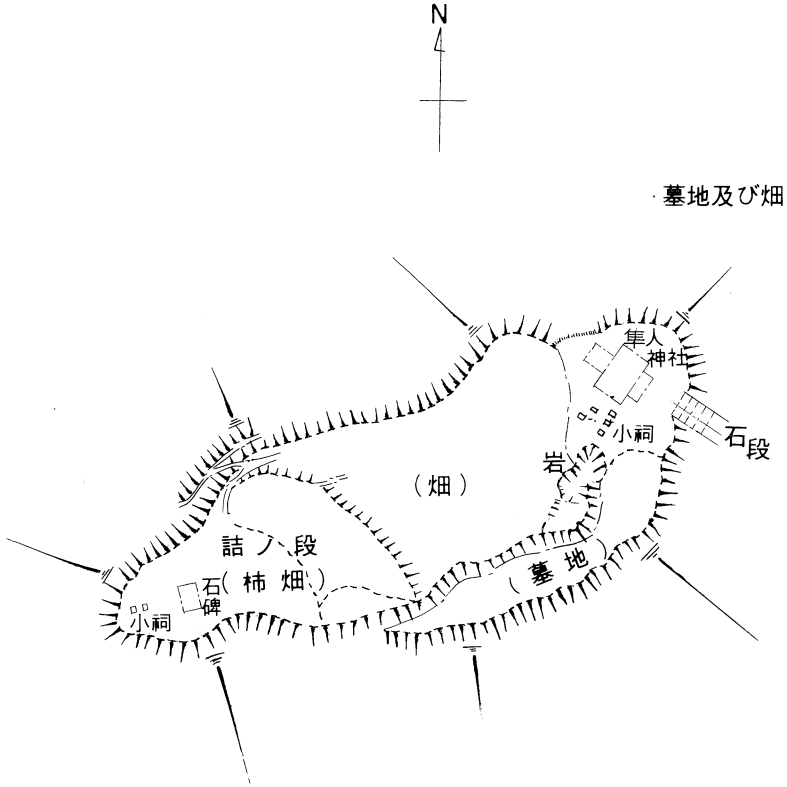
二ノ段？（堀切東より）

堀切（南より）

一宮城跡堀切（西より）

名　　称	35　田　辺　島　城	
所　在　地	高知市大津	
遺構の状況	現　　状	畑・神社境内・墓地
	保　存　度	不良　墓地及び畑地、宅地、遺構は見当らない
遺構の特色		
そ　の　他	城であったこの小山の南側が屋敷跡といわれる。隼人神社に福留隼人を祀る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭和51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂　（昭26） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	

田部島城跡



・墓地及び畑に開墾されており遺構は原状をとどめず

東　よ　り

北　よ　り

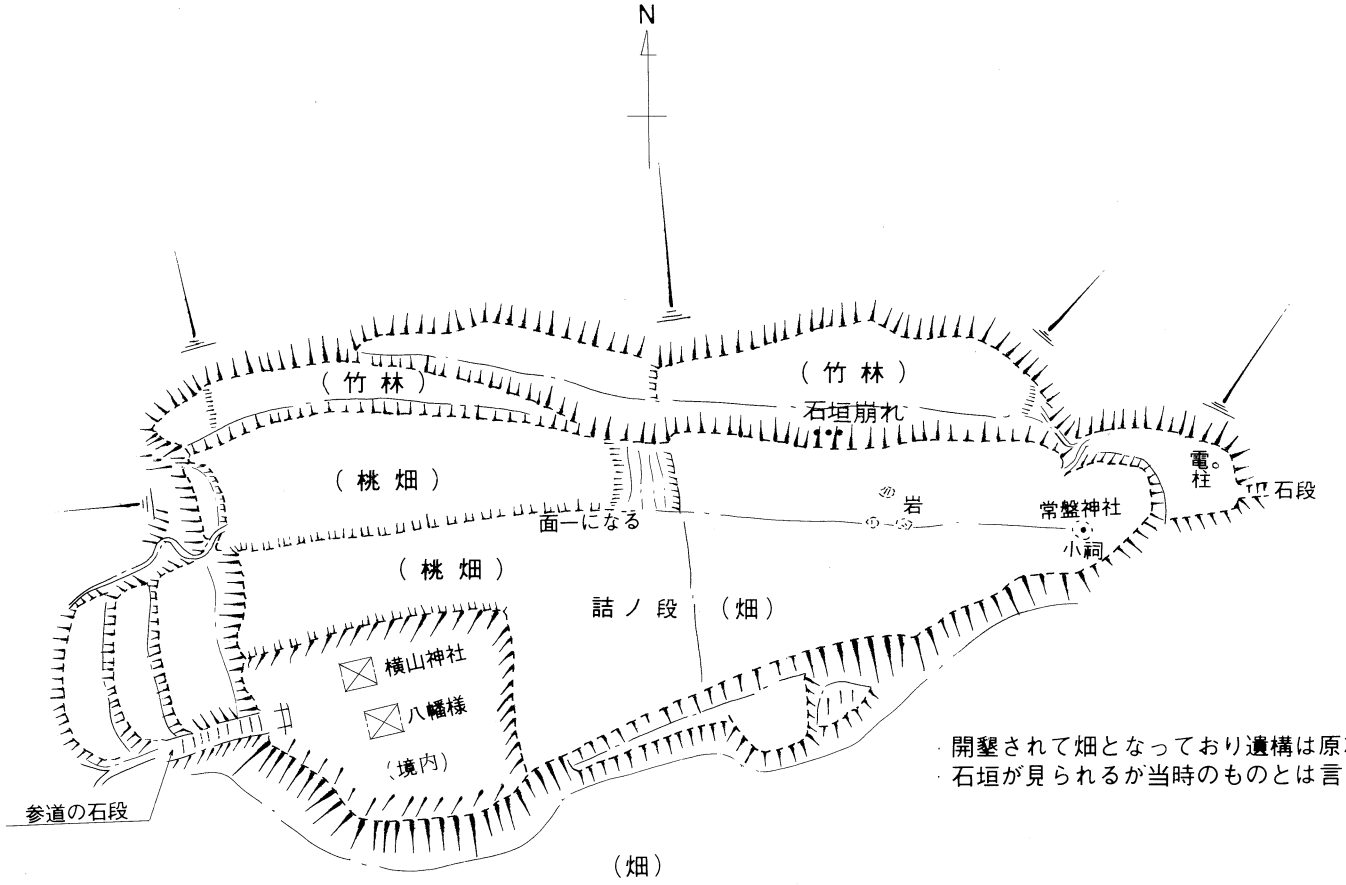
鎌 島 城 跡

東　よ　り

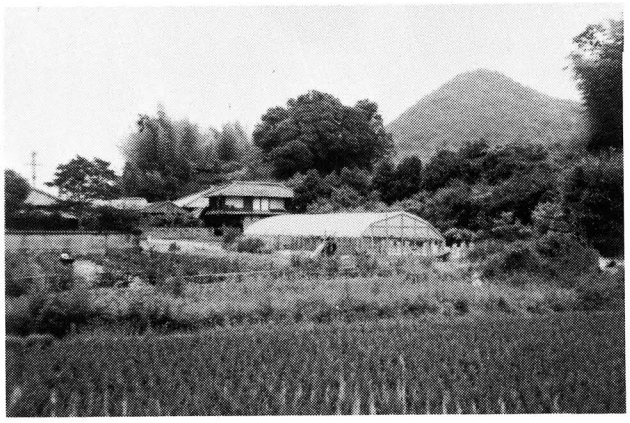
名　　称	36. 鎌　島　城	
所 在 地	高知市介良	
遺構の状況	現　　状	宅地・工場
	保 存 度	消　滅
遺構の特色		
そ の 他	花熊城の出城といわれている。鎌島団地の所が城の前という小字である。	
関連文献及び資料		

名　　称	37　花　熊　城（介良城・横山城）	
所 在 地	高知市介良	
遺構の状況	現　　状	台地　畑・神社境内
	保 存 度	不良　畑地の造成のため遺構が判明しない。詰ノ段らしい平坦地が残る。南には城八幡と横山神社があり、北は畑地である。岸に石垣が残るがこれが当時の城跡関連のものかどうか不明である。
遺構の特色		
そ の 他	芝の土居、西の土居、奥の土居の小字が残る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭24）	
	山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	橋詰延寿　介良風土記　高知県文教協会　（昭48）	
	西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46）	
	土佐国古文叢　741　高知県史古代中世史料編（昭46）	
	土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	
	土佐遺語　巻1　前田和男　（昭47）	
	土佐物語　巻2　国史研究会　（大3）	
	土佐州郡志　巻17　宅間一之　（昭40）	
	南路志　闔国之郡　巻6、1　高知県文教協会　（昭34）	
	土佐国編年紀事略　巻4	
	長岡郡介良庄地検帳　天正16年	
	染付　青磁・備前焼	

花熊城跡（介良城 横山城）



・開墾されて畑となっており遺構は原状をとどめず
・石垣が見られるが当時のものとは言い難い

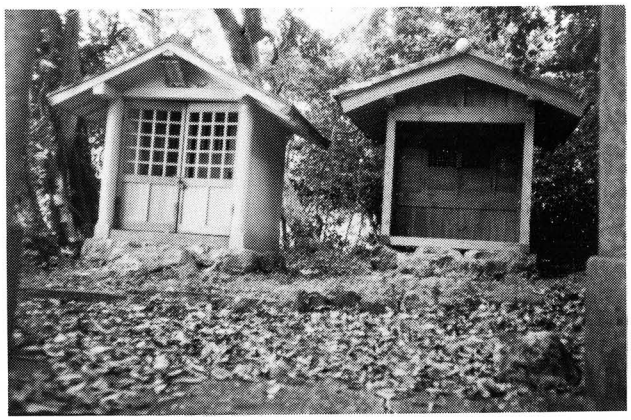


南　よ　り

南　よ　り

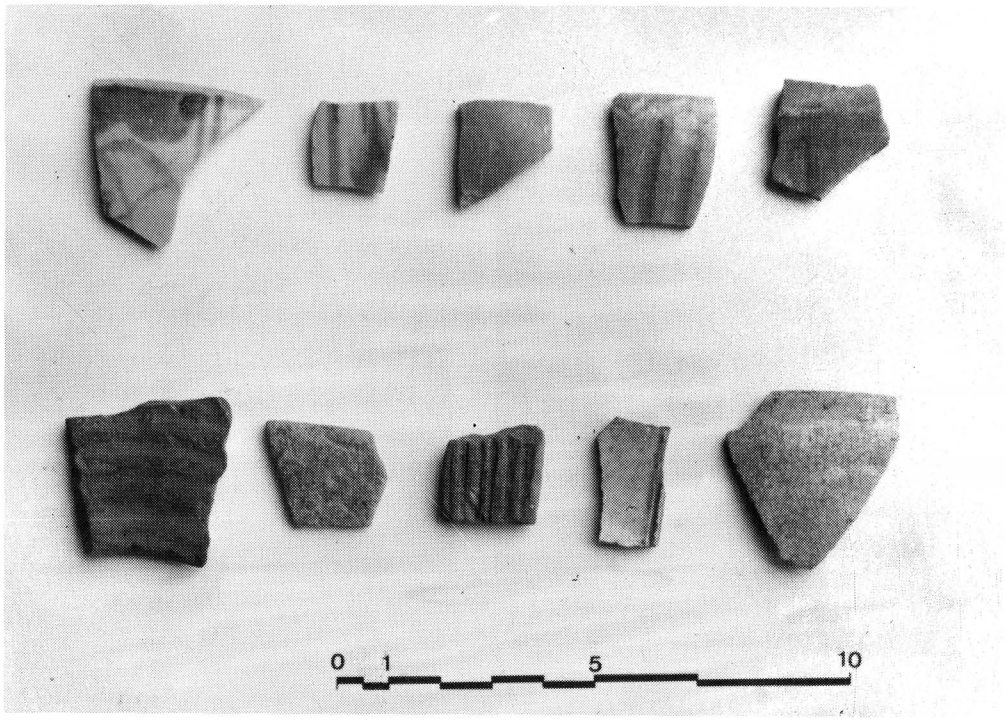
北　西　よ　り

詰ノ段　東より

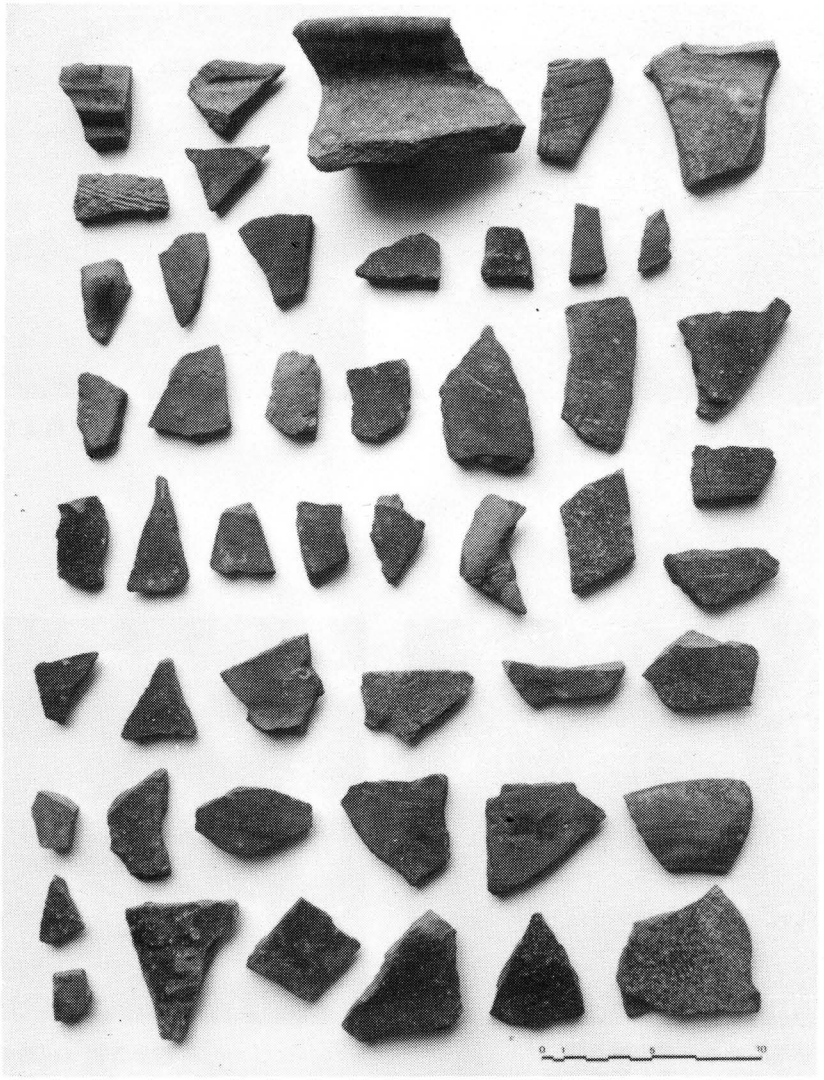


詰ノ段西南にある　右　城八幡
　　左　横山神社

西養寺跡（城跡の南）



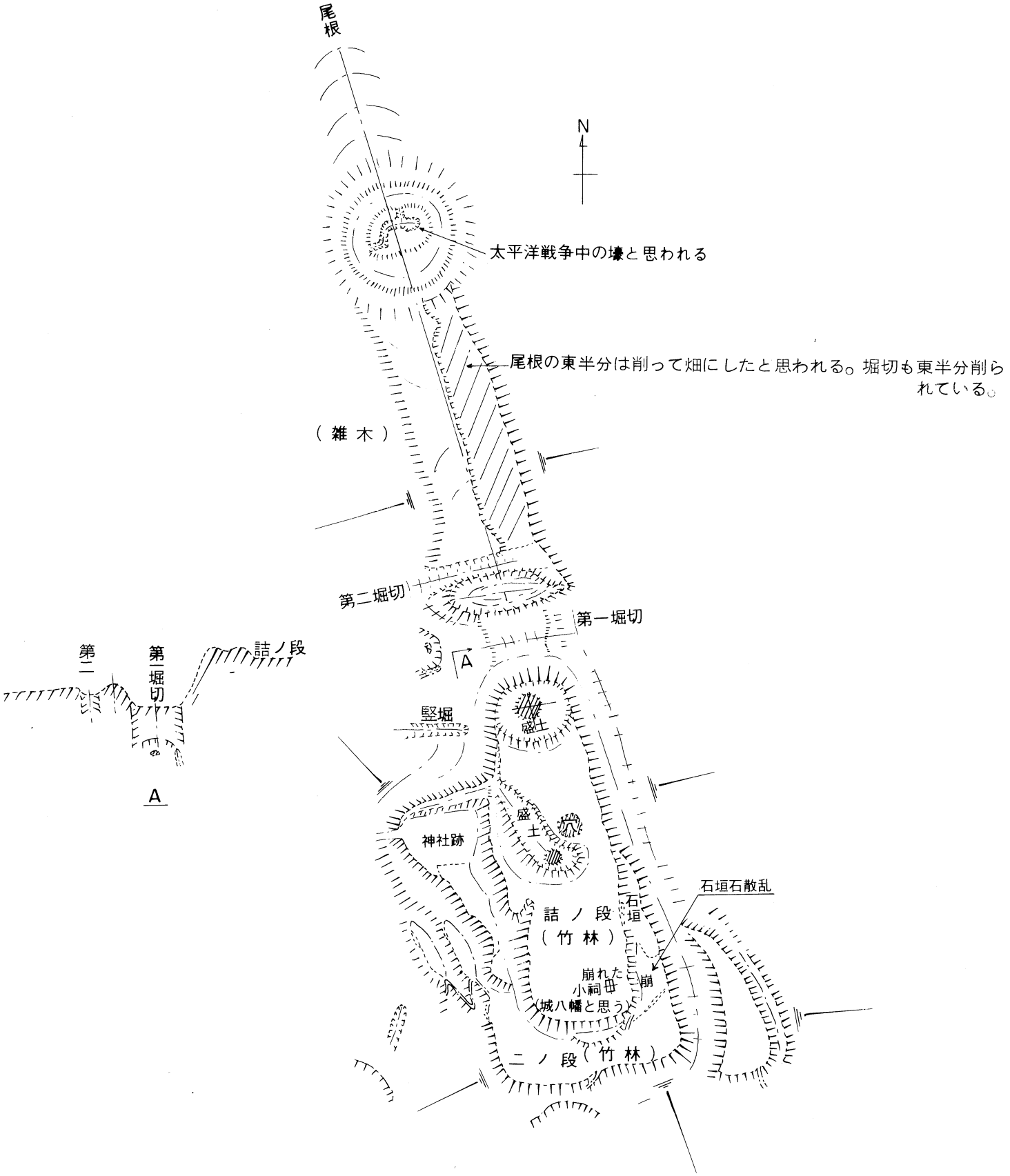
染付・備前・青磁 他

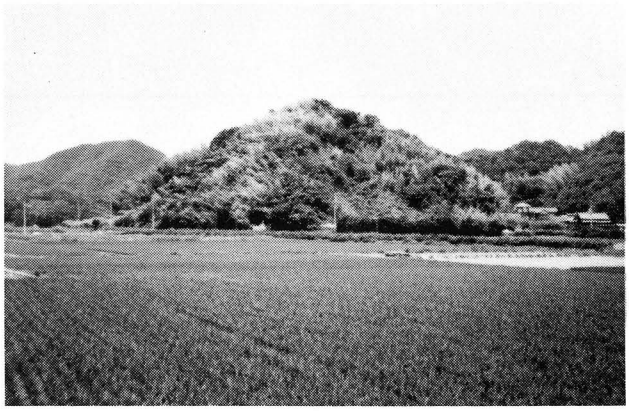


備 前 焼

名　　称	38　池　　城	
所　在　地	高知市池	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林
	保　存　度	畑地造成のため削平されている。尾根の東半分は昔畑にした為か削られている。
遺構の特色	詰ノ段南に小祠が残る。詰ノ段と二の段には若干の石垣が残る。詰ノ段の北には堀切が二条あり、南の堀切は約10mの巾がある。すぐ西下には竪堀が一条下にのびる。北の浅い堀切の東半分はくずされ、尾根の東半分もくずされている。 この城跡は太平洋戦争中に壕などを堀った為に遺構はかなり変化している。	
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐州郡志　巻17　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之郡　巻6、1　高知県文教協会　（昭34） 土佐物語　巻2　国史研究会　（大3）	

池城跡


尾根
N
太平洋戦争中の壕と思われる
尾根の東半分は削って畑にしたと思われる。堀切も東半分削られている。
（雑木）
第二堀切
第一堀切
詰ノ段
第二
第一堀切
A
A
竪堀
盛土
盛土
神社跡
石垣石散乱
詰ノ段
（竹林）
石垣
崩れた
崩
小祠
（城八幡と思う）
二ノ段（竹林）



南　よ　り

東　よ　り

詰ノ段（南より）

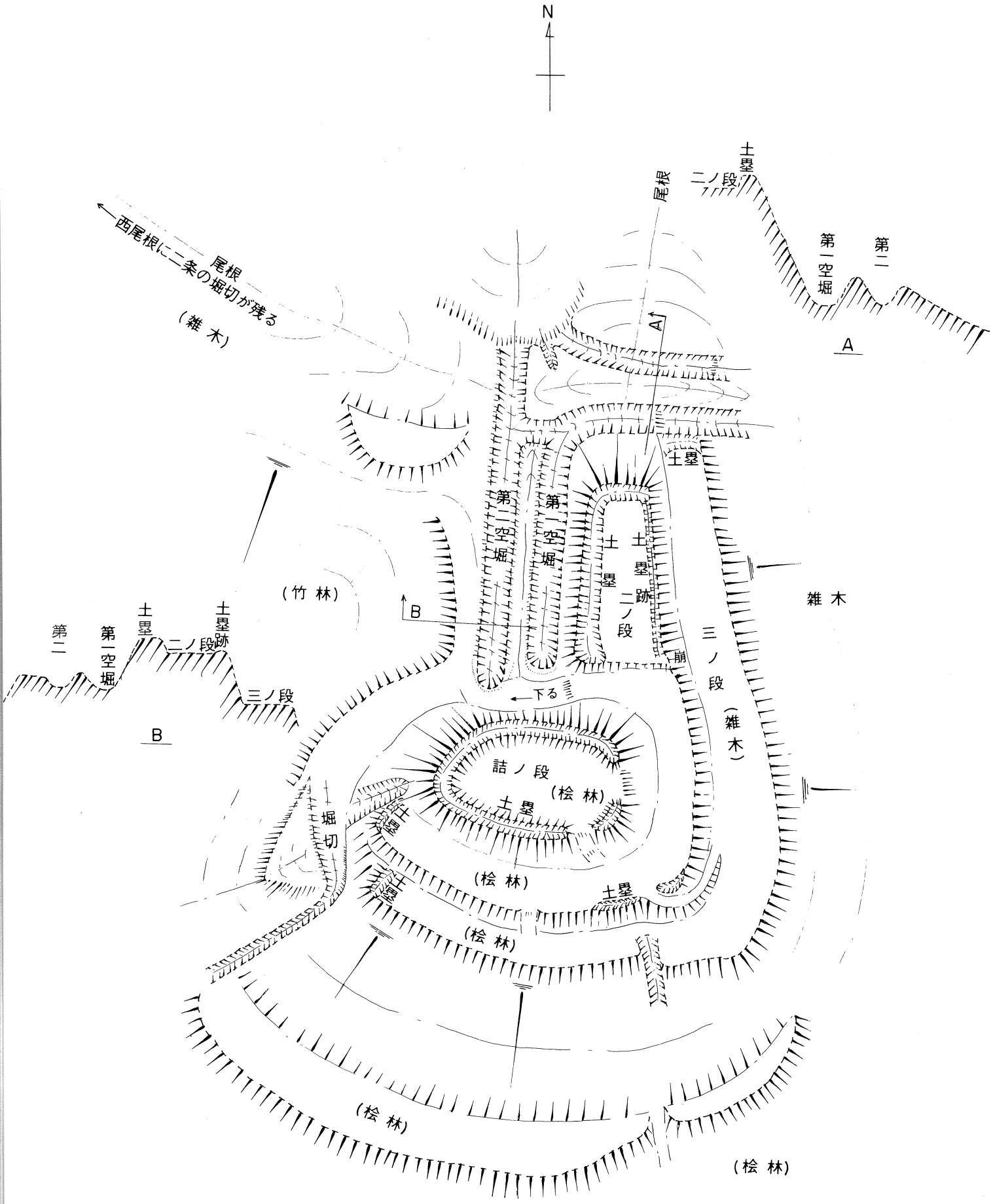
詰ノ段東の石垣

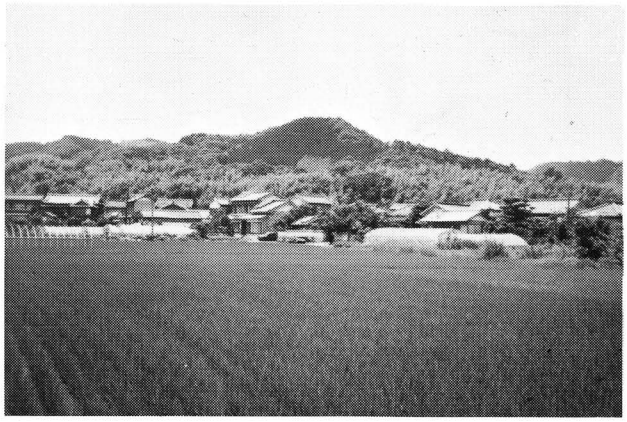
二ノ段東下郭（南より）

詰ノ段北に残る盛土

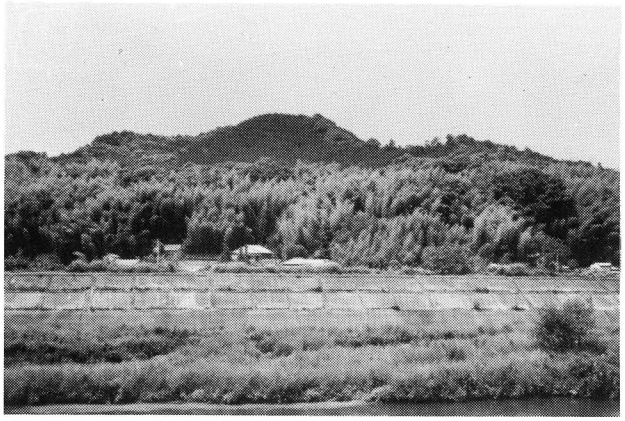
名　　称	39　布師田金山城	
所 在 地	高知市布師田	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林
	保 存 度	良
遺構の特色	最頂部詰ノ段の周囲に土塁があり、北二ノ段にも土塁が残る。西下には二条の空堀があり、やがて竪堀となる。二の段、三の段は南北に細長い郭である。	
そ の 他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	
	土佐州郡志　巻22　宅間一之　（昭40）	
	南路志　闔国之部　巻7、1　高知県文教協会　（昭34）	
	土佐遺語　巻1　前田和男　（昭47）	
	土佐物語　巻2　国史研究会　（大3）	

布師田金山城跡

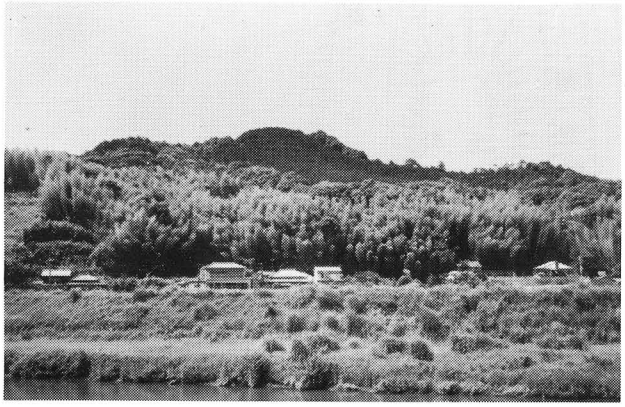

N
土塁
二ノ段
尾根
第一空堀
第二
A
西尾根に二条の堀切が残る
尾根
(雑木)
第二空堀
第一空堀
土塁
土塁跡
二ノ段
(竹林)
B
雑木
三ノ段
(雑木)
崩
下る
第二
第一空堀
土塁
二ノ段
土塁跡
三ノ段
B
詰ノ段
(桧林)
土塁
堀切
(桧林)
土塁
(桧林)
(桧林)
(桧林)



布師田八頭城跡より



南　よ　り



南　よ　り

西尾根に残る第２堀切（南より）

尾根第２堀切（北より）

尾根第１堀切（南より）

詰北西下通路（下より）

第１空堀（南より）　右上は二ノ段土塁

二ノ段土塁（南西より）　左手は土塁

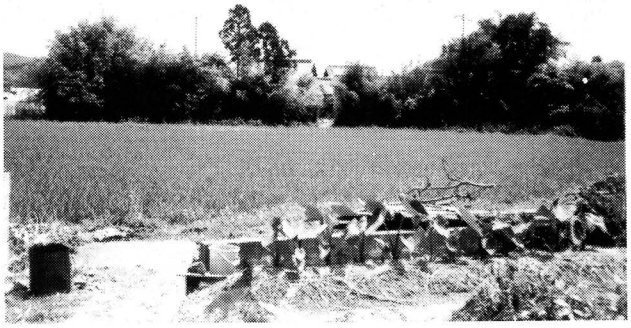
二ノ段（南東より）

追手方面（詰ノ段搦手より）
左右に土塁が見える

追手（詰より）

名　　称	40　布師田八頭城	
所　在　地	高知市布師田	
遺構の状況	現　　状	平地　畑・宅地・田
	保　存　度	消滅　遺構は見当らない。
遺構の特色		
そ　の　他		
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 土佐郡布師田村地検帳　天正16年	

南　よ　り



土居屋敷跡より

南　堀　部

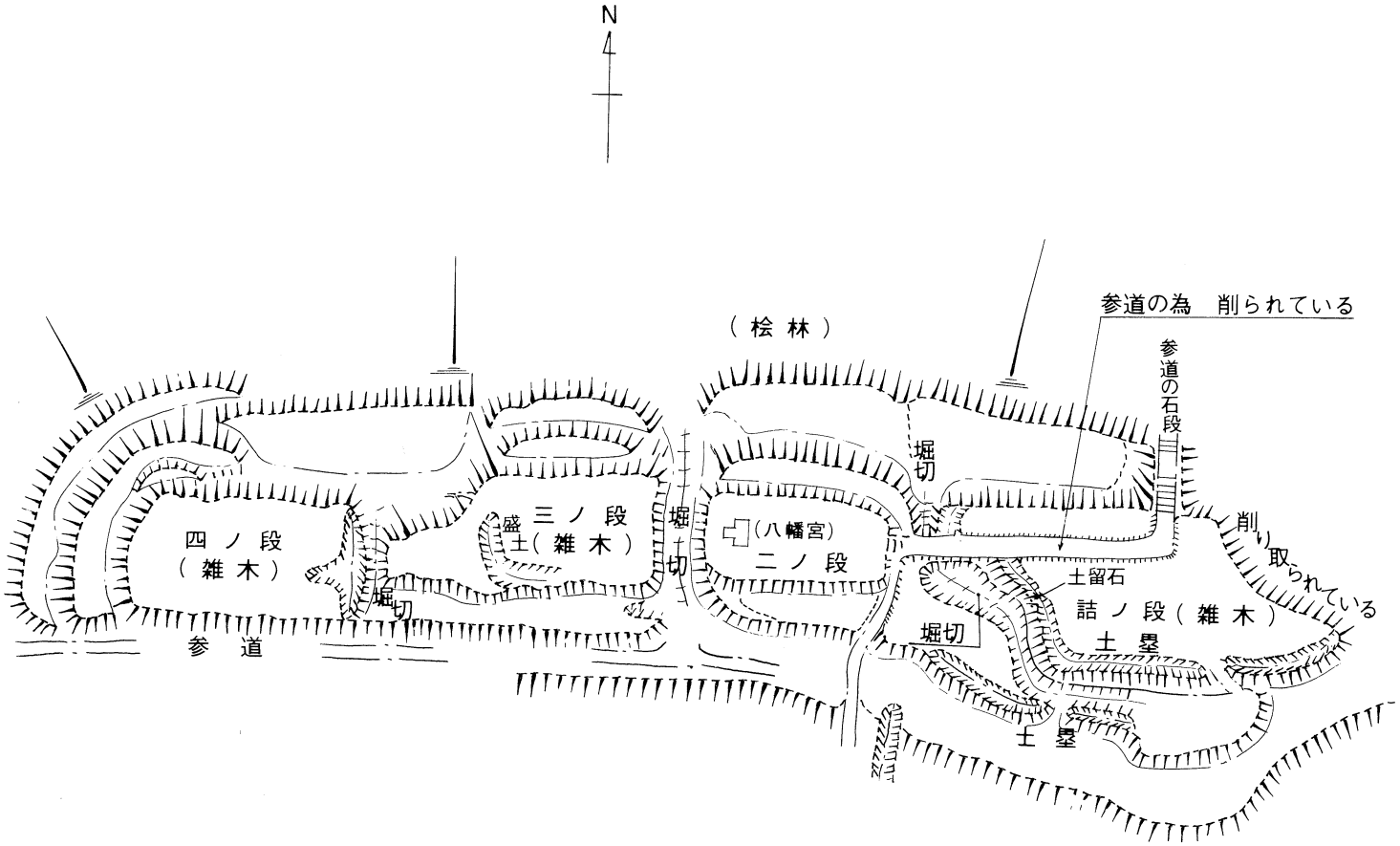
堀　　部

堀のライン

土居屋敷跡（西より）

名　　称	41　大　津　城（天竺城）	
所 在 地	高知市大津	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・神社境内
	保 存 度	不良　詰ノ段北側は削られ、周辺は宅地化と電車軌道や国道、神社の石段などがある。
遺構の特色	詰ノ段南と西に土塁が残り、二の段に城八幡を祀る。詰ノ段と二の段の間にも堀切がある。三の段は平坦地が残り二の段との間は堀切で仕切られている。詰ノ段南下も堀切と土塁が残り、詰ノ段の土塁には土留石もある。南斜面各部には削平地が残る。城山と南の高天原山との間は広い堀切で仕切られている。三の段と四の段との間も浅い堀切で仕切られ、三の段にかすかな土塁跡が残る。又、詰ノ段の穴は後年城床の井戸を求めて金品目当に堀ったものと伝えられる。	
そ の 他	関は天竺右近の家来の市川〇〇が造って城の下に馬が通る道をつくり毎日警備したという。かつては入海が城の回りを囲んでいた。電車軌道造成にあたって右近の墓がかかるので現在の山麓へ移転したという。その時壺や刀が出土したと伝えられる。なお、一条の支配の時代があり現在も一条橋の名が残る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 高知県史上　高知県史編纂会　（昭26） 大津村史　大津村　（昭33） 西山晴視　土佐の古城　高知新聞社　（昭46） 野島竜馬　大津天竺城落城と越智族史料　「土佐史談」86号 前田和男　大津城について　「土佐史談」　159号 佐伯文書　文明10. 8. 23　高知県史古代中世史料編（昭52） 土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館 土佐古城伝承記　皆山集2　（昭50） 土佐州郡志　巻17　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻6、2　高知県文教協会　（昭34） 土佐遺語　巻1　前田和男　（昭47） 土佐物語　巻2　国史研究会　（大3） 土佐国編年紀事略　巻4 長岡郡大津郷上分地検帳　天正16年	

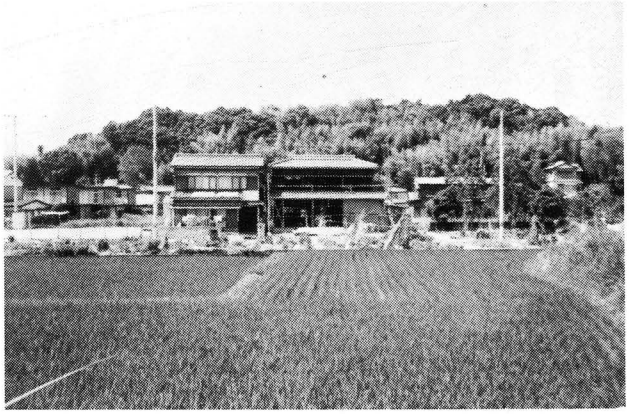
大津城跡



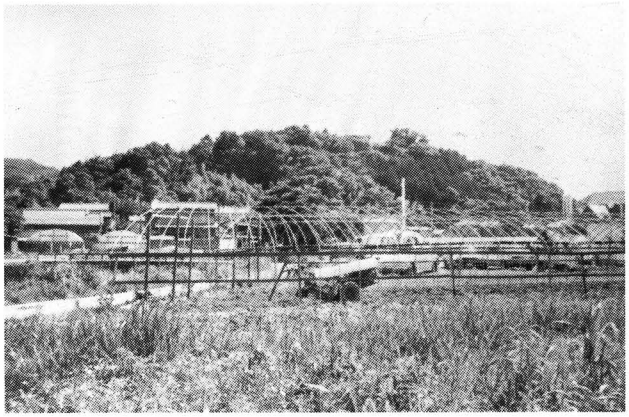
南面には階段状地形が続く

東　よ　り

東　よ　り

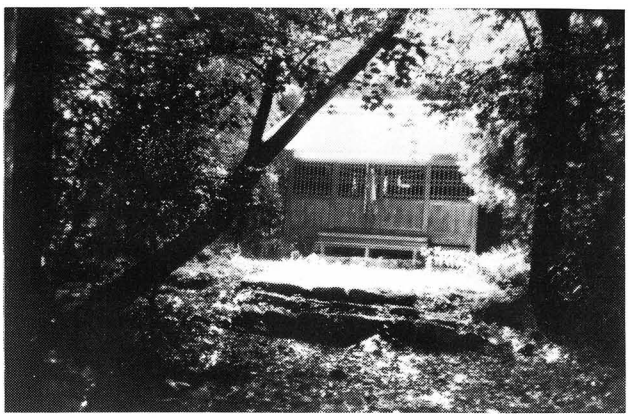


南　よ　り



北　よ　り

詰ノ段南土塁切れ目

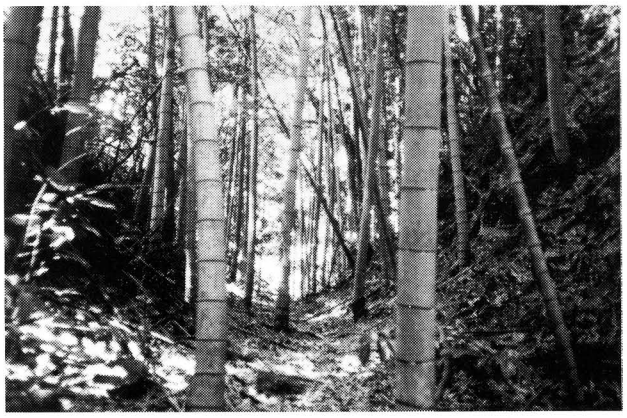


城　八　幡　宮

詰ノ段（東より）　左手は土塁

詰南空堀（東より）　右上が詰ノ段
左が土塁

詰南空堀（西より）



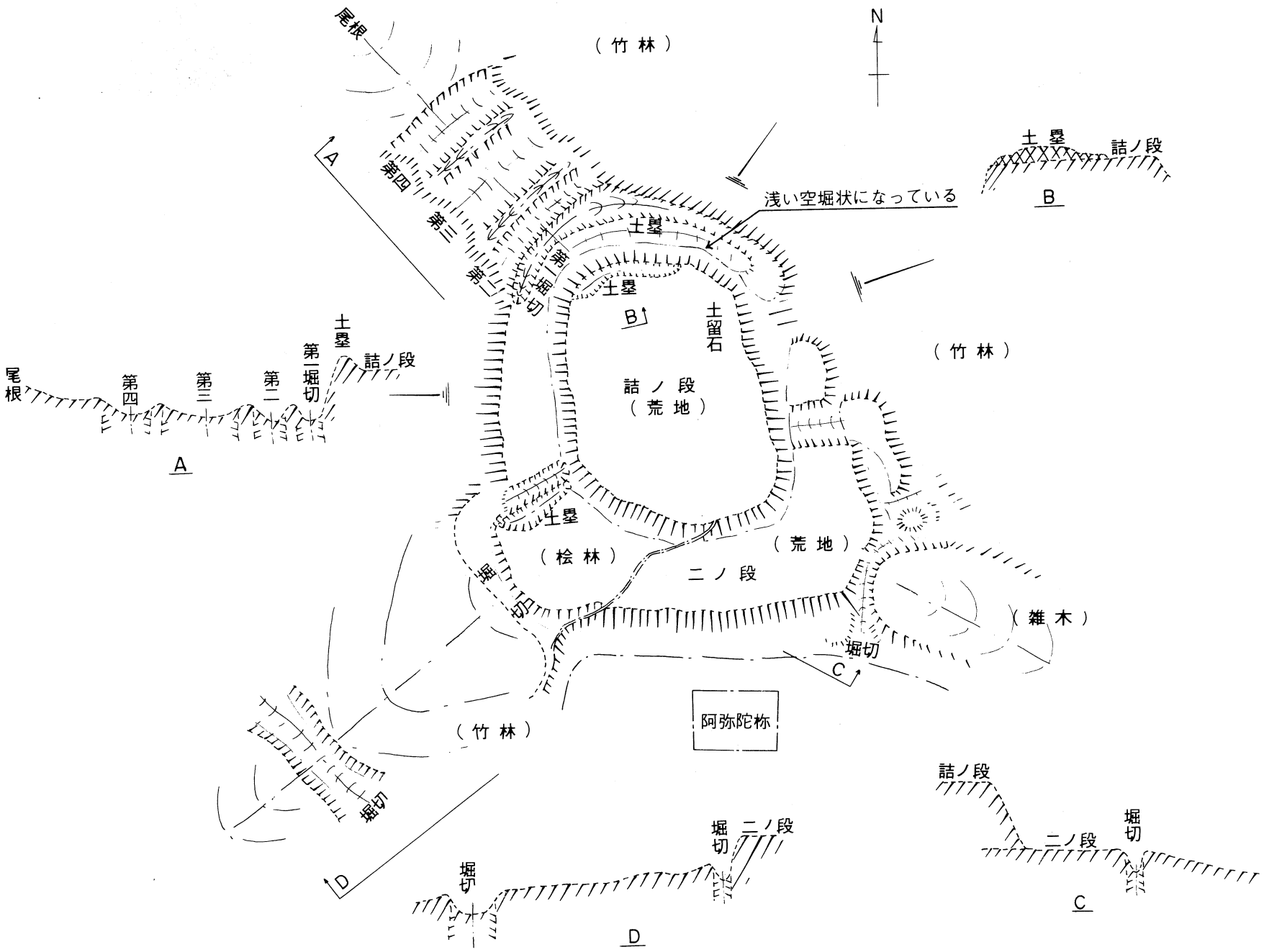
西郭堀切（南より）

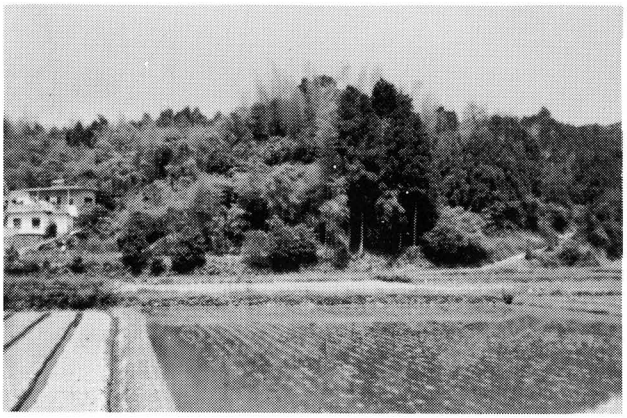
西郭堀切（北より）
左手上が城八幡の段になる

南尾根に残る堀切（西より）

名　　称	42　久　礼　野　城	
所　在　地	高知市久礼野	
遺構の状況	現　　状	山頂　山林・畑
	保　存　度	やゝ良　畑地となり変化がみられる。
遺構の特色	詰ノ段は畑で平坦地が残り西隅には土塁跡らしい盛土がある。二の段は詰ノ段の南にあり周囲に堀切がある。	
そ　の　他	スミヤシキ、ナモトヤシキの小字がある。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51） 橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42） 山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54） 土佐州郡志　巻22　宅間一之　（昭40） 南路志　闔国之部　巻７、１　高知県文教協会　（昭34） 備前・青磁	

久礼野城跡


N
尾根
（竹林）
A
第四
第三
第二
第一堀切
土墨
詰ノ段
浅い空堀状になっている
土墨
詰ノ段
B
土墨
B
土留石
詰ノ段
（荒地）
（竹林）
尾根
第四
第三
第二
第一
第二堀切
土墨
詰ノ段
A
土墨
（桧林）
（荒地）
二ノ段
第一堀切
（雑木）
堀切
C
阿弥陀祠
（竹林）
堀切
詰ノ段
堀切
二ノ段
堀切
二ノ段
堀切
C
D
D



南 東 よ り

南 東 よ り

詰ノ段（南より）

二ノ段西堀切（北より）
左手が二ノ段

西尾根に残る第１堀切（南より）

西尾根第４堀切（南より）

備前・青磁（久礼野城跡）

名　　称	円　行　寺　城	
所 在 地	不　　明	
遺構の状況	現　　状	
	保 存 度	
遺構の特色		
そ の 他	土居の小字があるが、周辺に遺構はない。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	土佐州郡志　巻20　宅間一之　（昭40）	
	南路志　闔国之部　巻 7，1　高知県文教協会　（昭34）	

名　　称	尾　　立　　城	
所 在 地	不　　明	
遺構の状況	現　　状	
	保 存 度	
遺構の特色		
そ の 他	高知市尾立に土居屋敷の小字が残る。	
関連文献及び資料	宮地森城　土佐国古城略史　青楓会（昭10）土佐史談会（昭51）	
	橋詰延寿他　日本城郭全集13　人物往来社　（昭42）	
	山本　大他　日本城郭大系15　新人物往来社　（昭54）	
	高知県史上　高知県史編纂会　（昭26）	
	土佐国古城記　（天保13）　高知県立図書館	
	南路志　闔国之部　巻7，4　高知県文教協会　（昭34）	

其の他の城跡

岩屋城 …… 場所不明

一宮古城 …… 城主不明。現在は山林となり尾根に一条の堀切と削平地が残っている。

池別城 …… 桜田古城として土佐州郡志に出てくる。池城の北に位置しており物見の砦である。尾根に一条の堀切と削平地が残っている。

媄ケ峰城 …… 秦泉寺城の出城といわれている。秦泉寺と薊野境にある墓地山と思われるが何も残っていない。土佐州郡志には目見ノ峯と出てくる。

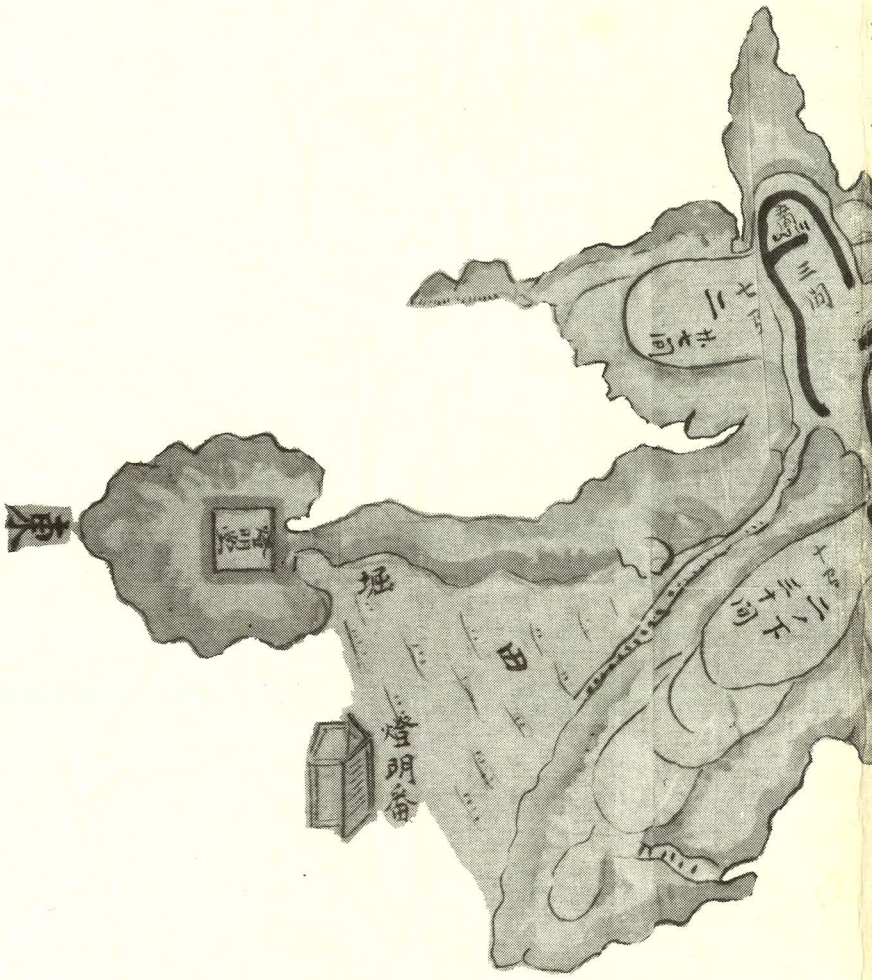
高知市の城跡

高知市文化財調査報告書 第4集

1984年（昭和59年）2月29日

発行　高知市教育委員会

印刷　近森謄写堂



三間
七間
十間
二十三間
堀
田
燈明番